



棄権は危険

戦争に向けた動きをとめよう

戦争を招いたのは
無関心で善良なひとびと

2016. 6

星 屑

目 次

まえがき

第1章 戦争反対というのは無責任なのか？

第2章 戦争に向けた動きをとめよう

日本の軍隊がしたこと——1945年の大敗戦——

第3章 自民党政権はドイツのナチス・ヒットラーのしたことを真似している

第4章 集団的自衛権の推進は国際ルールの誤解に基づいている

第5章 自民党政権の思考原理を推測する

参考文献

(なお、これらの文の元の原稿を <http://www.geocities.jp/hoshikuzu2016/>からWordで無料でダウンロードすることができます。)

まえがき

2006年9月に安倍政権になった後、われわれの年代から見ると「戦争をしたくてしょうがない」としか見えない言動が出てきました。2012年に再び安倍晋三が首相となり第2次安倍政権になると一層、軍国主義的な言動が増えてきました。（*1）

1945年までの戦争が遠い過去の過去のことになっている若いみなさん（*2）には想像もできないことだろうとは思いますが、でも、とても危険な、戦争を招きそうな事象がすでに起きているのです。戦争がどんなに悲惨なものをみなさんに伝え、戦争に向けた動きをちょっとでも感じたらそれをみなさんにお知らせすることがわれわれの役目だと思っています。われわれの予想の間違い、とりこし苦勞であってほしいと心から願っています。しかし、悪い方に流れたら戦争になってしまう可能性も高いし、戦争まで行かなくても自由を束縛されて、言いたいことも言えない社会、ちょっとでも政府や軍に逆らうと調査、監視を受ける社会、もしかしたらすぐに逮捕されたり、暗殺されてしまう社会になってしまう可能性も高いと思います。（軍国主義、全体主義、国家主義の社会）

この本は、それまでは政治的なことを避けていた科学者が急いで沢山の本文を読んで勉強して思い切って書いてみたものです。そのいい面は、おそらく、難しい専門用語を使っていないので、政治・社会に不慣れなみなさんにも理解できるな分かりやすい文章になっているのではないかと思います。筆者は理系で、国際協力や国際協定の交渉の経験も豊富です。この本を外国語に翻訳すれば外国人にも理解できる書き方になっているはずで、これからの日本は世界から理解される言動をしていかなければ成り立ちません。

本の題名もいろいろ考えたのですが、分かりやすい単語で、目に触れた時に「あれ？」と思って手を伸ばしていただけるような題名にしました。アマゾンで検索しても同名の本はなかったのでいいと思ったのですが、この名前ですら普通に検索すると多くの項目が出てきてびっくりしました。おなじ思いのかたがたが大勢おられることに安心しました。

2年前に第2章の文を書いたのが始まりで、その後修正したり書き加えた文をまとめたのが、この本です。独立の文として書いた5つの文章を、それぞれ第1章～第5章としてまとめたので、重複したところもあります。最初に読んでいただきたいものを第1章にしました。

読者のみなさんを説得しようなどとは思っていません。これからの世界は若いみなさんが作っていくものだから。ですが過去の悲惨なことを繰り返すのはなんとしても避けてほしいと思います。

もちろん、戦争を望んでいる人などはいないと思いますが（*3）、それでも社会が全体として個々人の望まない方向に動く（戦争が起こる）ということは歴史上、何回も繰り返されてきました。それが人類の悲しい特性だと考えて、そういうマイナスの面を出さないようにはどうした

らいいかを考え出すことを若いみなさんに期待しています。

ここに書いた文章が戦争反対に役立つならば、全部でも、部分的にでも、自由に使ってください。

いいと思ったら、この本を無料で読める下記の3つの方法をこの知人、友人の多くの方々に教えて読者を増やしてください。

1. 楽天Koboo で「棄権は危険」で検索 (近日中に載る予定)
2. このURL (<http://p.booklog.jp/book/107577/read>) あるいは
3. <http://www.geocities.jp/hoshikuzu2016/> 3. ではWordで章ごとに閲覧、ダウンロードができます。

2016. 6. 星 屑

(※1) 満州で細菌兵器の開発や人間を麻酔もかけず生きたまま解剖するなどの残虐非道を重ねた731部隊を想像させる731の番号を付けた自衛隊の戦闘機の操縦席に得意顔で座った首相の写真が新聞に載ったり、2015年3月には国会で自衛隊のことを「わが軍」と発言したり、2006年より前には想像もできなかったような、そして、われわれの年代にとっては血が凍りつくようなことが立て続けに起こっています。特定秘密保護法だけでなく戦争関連法案を強行採決し、メディアには電波を止めるぞと言う脅しをかけたり、軍国主義の一部分はすでに現れています。2016年6月には学校の先生の私的活動の発言についてあらかじめ教育委員会から注意されたという新聞報道もありました。

(※2) この本では、筆者(1944年生まれ、72歳)より若い方を「若いみなさん」と書いています。50代、60代のかたがたも、この本では「若いみなさん」です。筆者より1、2年若い年代のひとはもう1945年までの戦争の記憶、経験がほとんどないようです。

(※3) 「戦争を望むひとなどいない」と信じたいのですが、自分たちの言動が明らかに(歴史の事実として何回も実証されているように)戦争につながるということを判断できない人や、不勉強でそういうことも知らない政治家が沢山います。また、悲しいことに戦争を望む人も実際にいるのです。戦争をすれば地雷やロケットや大砲、戦闘機、軍艦などの軍需品が売れて儲かる人たち、そういう会社の株主たちです。軍需関係の人は沢山いますし、産業としても政治的な勢力としても大きな力を持っています。彼らは巧妙にいろいろと工夫して世界のどこかで戦争を起こそうと、ひとびとを騙し、そそのかしているにちがいません。人を殺して金を儲けようとしているのです。

第1章 戦争反対というのは無責任なのか？

第1章 戦争反対というのは無責任なのか？

筆者は、どんなことがあっても戦争を避けるべきだと考えています。最近、政府は状況が変わったから戦争に備える必要があるといい、多くのみなさんがもっともだ、と考えているように感じます。それで本当にいいのでしょうか。

以下にできるだけ短く筆者の考えを書きました。ぜひ読んでください。

(2016.5 追記)

どのように書いたら自分の心配をみなさんに伝えることができるのかと思いつつ、いくつかの文章を書いてきましたが、ようやくたどり着いた文です。

まず、どんな政策でも採用するかしないかは、その政策のプラス面とマイナス面を比較して決めるべきです。

この観点から、現政権が進めている戦争準備の政策についてプラス面とマイナス面を比較してみましょう。(平和のためだ、と言っていますが、いままでのすべての戦争が平和のためと言って開始されたことを忘れることはできません。)

プラス面：もしも外国が日本を攻めてきたときに防げる。(と政権のひとたちは言っています。しかし、*の最後に書いたように戦争準備法案は考えうるリスクの対策とは関係がないと思います。)

マイナス面：(政権の人達はマイナス面については知らん顔です。)日本が軍国主義の時代に逆戻りして、1930年ごろ以降の日本軍が外国(中国や韓国はじめ東南アジアの諸国)でだけでなく日本の国内でも行ってきた残虐、非行が再び起こる可能性がきわめて高い。

実際に、テレビやラジオに電波を止めるぞと言う脅しが行われたり、新聞などメディアが言いたいこと書きたいことを言えない書けない状況にすでになっています。全体主義、国家主義の一部がすでに現れています。

外国に攻められたり占領されるかもしれない可能性や怖さ(*)よりも、自国の、日本の軍隊によって日本国内が暗い軍国主義の社会になる可能性の方が100倍も大きいと思いますし、その恐怖の方がずっと大きいのです。(昔の日本の軍隊が外国や国内で何をしたか、このメモにも簡単に書きましたが、ぜひ図書館などで読んでください。)筆者がこのように恐れる理由は、今の政権のひとびとが過去の日本の軍隊が悪いことをしたとは思っていないからです。日本は国として、過去の日本の軍隊のしたことや、軍国主義の時代に関する総まとめや反省を70年以上たっただけでも、何もしていないのです。反省なしに軍隊(軍隊に類するもの)を作ったら、過去と同じことを繰り返す可能性が非常に高いのです。その行き先は1945年の敗戦です。「終戦」などと言ってごまかしていますが、大敗戦なのです。今の首相や首相をとりまく人々は、われわれが忌み嫌い、最悪だと思っている1930-1945年を「美しい日本」だと思っている人

々なのです。上記のマイナス面と書いたことが今の政権のひとたちにとってはプラス面なのです。もしかすると、いや、ほとんど確実に日本を軍国主義の時代に戻すことこそが安倍政権のひとびとの本当の目標なのだと思います。

経済がいいから（良くもないようですが）とか、一時的な外交とかに目を奪われてはいけません。選挙の時には、今後の日本の将来を任せても大丈夫だろうというひとを選ばなければいけません。

（*）どこかの外国が日本を攻めてくるとおもいますか？北朝鮮のミサイルはあり得るかもしれませんが、それ以外の可能性があるとおもいますか？どこの国が何をもとめて攻めてくるのでしょうか。過去の日本のように自暴自棄になって目的もなく攻めてくるようなバカな国はないとおもいます。（昔の日本は目標を明確にせず、ともかく攻め込んだのです。そのため、いつまでたっても目標達成したという状況が作れず、戦争を終了することが出来なかったのです。）中国も韓国もロシアも、理性を持って判断する力があれば、今の時代に他国に攻め込んでも何も得るものがないことはわかるはずです。そして、北朝鮮からのミサイルに、いま進めている戦争準備が何の役に立つのでしょうか。

（2016. 4. 25 追記）

4月24日の京都と北海道の選挙が終わりました。が、投票率が非常に低いのが心配です。

1945年までの、日本が世界でも前例がないほどの大敗北を味わった戦争も、政治に無関心で善良な庶民のひとびとが招いた戦争だった、という分析もあります。

投票したい人がいない、という状況は分かりますが、棄権することは現政権にYesを言うのと同じ効果を持ちます。工夫して、戦争反対の意思を投票で表明してください。

（最後の手は戦争反対の意思表示として無効票を投じることも考えられます。無効票数が有効票数と同程度になったら意味を持つかもしれません。）

友人、知人たちに上記のように言ってぜひ投票するように勧めてください。

（2016. 2. 追記）

戦争、戦争準備は絶対に避けるべきだとの思いで、この本の5つの章にした文を書いてきましたが、筆者の怖れの根源は戦争の被害だけではないことに気づきました。それは過去の日本の軍隊がどういうことをしたか、という点です。戦争そのものよりも、むしろ、過去の軍隊が国外に限らず国内でも行った非行、残虐の方がもっと恐ろしいのです。その非行について要点だけをこの章に書きました。昔の日本の軍隊が行った非行、残虐をいまだに国として反省、総まとめを行っていません。総まとめすることなしに軍隊を作り（名称を軍としないで国民の目をごまかそうとする可能性が大きいですが）、戦争の準備をすすめることは、過去の日本の軍隊の行った非行、残虐を繰り返すことになる可能性がきわめて高いのです。筆者が戦争反対、戦争準備反対を主張している主な理由はこの点です。

1945年までの数十年間に日本の軍隊が国内、国外でなにをしたか、ということを知らないで、一般的に軍隊を考えると、筆者とは全く違う結論に至るでしょう。でも、現状の日本に「軍」を作ったり、最悪の場合戦争を始めたら、昔の軍国時代に戻る可能性がきわめて高いのです。なによりも現政権は1930～1945年の、われわれが最悪と考えている時代を「美しい日本」と考えている集団なのです。日本に駐留している在日アメリカ軍を見て、あんな軍隊ならば日本にあってもいいだろう、と思うのは大間違いです。（日本で見るとアメリカ軍は、平和のために合理的に動いているように見えますが、イラクやアフガニスタンでは違います。何の罪もない人たちをテロ関係者だと言って無差別殺人を行い、扉を蹴破って人家に踏み込み、あるいは空爆で次々に家やビルを問答無用で破壊しています。無人機による爆撃の90%は誤爆だそうです。何の悪いこともしていないのに爆撃されたひとびとがテロに走るのはみなさんも理解できるでしょう。今も続くテロは米軍などが作り出しているのです。実はそうやって戦争がつづくことを望んでいる集団が世界にいくつも存在するのです。そういう集団の手先にはなりたくありません。）

（ここからが、もとの文「戦争反対というのは無責任なのか」です。）

政府が言っていること： 1) 世界の情勢が変わった。2) いままでは日本は米軍が守ってくれていた。3) いつまでも米国を頼りにしているだけはいけない。4) だから戦争に備えなければいけない。

また、5) 戦争反対だけを言っているのは無責任だ、とも言っています。

まず、5) に対する筆者の考えを書きます。

国を守るのは軍備や戦争準備ではありません。戦争という狂気の状態を事前に回避する叡智（英知）が国を守るのです。戦争が始まってしまったら、その時点で、もうすでに日本は破滅したも同然です。ですから、戦争反対、軍備反対ということは決して無責任なことではありません。筆者は、戦争に備えろということこそ無責任だと思います。

上記の考えの根拠を分かりやすく、簡単に書きます：

1. ベトナムでは戦力で大差を持っていた米軍が負けました。1975年4月には、一緒に戦っていた南ベトナム軍を見捨てて逃げ出したのです。2001年から始まったアフガニスタンの戦争でも世界一の軍事力を持った米国が15年経っても勝てないのです。イラクでも同じです。これらの例を見ても軍事力が日本を守るために有効だと思いますか？

2. ソ連の時代ですが、ソ連はアフガニスタンに攻め込んで現地とは大差のある大きな軍事力で勝てず、国力を疲弊させて、それがソ連崩壊につながりました。米国もアフガニスタンやイラクのために莫大な国費を浪費すると同時に民度（文化レベル）が下がり、トランプ氏のような暴漢が人気を得るまでになっています。（トランプ氏の支持が高いことは、今後共和党だけでなく米

国の恥として歴史に残るだろうと思います。)

3. どの国も、日本の近隣の国々も、上記のことは見えています。他国に攻め込んだら自国がどんなに悲惨になるかを知っています。

4. 上記以外のいろいろを考えても、近隣の国が日本に攻めてくるなどと言うことは、ありえないのです。(1930年代以降に、目的も明確化せず、自暴自棄になって戦争を仕掛けた当時の日本のようなバカな国はありません。自分たちの祖父たちが自暴自棄だったから、他国も同じことをする可能性があると考えているのでしょうか。)

5. 米国の退役軍人の中から毎年7000人も自殺者が出ています。サマワに滞在した自衛隊は一人も殺されなかったし、一人も殺していません。でも、サマワ経験者の中の29人が自殺しました。(*) 戦争がどんなものか、すこしでも分かるでしょう。「世界の平和のために」米国がイラクやアフガニスタンで行っていることは、無差別殺人と家々を空爆で壊すなどの生活の破壊です。サダム・フセインでもこんなひどいことはしなかった、ということ繰り返しています。米国の国家によるテロと言えるのではないのでしょうか。それを日本の自衛隊が出かけて行って支援する必要があると思いますか? 「イラク 米軍兵士 反戦 告白」で検索して本当の状況を見てください。

(*) 米国全体の自殺者は年に約4万人です。この数にも驚きますが、その6分の1の7000人も多数が米国の退役軍人であることには驚くほかありません。それを知りながら戦争を継続していることは、さらなる驚きです。

下記は東京新聞TokyoWebより

<戦闘の心身への影響> 2001年の米中欧同時テロ以降、アフガニスタンとイラクに従軍した米兵延べ280万人のうち、4分の1がPTSDに苦しむ。元米兵でつくる「反戦イラク帰還兵の会」の発表(14年11月)によると、調査した過去2か月の平均自殺者数は1日22人で、65分に1人が自ら命を絶っている計算になる。戦闘に伴う精神的ストレスは、第1次世界大戦で塹壕(ざんごう)戦を経験して以来、問題視されるようになった。

(注) 22人×365日=8030人、上記の年間7000人より多い数です。

6. 日本は細長い地形です。中国やロシア、米国のような「奥地」はありません。どこかの国が本気になったら日本をつぶすのはいとも簡単です。いまでは200kmとどくロケットはどこの国にもあります。海岸から見えない100km沖合いから海岸や日本の奥地をピンポイントで攻撃することは簡単なことです。海岸にある石油備蓄基地、原発、高速道路、新幹線などはもっとも容易なターゲットです。日本の国内を混乱させるのは簡単です。残念ながら、軍事力で日本を守ることは不可能なのです。(いくじのない負け思想だと言われるかもしれませんが、技術的に上記のことに間違いはありません。守れない? じゃあどうしたらいいのだ。答えは簡単です。近隣の諸国と仲良くすればいいのです。中国などを敵視、蔑視するのは明治時代以降の欧米の影

響です。古来の日本は、韓国、中国と仲良くやってきて、何か困ると中国や韓国から先生を呼んで教えてもらっていたのです。)

1) 世界の情勢が変わった？

日本を取り巻く情勢がそんなに変わったのでしょうか。中国や韓国が日本を攻めようと言っていますか？尖閣列島での中国船？ やればできるのに上陸もしていません。過去の戦争での日本軍の残虐な非行をなかったと言ったり、靖国神社に参拝するなど、過去を反省しない言動に対する示威行動です。あれを見て戦争になるかもしれない、と思うのは間違っています。筆者がいろいろな本で勉強したところでは、戦争とはあんなものではありません。

南シナ海での中国の動きは気にはなりますが、日本に向けた動きではありません。

中国や韓国が日本を攻めるとしたら、何を目的に攻めるのですか？その目的は何なのか考えたことはありますか？敵の目的を知らずに守るもくそもありません。筆者は、中国や韓国が日本に攻め入っても何も得るものがないと思います。資源があるわけなし、国土の70%以上は山地で使えない土地だし。人口密度もすでに十分に高くて、外国人が多数移ってきてても住む場所すら十分にはありません。日本のすぐれた工業力をとりたい？ 攻め入って戦争になったら工業力が破壊されることくらい誰でもすぐに分かるでしょう。仮想敵国が攻め込むかもしれないから、と言っているひとに、敵は何を目的に攻めてくるのかを聞いて下さい。その答えが信用できなければ、その人の言うことを信じてはいけません。

どこかのA国が、日本が攻めてくるかもしれないから、その前につぶしておこう、と考える可能性はあります。それに対する対策は？ そうです、日本がA国を攻めるかもしれないというような言動をしないことです。この場合には戦争を避けるには軍備はいらないのです。日本が戦争に備えた言動をすることは逆効果で、日本を危なくするのです。

貿易の競争国だからつぶしてしまえ、という可能性もありえます。でも、それを国の方針として日本を攻めたりしたら、世界からどんな制裁を受けるか、十分に分かっているはずですが、したがって、この理由で近隣の国が日本に攻め入るようなことは決して起こりません。

もしかすると日本に米軍基地があるから、攻めやすい在日基地から攻めよう、ということもあり得ますね。この危険性と、守ってくれているありがたさ（下記のように筆者は、このありがたさは妄想だと思います）と、どちらの方を高く評価するかで、判断が分かります。あなたはどちらがより大きなりスクだと思いますか？

2) いままでは米国が日本を守ってきた？

本当にそうなのでしょうか。中国も韓国も日本を攻めたいと言ったことはありません。逆に1900年代から韓国、中国に日本が攻め込んだのはれっきとした事実なのです。

米国が日本を守ってきたというのは、妄想だと筆者は思います。日本を攻めようという国がないのに、守るとはどういうことなのでしょう。日本に米国の基地が沢山あるのは、米国の世界戦略のためなのです。きちんと資料に基づいて、これを書いた本があります（*）。

（*）仮面の日米同盟 ー米外交機密文書が明かす真実ー 春名幹男 2015 文春新書

米国がどこの国であっても米国以外の国を守るということは、ありえません。他国の為に自国の国費や人命を費やすほどお人よしの米国ではありません。日本は1945年までの戦争で米国が勝ち取った勢力範囲であり、それを他国にとられないように軍事行動するだけです。

2016年3月には、安倍首相は次のようなことを言いました。「北朝鮮のロケットを撃ち落とすために日本海にいる米国の軍艦を守らないと日米同盟にひびが入る。」 → 日本海に米国の軍艦がいて北朝鮮のロケットを監視しているのは日本を守るためではありません。米国の世界戦略の必要があって日本海に米国の軍艦がいるのです。もし守るという言葉を使うとしたら、日本にある米国の基地を守るためです。けっして日本、日本の国民を守るためではありません。守ってもらっているなどと恩に感じる必要はありませんし、それは間違いです。

筆者は科学者でこの数年前までは、こういう政治的なことにはかかわらないようにしてきました。が、これはなにかしなくては、と強く思って、2年間に40冊以上の本を読みました。きっと専門的な用語や言い方をしないで、幅広いみなさんにわかりやすくお話しすることができるだろうと思って、これを書いています。

読んだ本の中に、終戦直後に天皇が頻繁にマッカーサー（占領軍の司令官）を訪問したが、そのときに日本国内の米軍基地を永久に維持するように頼んだと書いてありました。そしてほかの本には戦争中からの天皇の言動をみると、天皇制の維持、自分が天皇であることを維持することが言動の原理だと思うとすべて理解できると書いてありました。この二つを合わせると、日本国内で天皇に対する反乱がおこった時に米軍に制圧してくれと頼んだと勧めることもできます。（*）

上の2点だけで、米国は日本を守っているわけではないことが分かったでしょうか。少なくとも「米軍が日本を守っている」の「日本」が日本国民ではないことだけは確かだと思います。（「日本の政権（政府や大企業）を守る」、あるいは「日本の天皇を守る」、なのです。）

（*）インターネットで調べると、天皇はマッカーサーの部屋に1人でひそかに何回も訪れた。そして、1）共産主義から日本を守ってくれ、そのために米軍基地を永久に維持してくれと頼んだ。2）天皇は皇室の財産リストを持って行って、これで国民を救ってくれと言った。それを聞いたマッカーサーが大感激した。と書いてあります。一度勧ぐってしまうと、この2点は筆者の勧

ぐりを裏付けるものに見えます。共産主義は天皇制を否定します。ですから、共産主義から救ってくれ、というのは実は天皇である自分を守ってくれと言ったに等しいと思います。また財産リストについては、国民の敗戦による被害がそんな程度のものでなかったことは明白だったと思います。天皇がそれほど愚かだったとは思いたくないものです。むしろ昭和天皇は頭脳明晰だったという話が多いのです。皇室の財産リストは自分を助けてくれる代償として出したのではないのでしょうか。

天皇が日本を共産主義から守ってくれ、とマッカーサーに頼んだという話も天皇を反共のために天皇を利用しようとして、あとで作った話ではないのでしょうか。当時は（もしかすると今も）日本の中枢部は共産主義を極端に恐れていたということですから、天皇が共産主義反対だということを示し、そして財産目録まで出して国民の事を心配していたと、天皇を美化するために作った話ではないかと思います。

下衆の勘繰り、と言われるでしょうけれど、なんでも疑って考えることが重要です。とくに我々年代より年上のひとびとは天皇様のなさることは正しい、ありがたい。と最初から思い込むように教育されています。幼い時からの教育を脱却するのはとても難しいのです。（戦後の民主主義教育を受けたわれわれ自身についても同じことで、自分で注意しているつもりです。筆者の考えは、戦争は絶対に避けるべきだ、という点を原点として、科学的な思考方法を使って国際的にも理解してもらえぬ考えであるように努力しています。）

「日本」と言う時に、「日本の国民」なのか、「日本の政府、日本の支配層、権力層」なのかを、いつも区別して、意識して読み、考えることが非常に重要だと思います。筆者の定義では、後者は首相はじめ内閣や国会議員、政治に大きな影響力をもつ大会社の幹部などです。このメモの話題に適した、違う定義をすればしたら、自分は戦争になっても自分が死ぬかもしれないリスクのある場には行かない人たちです。（このように言葉の定義は重要です。このメモでは「国」は国の権力システム、管理システムを指し、その方針を決めているひとびとも「国」の一部です。でも官僚のすべてが「国」という訳でもなく、官僚の中にも政府の方針に個人的には反対の人もいます。ですから簡単に定義することは難しいのですが、上手に読み取ってください。大雑把には、ここで話題としている戦争準備に関することに関しては、「国」と「国民」は対立した存在、と考えています。戦争になった時に死ぬ可能性があるかないかの対立です。）

読者のあなた自身は、上の二つの「日本」のどちらに属していると考えていますか？（**）

前者の「日本の国民」は、もしも戦争になったら、死ぬリスクのある前線などに行く可能性のあるひとびととその家族で、数の上で法律上の日本国民の80～90%を占めていると思います。いまの政権の言っている「国を守る」の中の「国」は「国の政府、国の権力システム」であることを意識してください。

ですから、国を守るために血を流せ、と言っても彼らの中ではまったく矛盾はないのです。血を流すのは自分たち「国の中枢部」ではなく「国民」だからです。恐ろしいことだと筆者は思います。

(**) 上記のように「国」を二つに分けることはけしからん、という言い方もされることがあります。しかし、そのように言うひとびとこそが、二つに分けて考えているのです。まず、戦争に行く人たち（「国民」）と戦争の前線には行かない自分たち（「国」、「上層部」）との2つに分けて考えているのです。自分たちや自分たちの家族は戦争、とくに殺される可能性のある前線には行かないと分かっているから戦争を起こせるのです。そして、「国」を守るための戦争準備を進めている側は、特定秘密保護法の成立以降、反対する人々を無断で調査したりしています。

1945年の敗戦時に国会が召集されましたが、議員の欠員が問題になることもなく、国会を実質的に支える官僚がいなくて国会が困ることもありませんでした。国の中枢部の議員や官僚は戦争には行かないで済むというなよりの証拠です。

戦争に向けた行動の恐ろしい点は、国外に仮想敵国を作るだけでなく、国内に「敵グループ・反対派」を区別して敵に対すると同じような対処行動をとり、圧力をかけることです。これはすでに国内で起こっています。彼らこそ、自分たちに従う人々か、反対する人々か、によって国内を二分しているのです。（「国」に従わない「国民」は人として扱う必要はない、と区別しています。そうでなければ、おなじ日本人に対して、あのような乱暴な行動をとれるはずがありません。武器も何も持っていない人を海中に突き落とすなど、あきらかに犯罪です。「国」による犯罪です。これと同じ考え方が、周辺の国々のひとびとに残虐行動を働き、1945年のあの恐ろしい大敗戦を招いたという事実を忘れてはなりません。）

日本に軍隊を作ってはいけない理由

現政権は2015年3月に首相が自衛隊の事を「わが軍」と国会で(!)発言しました。その後あわてて取り消していますが、現政権のひとびとが「軍」を作りたいと強く思っていることが確認できたと思います。

軍隊がないのは「国」ではない、あるいは、一流国ではない、大国ではない、という言い方に、そうかもしれない、と思う人も多いでしょう。また、自分で自国を守れないのでは独立国ではない、という言い方もされています。

筆者は、一般的な考え方（軍隊がないのは国ではない、というような考え方）の良し悪しとは別個に、日本特有の事情による判断があると思っています。それは、過去の日本軍がどのようなことをしたか、という事実です。ひとつひとつを書くと長くなって、この文で言いたいことが何な

のか分からなくなるので、個別のことは後に別記します。

日本の軍隊は、1900年以降、韓国や中国に侵攻しました。はじめの内は西欧や米国などもアジアの諸国を侵略していたので、国際的な趨勢にしたがって、と言う面があったと思います。しかし、昭和の時代に入ると（1925年以降）、国内でも国外でも日本軍は乱暴狼藉のかぎりをつくす国立暴力団になってしまいました。

国内では、軍の意向に反対する有力者や大臣を次々に暗殺しました。2・26事件では、陸軍の青年将校たちが反乱を起こしたのですが、陸軍大臣は「自分の部下に、自分の部下を撃てとは言えない。」と言い放って数日間、制圧しようとしませんでした。このような軍の暴走を見て、多くの大臣は軍の言動に反対することをやめてしまいました。また、一般の市民に対しては「治安維持法」という法律で、ちょっとでも軍の意向に反する言動をする者はすぐに逮捕される仕組みが出来てしまいました。

外国に対してもひどいことを繰り返しました。1931年の満州事変は、日本の軍隊が自分で満州鉄道を爆破しておいて、中国軍の仕業だとうそを言って、それを口実に大軍を送って満州を侵略したのです。

また、中央からの命令もないのに現地の軍隊が勝手に行動を起こして大戦争を引き起こしたりもしました。さらに、侵略したところ、中国や韓国のほとんどすべての地域で現地の住民からの略奪だけでなく、無差別殺人などを繰り返しました。町の中で突然何の理由もなしに人を拉致し、軍や国内の鉱山などに送り込み、ひどい状況で強制労働させました。国内の山の中にそうやって死んだ中国人や朝鮮人を埋めた穴がたくさんあります。こういうことも知らないで首相になっているのか、知っていたら、この一件だけでも「もう謝らない」などといえるはずはないのです。

このような日本の軍隊のした残虐非道を知らないから、戦争準備もいたしかたないか、と思われるのかもしれませんが、でも、この残虐非道の事実を知ったら、それでも軍隊を持つべきだ、という考えは捨てるだろうと思うのですが、いかがでしょうか。少なくとも、いままでの考え方で本当によかったのかと考え直してはいただけるでしょう。

さらに、というか同じことなのですが、筆者が大きな問題点だと思うのは、1945年までの戦争、あの世界でも類のない大敗に関して、70年以上たった現在まで、きちんとしたまとめ、反省がされていないことです。どこかが悪かったから負けた、いや、どこかが悪かったから勝ち目のない戦争を起こしたのですが、どこが悪かったのか、ということが多くの日本人の共通理解になっていません。このまま「軍」を作ったら、おなじことを繰り返すでしょうし、戦争を始めたらまたひどい大敗を喫するでしょう。

1945年までの戦争の総まとめをしないうちに「軍」を作ったり、戦争を始めることは、日本

の壊滅を意味すると筆者は思っています。

旧日本軍のやった行動の数例

1. 満州事変（1931）：上記のとおりです。この時、新聞記者や新聞社は、実は日本軍が爆破したということは知らされていませんでした。中国の仕業だと報道して戦争を煽った（あおった）のです。

2. 熱河省侵攻（1933）：韓国に駐在していた陸軍の大軍が勝手に中国の満州に侵攻しました。軍隊は内閣の下ではなく、直接天皇の下組織だった。天皇は侵攻を止めようとしたが、結局、軍隊が天皇に反乱を起こすことを恐れて、軍の勝手な行動(軍紀違反)を事後承認しました。これ以降、天皇が軍を統制することは不可能になりました。（*）

この事件の影響で日本は国際連盟を脱退するはめに陥り、対米戦争、対全世界戦争に猛進することとなりました。

（*）昭和天皇が軍の言うことを聞かないので、ほかの宮様に天皇を挿げ替える動きもあったそうです。でも、昭和天皇が退位まで覚悟したら、軍を抑えることが出来たかもしれないと思います。退位することは避けたのです。どんな場合でも、上司が自分の地位を守ろうとしている、保身を図っていると部下が感じたら、もう上司の権力、指揮力はなくなります。

天皇の挿げ替えまで考えるということは、皇室中心といいながら、天皇を単なる飾りとして利用し、自分たちに都合のいい権力システムを作って大多数の国民から富を吸い上げようとしていることが明瞭だと思います。

3. 南京事件（1937）：南京に侵攻した日本軍が戦勝パレードをするにあたり、一人でも隠れていてパレードに銃が撃ち込まれたりしてはいけないという考えから、南京の市民を全員虐殺した。

4. 三光作戦（日本側の呼称は、燼滅（じんめつ）作戦）：中国に侵攻した日本軍の作戦。日本に対する抵抗を排除するため、住民すべてを虐殺しようとした。

5. 筆者がおどろいたのは、戦争が終わったときに捕虜となった日本の軍人のほとんどが、中国人に対しての罪悪感をまったく持っていなかった、という事実です。どこの国であれ、戦争するには強烈な敵対意識をすべての兵に持たせる必要があり、そのような洗脳教育、マインドコントロールをするのですが、それがあれほど徹底的に行われ、ほとんどすべての軍人が悪いことをしたと思っていなかったことが衝撃です。いま、中国や韓国を仮想敵国だと発言してはばからない首相などは、戦前からの（祖父からの）マインドコントロールが抜けていないのだと思います。

6. 日本軍は、食料は現地調達を原則としていました。すなわち現地の住民から奪い取るのです。

。こんな方針で現地を統治できるはずはありません。ジャングルなどへの進軍でも同じ原則で食料の補給などはほとんど考えていませんから、インパールやニューギニア島など現地がジャングルで食料がないところでは、栄養失調や病気で8割近くが敵弾によらないで死亡しました。

7. 特攻隊もご存知でしょうね。近代の国が、国として自国の兵士が自殺することを正式な戦法としたことなど、ほかに例がありません。ゼロ戦の特攻が主ですが、それ以外の人間魚雷なども含めて約4400人が特攻で亡くなりました。特攻は現地司令官が命令するのを大本営が黙認した（やめろとは言わなかった）とインターネットにあります。事務的なささいな手続きの差だけで、国が命じた作戦と考えていいと思います。ドイツでも同じ発想があったそうですが、ドイツの中枢はそれを知って直ちに禁止したということです。あのヒトラーでもしなかったことなのです。

1945年までの戦争の総まとめをしていないままに、戦争がはじまったら、読者のみなさんがどのように扱われるか、ここまでの文で分かっていただけのことと思います。そしてまた、近隣の国々のみなさんに非道なふるまいを繰り返してはならないとも強く思っています。これが戦争や戦争準備に反対する理由です。決して無責任などというものではありません。

日本の古来からの精神は「和」です。敵を作って戦争準備をすることではありません。（*1）

最初の文の「3）いつまでも米国を頼りにしているだけではいけない。4）だから戦争に備えなければいけない。」については、書かなくても筆者が言いたいことは十分にお分かりいただけたと思います。

（*1）国家主義の一端は「和」の意味も自分たちに都合のいいように曲解して使う場合が多いので注意してください。彼らは、「みんな（=自分たち）と違うことを言うのは和の精神に反する」というように使います。そして自分たちへの非難、反論をむりやり抑え込もうとします。本当の「和」は、自分と異なるものも許容する、そして争いを避ける、という意味です。わが国の古い時代には各地にそれぞれ違う信仰がありましたが、それらをすべて許容してとりこみ、八百万の神（やおよろずのかみ）という自然のすべてのものに神が宿っているという心になったのです。また、出雲に伝わる伝説では、出雲の神と今の天皇家の祖先とが和解してひとびとを巻き込む戦争を避けています。また、日本に新しく伝わった仏教も、それ以前の宗教を排斥することなく、同一の敷地に仏教のお寺と神社が同居するのが普通に行われていました。筆者が言う和の心は、こういう心です。

（*2）天皇が敗戦直後にマッカーサーを頻繁に訪問して、いろいろ頼んだ中に日本国内の米軍基地を永久に維持してほしいと頼んだことに関して、さらに考えると：
善意に考えると、王制や天皇制は王や天皇が国民のための政治をするから国民が信頼して服従し

てきたのだと思います。その国民の側から天皇への信頼は自分の死をも懸けるほどの熱い厚い信頼です。それなのに、負けてすぐに敵の将軍の部屋にのこのこ訪ねて行って会うことですら、恥を知れと言いたいと筆者は思います。昔の将軍だったら腹を切っていると思います。それが士（さむらい）の尊厳を守る方法ですし、部下やその家族たちからの信頼をぎりぎりまで裏切らない唯一の方法なのだと思います。（ヒトラーは自殺したと伝えられていますし、イタリアのムッソリーニは銃殺されています。）何百万の兵士が天皇陛下ばんざいと叫んで死んでいったことを何と考えて、のこのことマッカーサーの部屋に行ったのでしょうか。筆者は理解できません。怒りという言葉では表現できない感情をおぼえます。旧日本軍の行事などに君が代、日の丸が使われたからだけでなく、この天皇の行為を知ってしまったら、日の丸や君が代に反感があるのは当然だと思うようになりました。

事務的な話になってしまいますが、昨日までの敵の将軍に何を言うにしても、日本側の全体として言うべきことなのかどうかを検討して、きちんと段階を踏んで言うべきでしょう。自分の部下、取り巻きを信用できないから直接マッカーサーのところへ行ったとしか考えられません。最上部の天皇がこのように自分勝手、無責任だから、ほかの政府や軍の上層部も無責任だったのが分かります。旧憲法の天皇制は、このように無責任集団が利用しやすい危険なシステムだったのです。もちろん、天皇制には良い面もあります。現在の憲法の天皇制はいい面を出し、悪用される危険性を少なくしていると思います。（天皇制を廃止することも一案ですが、現在もかなりの数のひとびとが天皇を崇拜（？）する、あるいは居ても悪くないと思っている状況では、天皇制を廃止して一部のグループの教祖のような存在になるよりは、現在のように天皇を国民に見える存在として、悪用されないようにするほうがいだろうと思います。）

戦争がどんなものなのか：

戦争は鉄砲や大砲を打ち合う前線だけの悲劇ではありません。前線から遠く離れた普通の市街地でも、そして戦争が終わって何十年経っても悲惨な影響が残ることを実体験者たちが書いた文集があります。

無料でダウンロードできるので、ぜひ見てください。

楽天K o b o 「私たちの”戦争”体験」戸山高校1962年卒有志（7月から掲載される予定）

あるいは

<http://www.geocities.jp/sensoutaiken2016/>（W o r d でダウンロードできます）

第2章 戦争に向けた動きをとめよう

第2章 戦争に向けた動きをとめよう

工夫して戦争反対を表明しよう

棄権は現政権への y e s と同じです

戦争ほどばかばかしく悲惨なものはありません。特定秘密保護法や集団的自衛権は戦争への準備、そのものです。この文をお読みになって賛同部分が多いと思われたら、なるべく多くのお知り合いにこの本のことを知らせてください。

どうしてそんなに心配するのと言われるかもしれませんが、われわれの年代から見るととても危険な方向に進みつつあると思えてならないのです。2015年3月の首相の「わが軍」発言がその一つです。我々の年代にとっては「身の毛もよだつ」発言です。

昨年夏ごろから書き始め、つい最近まで修正、書き加えてきたのですが、ひろい外部に出すことは躊躇していました。が、今の状況を見て、すこしでも多くの皆さんに読んで考えていただく方がいいと思い始めました。

この章では、戦争、戦争準備に反対する理由と、1910年頃から1945年の世界にも例のないような大敗北に到る様子、とくに日本の軍隊がなにをしたのか、という歴史上の大事な大事な事実、経験を書いてみました。

筆者は1944年生まれ、72歳です。自分ではまだ老人とは思っていませんが、、、。

今の政権は2014年夏までに特定秘密保護法と集団的自衛権を閣議決定としたほか、敵への先制攻撃すら可能としました。これらは戦争への準備行動以外のなにものでもありません。戦争直後を自分の目で見た経験のある世代としては、ふたたびわが国が愚かな戦争に突入するのではないかと心配で仕方ありません。しかし、子供や孫たちは、それほど危機感を持っていないようです。そこで、機会を見て、何回かにわたって子供たち、孫たちに話をしました。その内容を書いてみましたので、ぜひ読んでみてください。

2014年の夏以降は、安倍政権は集団的自衛権など戦争準備に関する行動を避けて、国民の目をそらして12月の総選挙に勝ち、2015年には選挙の争点としなかった安保法案をしゃにむに推し進め、自民党が呼んだ学者すらも憲法違反と言うのに強行採決で法案を通してしまいました。9月に法案が通ったあとはふたたび経済面を表面に出して、安保法案関連を国民が2016年7月の選挙まで忘れるように仕向けています。

しかし、この政権のひとびとが戦争準備を進めたいと思っていることを決して忘れてはいけません。次の選挙の時には、必ず安倍政権が行った危険な言動と行為を思い出してください。もしも彼らが選挙に勝ったら、さらに危険な方向に大きく動き出すことは間違いありません。

これからの選挙の争点は消費税などの経済面ではありません。争点を経済だと言って国民の目を欺こうとしていることに気づいてください。これからの選挙では特定秘密保護法や集団的自衛権などの戦争に向けた動きをとめようではありませんか。黙っていることは、現政権へのYesを言うことと同じです。それも容易ではない状況ですが、工夫をして現政権に対するNoを表明しましょう。戦争を許容する政治にNoを表明しましょう。

1945年までの世界大戦のときも1、2年前までは日本国内は平和で、ほとんどの人は、これから戦争になるなどとは思っていませんでした。今度も、平和なうちに声を上げなければ、戦争にどんどん近づいてしまいます。

筆者がものごころついた時には、すでに戦争は終わっていました。ですから、本当の戦争（撃ち合いの現場や爆弾が落とされる現場）を見たりした記憶はありません。でも、戦争直後の様子は見ていますし、同級生に片親家庭の友人が沢山いたことも覚えています。戦争ほどばからしい、愚かなことはないと思います。特定秘密保護法や集団的自衛権という最近の動きは戦争の準備です。戦争に近づきつつあるのではないかと心配なのです。これからの世界は若い皆さんが作っていくものですから、われわれはみなさんの作る世界がいいものになるように助言することしかできません。でも、最近の情勢をみていると、また戦争を起こすのではないかと心配です。

戦争になってしまったら、戦争の前線だけでなく、普通の人々の生活も徹底的に破壊されるのです。この点を若いみなさんは（40代から60代までのみなさんも含めて、筆者より若いみなさんすべてを「若いみなさん」と書いています）軽く見ているように思えるのです。現在でも生活が破壊されることは同じです。イラクの諸都市がどうなったか、ぜひ図書館や本屋さんで関係の本をちょっとでも見てください（*）。フセインの時代には、ともかく多くの人々が暮らしていた町の家々は破壊しつくされ、廃墟となっています。生活を破壊された人々のなかからテロに走るひとびとが多数作り出りだされているのです。「世界の平和のために」戦っている米軍などの実態はフセインでもこんなひどいことはしなかったというような無差別殺人と生活の破壊です。

（*）この本の最後にある 参考文献の26）など。

これからの世界は若い皆さんが作っていくものです。年長者の言うことを聞け、などと言っているつもりはありません。それをうまく文章に表せたという自信はないのですが、昔のことをすこし知っているひとが陰から若い皆さんに助言しているのだ、と思って読んでください。

いろいろ書きましたが、年下のみなさんに教えているというつもりはありません。第一、筆者はこういう政治的なことの専門家ではありません。非専門家が急に勉強したら、若いみなさんと同じレベルで書けるだろうとは思いました。みなさんはこれからいろいろな考え方、言い方の人と

議論しなければいけないでしょうから、その時に対応して発言する言い方として、こんな言い方ではどうだろうか、というご参考になれば、と思って書いたのが大部分です。陰からの応援です。

筆者の意見、見解も書きましたが、そういうところは意識して「本当に書いてある通りでいいのだろうか」と疑いつつ、ご自分で考えて判断してみてください。

1) どうしてこのメモを書いたか

筆者は科学者で、いままでこのような政治的な事柄に関わることは避けてきました。いわゆるノンポリでした。でも、この数年の間に起ったこと、どうみても戦争をしたくてしょうがないとしか見えない今の安倍政権の言動を見ていて、日本が戦争に向けて突き進むことを避けるために何かしなければいけない、という気になりました。こんなにあぶない政権への支持が高いのは、1945年の敗戦、世界の歴史上でも最大の大敗で終わった戦争（第2次世界大戦、太平洋戦争、大東亜戦争などと呼ばれています。このメモでは、「あの戦争」あるいは「45年までの戦争」と書くことにします。）の経験が今の世代に伝えられていないからではないかと思いました。上記のように筆者もまだ生まれたばかりで実際の戦争現場の記憶はありませんが、戦争直後の悲惨な状況は覚えています。われわれの世代が今、戦争の悲惨さを伝えなければ、日本がまた同じ道を繰り返すのではないかと心配なのです。

2) 「この道しかない」！！自分と違う意見を聞く気はない、と平然と言っています。しかも、以下に書くように、論理の合わない矛盾したことを平気で言うことができる政権です。こんな危険な政権を許容している日本人は理解できない、と世界からは思われています。（別の章に書くように「この道しかない」といういい方はドイツのナチス・ヒットラーの真似です。ナチスの真似を平気でできる心に恐怖を感じない人がいるのでしょうか。）

3) 経済は以前より良くなった、と言っていますが、そう感じているのはごく一部の人たちだけだと思います。経済がよくなったと思っている方々も、それだから安倍政権を支持していいのか、もう一回考えてください。戦争イコール殺人の準備をしながら経済の利益を得ることは、人殺しをして金を儲けることと同じだと思いませんか。

4) このメモの構成

詳しい説明まで入れると長くなるので、主要部分だけを次の2ページにまとめました。この主要部分だけは我慢してぜひ読んで、ご自分で考えてみてください。もしも、もうすこし読んでみようと思ったら、7ページ以降のもう少し詳しい説明に進んでください。話を進める流れの都合で主要部分の2ページと重複する部分もあります。最後には、さらに参考と二つの補足を付け加えました。

主要部分

1. 自衛隊を外国に送ろうとしています

何のために自衛隊を外国に送ろうとしているのか、どうして自衛隊でなければいけないのか、ぜひご自分で考えてみてください。鉄砲を打ちあったりするかもしれないから自衛隊なのです。戦争の可能性がなければ自衛隊を送る必要はないでしょう。

2. 自衛隊は何をするのか

外国に行って鉄砲と打ったり爆弾を使ったり。それはそこ（外国）にある建物や施設を破壊したり、人を殺すことです。いや、そういうことは直接しない、米国軍隊の後方支援をするだけだ、と言っているようです。が、直接手を下すのも後ろで隠れて支援するだけでも違いはありません。（うしろにいるだけ、というのは卑怯だ、という考えもあるでしょう。）

3. 集団的自衛権とは

日本がB国と戦争をしたと仮定して、B国が日本と全く関係のないC国の軍隊を日本に連れてきて、そのC国の軍隊が日本に向かって戦ってきたら、あなたはどう思いますか。B国は戦争の相手ですから憎いのは当然ですが、C国に対してはどうですか。日本と何の関係もないのに日本に来て日本の施設を破壊し、日本人を殺すなど、B国以上に憎いと思いませんか。

いまの政権は集団的自衛権で、上記のC国の役割を自分から進んでやろとしているのです。この点をぜひ分かってください。

4. 戦争なんかこわくない、戦争はカッコいい と思った君へ

戦争映画や戦争（コンバット）のテレビなどを見て、カッコいいな、やってみたい、と思ったひとはたくさんいるでしょう。筆者だって子供の時はそう思ったことがあります。脳みその中には死ぬかもしれないリスクを快感と感じる仕組みがあるのです。これは生物が進化する途中で自分が生き残るために必要な仕組みでした。でも、今の時代まで進化した人類は違います。いまでも敵は殺せという信条で暮らしている民族も世界にはいくつもいて世界には争いが絶えないのですが、われわれはそういう人たちとは一線を画した世界にいるはずですよ。

5. 戦争で死ぬのは普通の市民、あなたたちが死ぬのです

戦争では戦争を始めることを決定した首相や政治家（国会議員）や官僚は敵の銃弾にさらされる前線には行きません。彼らが戦争で死ぬことはありません。町の中にいる君たち、パン屋さんや花屋さん、インターネット関連の会社員、レストランの従業員たち、こういう普通の町の人たちが兵隊に駆り出されて殺しあうのです。どの兵隊にも両親がいて、妻や子供たちがいます。敵の兵隊も君と同じです。そういう人たちを、たとえ敵であってもあなたは平気で殺せますか。自分が殺されるのは平気ですか。自分が死んだら親が悲しみ、家族はもっと悲しみ将来の暮らしもできなくなって途方に暮れる、とは思いませんか。敵の兵隊たちも同じだと思いませんか。戦争の悲

劇は戦いの前線だけではありません。後方にいる人たちや家族の被る悲劇の方がむしろ大きく長期間続くのです。

6. 個人の喧嘩と戦争のちがい

殴られても何もしてはいけないのか。殴り返してなにが悪いのか。殴り返さないなんて男らしくない、かっこ悪い、というように個人と個人の関係になぞらえて考えているかもしれませんが、それでいいのでしょうか。個人あるいは数人の間の争いならば、数人が倒れるだけで済みます。でも、国と国の間の場合は数万人以上が倒れることになります。国と国の間関係を個人と個人の間関係になぞらえて考えることが妥当ではないことがすぐに分かります。

7. 戦争は何世代にもわたる人びとの努力の成果を破壊するだけではありません。恐ろしいことは殺されることだけではありません。もっと恐ろしいことは、戦争によってわれわれの仲間の中に人を殺せるような人がたくさん作られ、また、人を殺したり傷付けてしまったことを悔やんで一生を悶々と過ごす人がたくさん生じてしまうことだと思います。戦う双方に女手一つで子供たちを苦勞して育てなければいけない母子家庭が多数生じ、さらには戦争孤児が生じることも恐ろしいことです。戦争に勝ちはありません。近年の戦争の報道を見れば、勝者などいないことがよくわかるはずで

8. 原始的な脳の支配を受けないように

小さい時に戦争をかっこいい、と思ったのは脳の中の原始的な部分の影響です。おとなになったあなたは進化した脳（前頭葉）で考えなければいけないのです。（最新の脳科学から見た筆者の解釈を最後の「補足2」に書きます。）

9. 戦争が好きで人なんていない。戦争になることなんかない、と思っているあなたへ
ちゃんと勉強して、ちゃんとした人たちと付き合っている人は、言われなくたって戦争なんか嫌いです。

戦争になることなんかない、1941年に真珠湾を宣戦布告なしに突然爆撃して米国との戦争がはじまりましたが、その1年前には国内は平静で、だれも戦争なんか起こらないと思っていました。（実は中国との戦争を1931年の満州事変以来10年間続けていたのですが、中国大陸での出来事で国内では戦争とは認識されていませんでした。戦争ではなく、「支那事変」と呼ばれていました。）それがあつという間に本格的な対米国、いや対全世界の大戦争になってしまったのです。いま、戦争にはなりそうもないから様子を見ているだけ、というのは非常に危険なのです。

10. 戦争が好きで人などいないから大丈夫と思っている方へ

上記のように、普通のひとは戦争なんか嫌いです。でも、信じられないことに、戦争をしたい、あるいは状況によっては戦争もしなければいけない、と思っている人々もいるのです。数と

しては非常に少数だと思いますが、何人くらいいるのか確認の方法がありません。いま、日本では戦争をしたい人たちが上手にマスコミなどをあやつって、戦争を容認する世論を作ろうとしています。その人たちはいろいろ工夫して、仲間のひとり、安倍を首相に据えることまで成功してしまいました。戦争をしたいという、信じられない人たちが今の政権の中核にいます。戦争に向けた準備が始まっていると考えても不思議ではない状況になっています。45年までの戦争のときも、ほとんどの常識人がありえないと思っていたのに戦争開始が決定されて悲惨な結果を招きました。ですから、そういう危険を感じたら早いうちに反対を表明するなど、何らかの行動をしなければいけないのです。あなたが黙っていたり選挙の時に棄権することは、戦争に向けた行動への支持を与えることと等価です。

1 1. 戦争を扇動する言い方

戦いを仕掛けられても何もしないで見ているだけなのか。昔から戦争をしたいひとびとは、そのように言って扇動するのが古来の定番です。いま安倍氏一派は中国や北朝鮮が危険だからと言って扇動して戦争の準備を大急ぎで進めています。しかし、北朝鮮も中国も日本を攻めるとは言っていません。自分で敵を作っておいて、戦争準備を正当化しようとしているのです。（参考 1）

戦いをしかけられたらどうするのだ、という問への答えは、今この時点でその対策、準備をすることは必要がなく適切ではない、むしろ非常に有害だ、という答えです。

1 2. 戦争をしたい人々は、「平和のため」という言い方を多用します。言葉だけでなく、彼らの言う「平和」が何を意味しているのかを注意深く見なければなりません。かつてのドイツのナチス、その中心人物のヒトラーの演説には、つねに「平和」、「世界の平和」ということばが何回も何回も出てきます。日本の東条英機の演説にも「平和」という言葉は沢山使われています。ことばに騙されてはいけません。

1 3. 本当の政治とは

よその国から戦いをしかけられたりしないように、危ない状況に至らないように事前に知恵を絞って工夫することこそが「政治」なのです。危なくなる前にするべき「政治」を忘れて戦争の準備を進めているのは本来の政治家ではありません。今の国際状況のもとで戦争準備に高い優先度を与えて戦争準備を進めている政府は異常です。

1 4. 集団的自衛権は戦争準備

「集団的自衛権」、「安全保障自衛権」だけで、戦争につながると考えるのがおかしいのではないかと思っている方もおられるでしょう。安倍首相も戦争にはつながらない、かえって安全になるのだ、と言っています。でも、われわれは非常に心配しています。なぜか。

第1の理由は、政治家や官僚は自分のした仕事が大事な仕事であったことを示したいと非常に強く思っています。今回の集団的自衛権にかかわった政治家や官僚は、それが無駄なことではなか

ったということを早く事実で証明したいと思っているに違いありません。そのためには、戦争状態を作るように全力をあげるでしょう。

第2の理由は、「集団的自衛権」という理由のもとに何らかの軍事行動に参加した場合、米国からもっと多数の人を出せ、もっと前線で戦え、と言われた時に、日本の法律ではここまでしか許されていない、という限界線がなくなってしまったのです。すなわち、日本がいやだと思っても本格的な戦争に巻き込まれる可能性が出来てしまったのです。

上記の第1の理由と多くの人を感じる個人としての「やりかえしたい」という報復志向とが結びついて、国と国の間でも個人の間の喧嘩のときのように、ちょっとした出来事がきっかけで本格的な戦争になってしまう例が多いのです。そして、1回戦争が始まってしまうと、戦争をやめることはできなくなってしまいます。すこしくらいの小競り合いならいいだろう、と思うのは大きな誤りです。

15. 軍備を増強するとリスクが高まります

今の政権は状況が変化してから防衛に努める必要がある、軍備を増強する必要がある、と言って道営予算も大幅に増やそうとしています。これが危険を招くのです。日本が軍備を増やしたら、70年前まで日本に侵略されていた韓国や中国、おそらくロシアも、また日本が攻めようとしている、と考えて日本に向けた軍備を増強するに違いありません。日本に向けたロケットなどが増え、日本のリスクは高まるのです。日本のリスクは下がるなどという言葉に騙されてはいけません。

16. 抑止力は役に立たない

抑止力として大きな軍備が必要だ、とも現政権は言っています。しかし、戦争を本当に始めるときには理性的な考えはありません。狂気です。狂気のひとびとは相手が大きな軍事力を持っていても関係なく戦争を始めます。1941年に日本が米国に戦争を仕掛けたことが、大きな証明事実です。あのときは軍備力の大小だけではなく、石油の70%、鉄の50%の輸入先である米国に戦争を仕掛けるという狂気の上の狂気の沙汰でした。狂気の状態になったら、どんな状況を作っておいても戦争は始まってしまいます。

17. 外国を攻めたり、外国に軍隊を送ることを可能にする法律をつくるなど、戦争の準備を進めることが怖いのは、そういう準備をすると使ってみたくなるからです。あなたもいつものより少し大きなナイフや弓矢などを持ったら、いつまでも見ているだけ、しまっておくだけではなくて使ってみたくなるでしょう。軍備も同じです。だから戦争の準備をすることは危険なのです。いま90歳代の、あの戦争の経験者も、軍備を持つと使いたくなるから危険だ、と言っています。

18. 人間の特性

軍備を持つと戦争がしたくなる、ということが人間の特性の一つとして存在する、と過去の多く

の記録から結論できるでしょう。個人はみな戦争など嫌いなのに、社会となると戦争をしてしまう。どうしてそうなるのかよく分かってはいませんが、結果を見ると、この危ない特性を持っていることは確かです。悲惨な戦争を経験し、また他国での悲惨な戦争を沢山見てきたわれわれは、戦争を避けるために、この危険な特性が表面に出ないよう、いろいろと知恵を絞って工夫しなければいけないのです。

19. 筆者の思考の原点は、「争いを避けたい。戦争は絶対にしてはいけない。」です。1945年までの戦争と300万人以上の犠牲者を代償としてすべての日本人が体得した原点です。（300万人は死者だけです。負傷者や被害者を入れれば、全ての日本人が犠牲者です。いま戦争の準備を進めている人たちの家族などごく僅かを除いてすべての日本人が犠牲者です。戦争の犠牲者の家族が戦争の準備を進めることなど考えられませんから。）

20. アフガニスタンのタリバンは旧ソ連との戦いのために米国が訓練した人たちと訓練されたアフガンの戦士たちが教育、訓練した次世代のひとたちです。最近出てきたイスラム国は米国がイランに侵攻しなかったら発生しなかっただろうと言われていています。戦争は戦争を生むのです。戦争で争いが解決することはありません。

もう少し詳しい説明

1. 個人の喧嘩と戦争のちがい

殴られても何もしてはいけないのか。殴り返してなにが悪いのか。殴り返さないなんて男らしくない、かっこ悪い、というように個人と個人の関係になぞらえて考えているかもしれませんが、それでいいのでしょうか。一方あるいは両方が理性が強くて自分を制御する能力が高ければ、軽いジャブ程度の交換でどちらかがあきらめるか、両方とも殴るのをやめることもあるでしょう。でも、いちど殴り合いを始めると理性を失ってとことん殴ってしまうことも多いのです。動物の本能がそうになっているからです。脳の中に興奮ホルモンが多量に出て理性的に考えることが出来なくなってしまいます。誰かが仲裁しようと割って入ってくれることがなければ、どちらかが動かなくなるまで、動かなくなっても殴り続け、蹴り続けるでしょう。

個人あるいは数人の間の争いならば、数人が倒れるだけで済みます。でも、国と国の間の場合は数万人以上が倒れることになります。国と国の間の関係を個人と個人の間関係になぞらえて考えることが妥当ではないことがすぐに分かると思います。

2. 戦争への備えが必要か

じゃあ、戦いを仕掛けられても何もしないで見ていただけなのか。戦争をしたいひとびとは、そのように言って扇動するのが古来の定番です。1995年のオーム真理教の事件をご存知ですか。あの教祖は警察がヘリコプターで空からサリンをまいてくる、ハルマゲドン（世界全滅の悲劇

) が起こる、と言って扇動して極めて有毒で神経系統を壊すガスであるサリンを作り、地下鉄でサリンを撒いたのです。いま安倍さんは中国や北朝鮮が危険だからと言って扇動して戦争の準備を大急ぎで進めています。筆者にはオーム真理教の教祖のような人が首相になってしまったと見えます。

戦いをしかけられるから、こんな危ない状況に対処できるようにする必要があるから、という話の進め方に乗ってはいけません。よその国から戦いをしかけられたりしないように、危ない状況に至らないように事前に知恵を絞って工夫することこそが「政治」なのです。危なくなる前にすべき「政治」を忘れてるのは本来の政治家ではありません。

戦いをしかけられたらどうするのだ、という問への答えは、今この時点でその対策、準備をすることは必要がなく適切ではない、むしろ非常に有害だ、ということです。（参考 2）

いや日本が戦争をするのではなくて、ほかの地域での戦争に日本の軍隊を送りたいのだ、という説明もしています。どうしてそんなことをしたいのでしょうか。米国などと対等に話すには軍隊を送らなければいけない、と思い込んでいるようです。が、世界から意見を聞いてもらえる国になるためには、米国などと同じことをしていたのでは絶対にだめでしょう。日本がいくら軍事的支援をしても今まで以上に世界から意見を聞いてもらえることにはつながらないでしょう。平和国家でいることこそが、世界に例のない国として尊敬され、意見を聞いてもらえるのです。

45年までの戦争の後、わが国は平和国家を目指して、軍備には最小限の予算しか使いませんでした。経済力を非軍備に向けたからこそ、大きな経済力を持つことができたのです。いま、将来の経済について心配こそあれ、いままでより楽になるという見通しはありません。そのときに軍備増強に予算を使ったらどういうことになるかみなさんにはよく分かっていることです。われわれは軍事費のために日夜一生懸命働いているわけではありません。

古いたとえですが、昔は堅固な城を建設して持っていることが領主の大事な仕事でした。でも、ほとんどの場合、そういう城は見せかけだけで、実際に城の堅固さが必要になったときには遠からず敗北することが明らかでした。攻められて籠城しても、援護なしに耐えられるのは数か月まででした。城や軍勢を持っていることよりも周囲の勢力と日ごろから仲良くしていることが敗北しないため滅亡しないためにもっとも重要なことでした。この点は現在でも同じだと思います。

3. 集団的自衛権は戦争準備

主文に書いたように、われわれは非常に心配しています。

第1の理由として書いたように、今回の集団的自衛権にかかわった政治家や官僚は、それが無駄なことではなかったということを早く事実で証明したいと思っているに違いありません。そのためには、米国の軍艦で日本の家族が戦地から逃げ出すような場面を実際に起こすことが必要です

。常識ではとてもありそうにない実例を5つ（8つ）上げて集団的自衛権の必要性を説明しましたが、それに近い状況になりそうなことがあれば、全力をあげてそれが本当に、現実になるように工作するでしょう。平民の命がいくつか危なくなっても彼らには関係ないのです。自分のしたこと、自分の主張が正しかったと示せることの方が何百倍も重要なのです。この点を見落としてはいけません。（ここで平民と書きましたが、こういうことを考えて実行する官僚や議員は（一概に「官僚は」とか「国会議員は」という言い方は間違っています。半分以上の官僚は誠実にきちんと仕事をしています。）自分たちは特別だ、と固く思っています。かれらは自分たちは庶民、平民ではないと心から思っています。議員は選挙に受かったことを他人を見下す根拠にしていますし、官僚は、就職の時に受けた公務員試験に通ったことを何十年たっても心のよりどころにしています。22歳の時の試験だけで人の一生の価値が決まるかのように。）（参考 3）

これも主文に書きましたが、上記の理由と多くの人を感じる個人としての「やりかえしたい」という報復志向とが結びついて、国と国の間でも個人の間での喧嘩のときのように、ちょっとした出来事がきっかけで本格的な戦争になってしまう例が多いのです。すこしくらいの小競り合いならいいだろう、と思うのは大きな誤りです。（参考 4、5）

4. 戦争になったら

安倍政権は戦争ができるように準備を進めていますが、もしも本当に戦争なってしまったらどうということになるのか、考えてみたことはありますか？安倍首相は、それも考えていないように見えます。

どこが敵となるとしても、まず日本の特徴を考えなければなりません。米国や中国と比べて違うところは、国土が小さく、かつ細長いことです。わが国には、中国や米国のような「奥地」がありません。海岸から全く見えない100km離れたところから200km程度届くミサイルで国内のどこでもピンポイントで正確に攻撃することが可能です。海岸にある原発や石油備蓄基地、そして高速道路や鉄道網はもっとも容易なターゲットになるでしょう。大電力用の送電線を突然切られたら全国的なブラックアウトになります。日本の国内を混乱させるのは簡単なことです。さらに、わが国には資源がありません。食料も自給できませんし、大量の石油や天然ガスの輸入に頼って暮らしています。1年、いや半年も交易を封鎖すれば日本は降参するしかありません。どんな理由があるにしても、戦争になったらわが国が勝つことはないのです。勝てない戦争の準備をどうしてそんなに急いでするのでしょうか。

戦争になったら、相手が本気で攻めてきたら勝てないという状況は、航空母艦などちょっとした装備を増やしてもまったく改善されません。抑止力としての戦力が役に立たないことは、大きな戦力を持っていた米国に日本が戦争を仕掛けたことで証明されています。

5. 世界は甘くない

米国が守ってくれるから大丈夫、とっていますか？ 世界はそんなに甘くはありません。米国にとって都合がよければ守ってくれるでしょう。でも、米国にとって痛くも痒くもない、無関係なときには何もしてくれないでしょう。たとえ米国大統領が助けたいと言っても米国の議会が賛成しなければ米軍は動きません。（無人島の尖閣諸島のために米軍が動く、米国人の命を危険にさらすとは筆者には思えません。）ベトナム戦争の時、米軍は自分だけさっさと（一緒に戦っていた南ベトナム軍を見捨てて）逃げ出しました。米軍も、どこの国の軍隊も、いざとなったら友軍でさえ見捨てるのです。

いま、米国はソ連との長い冷戦に疲れ、イラクやアフガニスタンに世界最高性能の大軍隊を送ったのに思うように勝てず、もう中国との戦争のような新しい戦争はしたくないと思っている可能性が高いのです。そういう報道がいくつかあります。その状況のもとで、日本が原因と考えられる状況の戦争が起こっても、米国が日本を助けたりすることはないでしょう。

だから、わが国が強い大きな軍隊を持たなければ。

それは答えが間違っています。すでに書いたように、戦争になったらいくら強い大きな軍隊を持っていても、中国などに勝てるわけがないのです。資源のないわが国が1年以上戦争を続けることは不可能でしょう。そして一度戦争が起こったら、わが国が負ける以外に1年以内に決着がつくことはないでしょう。軍事力で勝てないことは、相手に大きな軍隊がなかったイラクやアフガニスタンで世界一の軍隊を持った米国が勝てなかったことをみても明らかです。

ですから、わが国は周辺の国々と仲良くしていくしか将来はないのです。

米国に守ってもらうために集団的自衛権が必要だ。

安倍首相たちはそう言っていますね。でも、いままで集団的自衛権がなくても守ってくれていたではありませんか。それが米国にとって有益だからです。これからだって、米国にとって有益であれば集団的自衛権がなくても日本を守るはずです。（それは確実です。米国にとって利益があれば。）逆に集団的自衛権があっても、米国にとって得にならないときには決して日本を守ったりはしないでしょう。これも確実に言えます。

ここで「守ってくれた」と書きましたが、それは仮想ですね。周辺国のどこの国も日本を攻めようとは言ったことがありません。まして攻められたことはありません。日本が攻められるかもしれない、という妄想の上に立った言い方です。一方、100年前から70年前にかけて日本が周辺の国々に攻め込んだことは厳然たる事実なのです。当たり前のことですが、改めて認識しておくことが重要でしょう。 参考（6）

6. 世界は（米国も）自分勝手

米国側から、日本が血を流さないのに米国人の血だけ流すのか、と言われているのが安倍首相た

ちのトラウマとなっていて、この集団的自衛権の容認になっているようです。最近では言わなくなりましたが、日本人の血を流さなければ、というのが安倍首相一派の本音にちがいません。

秘密保護法や集団自衛権の動きを吹き込んでいるのは外務省と外務省のOB達です。外国に軍隊を出せないために外国との交渉がやりづらい、という理由です。が、戦争はもう懲りた、という憲法の基本精神に沿って知恵を絞ることができないのは、官僚として最低、劣等生であることを証明しています。むしろ諸外国に反戦の考え方を吹き込む最良の職なのに。外務省にはもっと優秀な官僚を配置すべきです。

米国が「日本人の血を流せ」と言うのは、ある意味理解できますが、上記のように日本を守る必要条件ではないのです。あくまでも、米国にとって利益があるから、米国にとって利益があるときだけ、日本を守るのです。そこに日本人の血が流れるかどうかは、ほんの修飾語であって、本質的なことではありません。日本が集団的自衛権を行使すると言っても、米国にとって利益がなければ米軍が日本を助けてくれることは決してありません。どんな取り決めを作っておいても同じです。（国際取り決めを守らない、という評判ができて米国が不利益を被るから、という理由はありません。でもその時点で、そのようなマイナス点を考慮しても将来に向けて米国にとって利益がないと判断したら米国が日本を守ることはありません。その時には先に協定、同盟を一方的に破棄する可能性が高いと思います。）

特定秘密保護法も同じです。米国から本当の重要情報をもたらすために必要だ、と説明していますが、この法律があってもなくても、米国にとって有利だと思えば情報を日本に見せるし、米国にとって危険だと思えばそんな重要な情報は日本に見せることはありません。あれは日本国内で自分たちに不利な情報が流れないようにするための法律です。（次の選挙では、集団的自衛権に関する法律はもちろん特定秘密保護法も無効にすることを公約とする政党に政権をとってほしいものです。）

安倍首相が例として挙げた危機ケースのひとつに日本人避難者を載せた米国軍艦を守る、というのがありますが、米国はそのようなこと（米国の軍艦に日本人避難民を燃せること）は断っています。避難させるのは米国人が優先で、避難民の移動は各国それぞれの責任だ、と言っています。この事実によっても、米国が自国の利益にならないのに日本を助けることなどしないことは明らかです。 参考（7）

安倍首相は、日本の国民を守る、と言いながら、一方では日本人の血を流せ、と言っているわけです。（最近になって、この矛盾に気づいたのか、血を流せとは言わなくなりました。でも、心の中は変わっていません。）国会やマスコミがどうして矛盾を質さないのか、不思議でなりません。

7. 戦争とは・・・あなたは人を殺せるか

戦争は、人が人を殺す場です。動物の世界でもし烈な争いがありますが、同じ種同士で、相手の死まで戦うことはめったにありません。でも、人は同種の人を殺します。敵の種族や村や国を全滅させることだってしてしまいます。 参考（8）

もしもあなたが兵隊にされて、敵を撃て、殺せ、と命令された時に、ためらわないで殺せますか？躊躇（ちゅうちょ）しないで銃を撃てますか？ たいていの人は、それができません。あそこにいる敵兵もあなたと同じように兵隊に駆り出されたIT会社の社員かもしれないし、レストランの従業員かも知れないのです。あなたがまだ撃たれないでいるのは、相手と同じように撃つのをためらっているからかもしれないのです。多くの場合、ためらってすぐに銃を撃てないか、その逆で恐怖に襲われてやみくもに銃を撃ち続けるか、どちらかです。イラクでも自爆の車を恐れて味方の車なのに近づいてくる車を銃砲で粉碎した例が多数ありました。

昔の軍隊では新兵が最初にするのはわらで作った人形を銃剣で何回もさすこと、そうやって人を殺すことに対する抵抗感をなくすことだったそうです。いまでも米軍は新兵に人を殺せるような心を持った兵隊に仕上げるために厳しい訓練をしているそうです。そうでもしなければ、普通の人とはたとえ敵の外国人であっても人を殺すことはできません。戦争をすること、戦争の準備をすることは、そのように人を殺せるようなひとを沢山教育して作ることを意味しています。そのように教育されたひとたちは兵隊の義務期間が終われば町の中に帰ってきます。みなさんは、そういう状況を望んでいますか。

2015年8月の新聞に、2003年から2009年まで自衛隊を派遣したサマワの記事がありました。その中に、派遣する隊員には銃の訓練を行ったが、それには人の形に切ったベニア板を使った。でも、大部分の人は最初それを撃てなかったということです。ただの板だと分かっても撃てないのです。それが普通の人です。戦争をするには、普通の人を普通でないように訓練しなければならないのです。

同じ記事には、下記の戦争後遺症のことも書いてありました。一人も死ななかつたし、一人も殺さなかつたのに、帰国後21人もの隊員が自殺したということです。

ベトナム戦争やイラク戦争の後遺症としてPTSD（外傷後ストレス障害）が米国で大きな問題になっています。インターネットの検索によると、「死を意識するような強い体験によって心理的なトラウマ（外傷）が生じ、戦争時の記憶が消えないで常におびえている、などの症状を生じる障害」です。戦争の勝敗に関係なく、敵ではあっても人を殺してしまったこと、傷つけてしまったこと（そして一緒に戦った戦友が戦死したのに自分は生き残ってしまったこと）が心の傷として一生残り、死ぬまで鬱々を暮らすことになってしまうのです。戦争は、そのような悲劇的な一生を暮らすことになる人を多数作り出すのです。

もし戦争に勝ったとしても、戦勝を喜ぶのは、戦争を開始したことに自分の価値を見出すひとにぎりの政治家だけです。お祭りのように大勢が写っている写真もありますが、ほとんどの人は、いっしょに喜んで見せないとつまはじきにされるから無理矢理に喜んで見せているだけです。特に、そういう時期には、戦争反対などと言うと国家反逆罪などで牢獄に送られてしまう仕組みになっていますから。戦争の前線で敵を殺すこともしない上層部だけが戦争をよろこび、利益を得るのです。血で汚れた悪魔の喜びと利益です。

武器（防御装置、自衛装置などと呼び方を変えています。）の輸出もできるようにしました。これこそ、殺人して金儲け、そのものです。その会社がどこなのか分かりませんが、恥ずかしくないのでしょうか。また、このために新たな敵を作ることになるでしょう。下手をすれば、国内でのテロを呼び込むことになります。 参考（9）

このように、戦争は何世代にもわたる人びとの努力の成果を破壊するだけではありません。恐ろしいことは殺されることだけではありません。一番恐ろしいことは、戦争によってわれわれの仲間の中に人を殺せるような人がたくさん作られ、また人を殺したり傷付けてしまったことを悔やんで一生を悶々と過ごす人をたくさん生じてしまうことだと思います。負けた側はもちろん、勝った側にも父を失って女手一つで子供たちを育てなければならない母子家庭が多数生じ、また戦争孤児も多数生じます。戦争に勝ちはありません。近年の戦争の報道を見れば、勝者などいないことがよくわかるはずです。

8. 太平洋戦争（第2次世界大戦）

ここからは、過去の大戦に近い世代として、戦争がどんなものなのか、若い皆さんにぜひ知ってほしいことを書きます。ここに書くよりも、もっともっと悲惨なことが沢山あります。インターネットで検索したり、図書館で本を読むなどしてほしいと思います。筆者が参考にしたのは、黒羽清隆著「太平洋戦争の歴史」講談社現代新書、1985年 です。

太平洋戦争（第2次世界大戦）は1941年12月8日、日本のハワイ爆撃で開始されました。それ以前にすでに南京などへの侵攻を進めていて米国などに包囲網を作られていました。12月8日は対米戦争の開始でした。それを決定したのは天皇が出席する御前会議ですが、会議のメンバーの半数は戦争に懐疑的だったそうです。輸入を封鎖されたら持たない、というのが主な理由で、それは現在も変わっていません。東条英機を中心とする開戦派は、前から慎重派だった近衛首相を辞任させて東条自身を首相兼陸軍大臣にすえるという工作（前準備）をしてから、開戦について決定を行う御前会議をひらきました。東条の「資源の点についても非常に心配であるが、検討の結果何とかやっつけられると思う。信頼を請う。」と言う発言で決定されてしまいました。どんな検討をしてどんな結果が報告されたのか、質疑検討が御前会議で行われたのか、この言葉だけで内容の報告や検討はなかったのか、この本には書いてありません。この時の御前会議の

メンバーの中に安倍首相の祖父である岸信介もいました。（あれだけの大きな敗戦をしたのに関係者の一人がその後首相になり、そのうえ孫までが首相になる、ということは日本でしか起こらないことでしょう。天皇もそのまま天皇でありつづけました。世界史上でも、こういうことは例がないのではないのでしょうか。） 参考（10）

反対者がいたら外す（首を挿げ替える）、相手が納得するまで詳しく誠意をもって説明をすることなく、俺が首相だ、と言い放つ安倍首相のやりかたは、この本に書いてある戦争開始前後の状況と非常によく似ていると筆者は心配しています。安倍首相は、よく「誤解だ」と言っていますが、それは自分は正しい、お前に説明する必要はない、お前の話を聞く気もない、と言っているのと同じです。誠意をもって相手に説明しようとしないうえが首相になってしまったのはわれわれの時代の大きな欠陥、失敗だと思います。

上記の本によると、太平洋戦争でもその前の南京攻撃なども中枢である大本営（東京にある陸海軍合同の総司令部を大本営（だいほんえい）と呼んでいました）の指揮が効かず、前線の軍隊が勝手に行動を起こしていました。大きな損害を出した戦闘としてガダルカナル（1942. 8-43. 2）とインパール（1944. 1-6）の戦いがありました。ガダルカナル島では3万人を送り込んで、戦死者5千人、餓死者1万5千人を出しました。ガダルカナルがどこにあると思いますか？インドネシアの東のニューギニアも超えた東。オーストラリアの北東です。こんな遠方に基地を作って、本土にどう役に立つのでしょうか。食料などの補給が困難なことは子供でも分かります。ガダルカナルという報告があったとき、大本営はそれがどこなのか分からなかったそうです。インパールはミャンマーから山岳地帯を超えてインドに入ったところにある山村ですが、やはり補給ができないで8万6千人のうち戦死3万、餓死と撤退中の傷病死4万2千を出しました。どちらも指揮官の大エラーです。インパールの時には、あらゆる情報が不利ですべての幹部が作戦は不可能だと言ったのに最高責任者の南方軍司令官が「補給など心配するな。俺には神がついている。」と言って作戦を開始した、と上記の本に書いてあります。（「神がついている」・・・どこかで同じような言葉を聞いたことがありますね。「日本は神の国」と言った元首相がまだ国会に残っています。）

戦死者よりも餓死者、傷病死者のほうがはるかに多いのが分かります。ニューギニアでは送り込んだ10万のうち9万人が餓死しました。敵の方からすれば、適当に逃げて誘い込んで置けば、あとは自滅してくれるバカな侵略者でした。（ニューギニアは20万人中18万人が餓死、という数値の本もあります。）

軍隊は外国での例も含めて過去の多くの例が示すように暴走する可能性が高いのです。軍隊とは暴走するものだと言っても間違いではないでしょう。現在の尖閣の事件でも中国の軍部が暴走しかけているのを中央が懸命におさえているように感じています。北京の共産党中央と軍部の間に勢力争いがあるという記事もありました。

戦争をしたら、同じことが起きるでしょう。中央の指揮を聞かず勝手に動く前線部隊、補給など考慮しない行動。みなさんが兵隊にとられたら、どんな待遇を受けるか、十分に分かったでしょう。（上記の本によれば、日本軍は「はんごう」という一人用の鍋兼米入れで炊いた米飯と梅干、それに山の中でとった虫やカエル、キノコ、コケなどを食べていたそうです。森の木々を通して見える敵（英国、米国など）の兵士は毎日パラシュートで配給される肉やサラダがたっぷり入った食事をとっていたそうです。おそらくコーヒーも沸かしていたでしょうね。食事の差だけでも勝敗は決まっていたような気がします。）

さらに、中国やマレー半島に攻め込んだとき、どこまでやめるかということは全く検討、議論されていませんでした。占領した土地をどのように統治していくかということも全く考えていませんでした。米国などの包囲網に囲まれて、そのままでは将来がないからとにかく戦争する、ということだけで戦争を始めたのです。

いまの安倍首相やその周辺のひとつの言うことを聞いていると、上記の、われわれがとことん懲りて絶対にくりかえしたくない、と思っていることを、そっくり繰り返しているように見えます。たとえば尖閣諸島の小競り合いをきっかけに戦争を始めたら、どうなるのか、どういう結末になるのか、考えているとは思えません。集団的自衛権で戦争に巻き込まれたあと、どうするつもりなのでしょう。終わり方を考えないで戦争を始めたらどうなるか、日本は十分に懲りたはずです。

9. 筆者の戦争直後の経験

最後に筆者が実際に自分の目を見た戦争直後の様子を少し書きます。こういうことが若いみなさんに伝わっていないから、いまの戦争準備の動きにもかかわらず政権の支持率が下がらないという現象が出ているのだと思います。もう70年も前のことですが、数百万人の日本人の命を代償として得たわれわれの経験をよく見て、無駄にしないでほしいと思います。（経済の面が大事だから戦争準備の面は無視して支持するというのは、人殺しをして金を取るのと同じだと思います。人殺しをするくらいなら、戦争をするくらいなら、貧乏な暮らしの方がいいとは思いませんか。貧乏でも平和な幸せな暮らしは過ごせます。）

ものごころついたころ（4歳ころ、1948年前後）、道にはときどき2～4人のみすぼらしい服の子供の集団があてもなく、とぼとぼと歩いていました。ようやく歩けるようになった2、3歳くらいから大きい方は12歳くらいまででしょうか。「浮浪児」と呼んでいましたが、戦争で家も両親もなくした子供たちです。我が家にも（両親もいて、家があっただけ、筆者はそういう子供たちに比べれば幸いでした。）ときどきそういう浮浪児のグループが訪ねてきました。両親は、かわいそうだと言って自分たちだけでも不十分な食べ物を分けて子供たちの持っていた汚れた袋に入れてあげていました。そういうときは我々の食べ物も少なくなってしまうのですが、そういうのが当然だと思っていたので、不満に思うようなことはありませんでした。いまでも、

あの子供たちは今どうしているだろう、と思うことがあります。おそらくそのころいくつかあった孤児院に引き取られたのでしょうけれど、子供の時にひどい苦勞をしたのだから、その後はいい人生がきているだろうと思いたいですね。

「傷痍軍人（しょういぐんじん）」もご存知ないでしょうね。軍隊で手や足を失うなどの大けがをされた方たちです。駅の出口付近にはたいていこのような方が白い服を着て軍隊の（カーキ色の）袋を持って、通り過ぎる人たちから募金をしていました。偽者も沢山いたようですが、ずいぶん後まで、1960年代までも見かけました。

このような目に見える戦争の影響のほかに、父親が戦死して母子家庭になった家族が無数にありました。戦死者数の半分以上あったでしょう。父親が戦争で亡くなって、母親だけで乳飲み子を育てていましたが、そのご苦勞は計り知れないと思います。小学校のときからずっと同級生の中に母子家庭の友人は沢山いました。普通に見ただけでは分かりませんから、そういう友人は筆者が知っているよりずっと大勢いたと思います。新聞配達で家計を助けている友人も何人もいました。

表面には出ない、同じように長期にわたる影響、後遺症はほかにもあります。そのひとつですが、都会にいた家族は空襲を逃れるために都市部から遠いところに引っ越しをしました。疎開（そかい）といいます。疎開した先が危なくなると何回も引っ越しをする家族もありました。父親は軍隊ですから、そういう引っ越しは母親だけでしなければなりません。筆者はちょうど1, 2歳で、1つ上の兄と幼児ふたりを連れて何回も引っ越しを繰り返した母は、ついに結核に侵されてしまいました。ものごころついたあと病気の母しか知りません。7歳のときに母は亡くなりましたが、戦争がなければ元気な母と暮らしていたはずです。

食糧事情もよくはありませんでした。最悪と書きたいところですが、世界の難民キャンプなどをみるともっとひどいところもあるので、そうは書きませんが。お米はめったに食べられず、いつもお芋の配給があって、長い行列をしていました。お芋もなくなって、1週間たべものは片栗粉だけ、ということもありました。鍋いっぱいにお湯を沸かしてカタクリ粉を入れてかき回しながら全部が透明になるようにするのですが、かたまってくるとうどん鍋ごと回ってしまったり、全体に火が通るようにするのは大変でした。また、空き地にじゃがいもを育て始めたこともありましたが、大きく育つまで待たなくて、小さな芋を掘り起こして食べたことも記憶に残っています。

自分の経験ではありませんが、新聞にこんな悲惨な話も載っていました。食べ物がなくて幼い弟の牛乳を盗み飲みしていた。その弟は栄養失調で亡くなり、その責め苦を背負い続けて生きている、という人の投書です。想像できますか？戦争をすれば、こういうことが実際に起こります。

父を含めて軍隊にいた身近な人が何人もいますが、だれも戦争の話はほとんどしませんでした。一人も直接殺したりすることはなかったと聞いていますが、それでもいやな記憶を思い出したくないのだと思って、聞くこともしませんでした。一人は自分の肩を貫通した弾が後ろにいた友人にあたって、その友人は戦死してしまったそうです。一人の叔父は婚約者がいたのですが中国で戦死。婚約者はその後結婚しませんでした。親戚のみんなは戦死した叔父の未亡人として、親戚の一人としてお付き合いしていました。もう一人の叔父は海軍の特攻隊に配属されて来週出撃

というときに8月15日の敗戦宣言になり助かりました。でも、20歳代なのに頭髪が全部抜けてまる坊主になり、65歳で亡くなるまで頭髪が回復することはありませんでした。特攻隊のみなさんの精神的ストレスの大きさが分かるでしょう。もう一人は退職後に戦争の時に一緒にいて戦死したりけがをしたひとの住所を調べてお墓参りに全国に行っていました。そのように戦争に行ったかたがたは、たとえ生きて帰ってくることができても、人を殺しあるいは人を傷付けてしまったことを一生忘れることはできません。一生を目立たないように生きていたのです。これは戦争に負けたからではありません。たとえ勝っていても、たとえ自分自身が殺していなくても、殺人の一端を担ったという記憶はトラウマとなって残ります。そういう社会をもう一度作りたいですか？

最後に。あまりのことだったので、この事件を無意識のうちに自分で忘れようとしていたのだと思います。思い出したくない事件です。友人たちの文を読んでいるうちに思い出したので追加することにしました。それは「人さらい」です。この言葉も死語になりました。平和な世がいままで続いていたのだと改めて思います。子供をさらって行って、誰かに売りつけて金を稼ぐことです。（驚いたことに米国ではいまでも「人さらい (kidnapping)」がありふれています。カリフォルニアの牛乳のパックは行方不明になった子供たちの写真が印刷されていて、さらわれた子供たちを探す手段になっています。）この人さらいが終戦直後にはあったのです。上記のように筆者の母は結核にかかってしまい、しばらく入院していたことがあります。そのときにさびしくなって1つ上の兄と二人で表の通りに出て泣いていたら、通りかかったおじさんが病院に連れて行って母に会わせてあげる、と言ったので、見知らぬおじさんの自転車に乗ってしまったのです。兄は片目が不自由だったので、売れないから残されたのだと思います。兄が「いっちゃだめ！」と大泣きしながら捕まえていてくれました。が、大人の力には対抗できませんでした。弟（筆者）が連れて行かれてしまった、大変だとわーわー泣いていました。そこに運よく自転車の父が帰ってきて、すぐに見知らぬおじさんの自転車を追いかけてくれました。「その子を返してくれ」「どうしてだ」「それは私の子だから」という会話を聞いた気がします。軍人で腕には自信のあった父も腕力には訴えなかったのです。上記のいきさつも自分では覚えていません。「私の子だから」という父の声だけは覚えているような気がします。あと10秒、父の帰りが遅かったらもう行方不明で、いまの筆者はなかつたらろうと思います。あるいは、もし兄も一緒に連れて行かれてしまったら、父には何が起こったか分からず、すぐに追いかけてとりもどしてくれることもなかったでしょう。本当にいくつかの偶然が重なって奇跡的に助かったのだと思います。これは小学5、6年ころになったときに、父がこういうこともあったね、と話してくれたので記憶にはっきり残っているのだと思います。そのときに、どうして犯人になぐりかからなかったのか、と父に聞きました。「あのひともかわいそうな人だったのだ。戦争で狂わされてしまったのだ。」と言う答えでした。言葉のやり取りだけで返してくれたのは、そんなに悪い人ではなかったからでしょう。子供を返してくれれば十分で、その人にそれ以上の言葉を投げたり、警察に訴えるようなことも全然しませんでした。でも、こう書いているだけでも心底ぞっとします。戦争になるとこういうことも実際に起こるのです。戦争は前線の兵士だけでなく、町の人々をも狂気にしてしまうのです。

11. 行動で表明しなければ

特定秘密保護法や集団的自衛権を支持していた方、無関心でいた方に、このメモの内容を読んだうえで、ご自分の貴重な一生をどのように使うのがいいのか、ご自分でぜひ考えていただきたいと思います。そしてその考えをなんらかの形で表明してください。投票も表明のひとつですし、制度としては投票は直接政治に影響を与えることができる表明方法です。表明しなければ、なにも考えていないのと同じです。

本当に過半数の日本人がよく考えたうえで戦争に向けて行動することを望むのであれば、われわれは心配しながら見ているしかありません。しかし、たとえば投票率60%でわずか31%の支持でわが国が戦争に向かうことは、なんとかして阻止したいと思います。

第2章の2

第2章の2 戦争に向けた動きをとめよう

参考

(1) 戦争のきっかけ

いかに軍隊が暴走するかという実例ですが、1931年の満州事変（対中国戦争）のきっかけは、日本の軍隊が満州鉄道を自分で爆破して、中国軍の仕業だと言って戦争を開始したのです。（日本の新聞記者、新聞社には、実はこうだ、ということは伝えられていたのに、それを報道した新聞、ラジオはひとつもありませんでした。これは報道機関の問題点で、別箇に議論すべき重要な項目です。）真珠湾攻撃も宣戦布告を数時間ずらして行った不意打ちです。あの戦争の最初の半年は破竹の進撃でしたが、それは上記のような不意打ちや、日本を友好国だと考えていて守備軍隊もおいていなかった島々を軍艦で攻めた結果です。戦いを予想もしていない敵に不意打ちをかけたから占領地が増えたのです。武士道を誇っていたはずの日本の軍隊が、こういう卑怯な方法を実際に実行したことは信じられないことですが真実です。今後永久にわれわれが世界に対して申し訳ないという意識を持ち続け、それを捨てることはできないでしょう。

今の政権にいるひとびとは「日本をとりもどそう」というスローガンが示す通り、敗戦前の日本にあこがれをもっているとしか考えられません。すでに成立させた秘密保護法などによって庶民を締め付け、中国や韓国などに卑怯な戦いをふたたび仕掛けたいと思っているにちがいないと思います。そう思われても仕方のない行動、発言を繰り返しています。そういう人たちの支配がこれ以上続いたら日本は破滅するでしょう。

(2) 戦争準備に反対する理由です。

その1：どんなことを政策としてとりあげるかどうか、というときには、その政策案のプラス面とマイナス面とを比較してプラス面が大きい時に政策としてとりあげるのです。プラス面とマイナス面を天秤判断して、政策とするかどうかを決めるのです。集団的自衛権について、プラス面とマイナス面とをまとめてみると、（本文で書かなかったこともすこし付加しました）

プラス面：a. 地球の裏側であっても日本の軍隊を送り込んで、X国を軍事支援してX国と友好関係を築くことができる。（こんなことをプラス面と考えている人がいるかどうか分かりませんが、実際にこういうことをしている国はあります。）b. 外交上、軍隊を派遣できないために嫌味をいわれるようなことがなくなる。（逆に戦争放棄主義、本当の平和主義を使って優位に立つ外交的工夫、知恵を絞るべきです。）c. 石油輸入ルートを守る。（ホルムズ海峡の機雷除去にすごく執心しているようです。が、機雷除去は国連で軍事行動と規定されています。敵ミサイルを途中で撃ち落とすのと本質的に同じ戦闘行為です。殺されることがない安全な作業と勘違いしているように見えます。）d. ほかに追加すべき利点は??

マイナス面：n. <項目を追加するかもしれないので、アルファベットの後半のnから>日本と関係のない戦争に巻き込まれる可能性が生じる。日本がしたくない戦争をしなければならなくなる。o. 今、周辺国のどこも日本を攻めようなどとは言っていません。その時に日本が戦争の準備をすることは周辺国に脅威を与えますし、周辺国は日本からの攻撃に備える行動をとるでしょう。それは日本にとって危険な状況を招くことにほかなりません。（過去に日本が周辺国に攻め入った歴史があります。中国や韓国から見たら、日本が軍事力を強化するなどの戦争準備をはじめたら強い脅威を感じることはまちがいありません。逆に中国や韓国が日本に攻めてきたことは蒙古来襲以後まったくないことをわれわれ日本側は強く意識すべきだと思います。）p. 日本が直接無関係な戦争に巻き込まれた場合、いままで無関係だった国やグループから敵視されるようになります。たとえばアルカイダから敵視され、日本国内でテロ行為をされる危険が生じます。テロには警察も自衛隊も対処できません。q. いままで平和国家だからと思っていた外国の中には軍事国家になった日本とは距離をおくようになる国も増えるでしょう。貿易上もいま

までより不利になるのではないのでしょうか。今の方向でもっと進むと米国をも含めて世界から異端扱いを受けるようになるでしょう。r. 襲ってくる相手がいないのに戦争準備をすることは予算と人手を無駄に使うことになります。（具体的に言うと、戦争準備に使う分だけ東北の復興や福島の復興にける予算が減ります。）

上記のプラス面とマイナス面の比較で明白なように、大きなマイナス面があるので、戦争準備を政策として取り上げるのは不適切です。（現実的な利点は、外交官が軍隊を派遣できなくて肩身が狭い思いをしないですむことだけです。そんなことのために70年積み上げた戦争放棄主義を崩すのは信じられません。もしかすると今の憲法を壊すこと自体が目的なのかもしれません。

でも、今の憲法を壊すことのプラス面、マイナス面の検討はしているのでしょうか。プラス面とマイナス面の比較検討なしの政策などありえないはずです。）

その2：もしも仮に政策項目に挙げたとしても、つぎに優先順位を考える必要があります。日本にはこれからやらなければいけないことが山ほど沢山あります。上記のように東北の復興や福島原発の処理もあります。それらの多くの項目の中からどうして戦争準備をこんなに重要課題として扱うのでしょうか。政治とはいろいろある課題の中から、どれを先にやるかという優先度を定めることです。戦争準備に高い優先度を与えることは間違っています。

(2-2) 安倍一派は「尖閣列島で実際に脅威を受けている」と言うでしょうけれど、それは本当でしょうか。あんな無人島の尖閣のために平和国家と言う70年かけて築いてきたわが国の誇りを捨てていいのでしょうか。尖閣付近の海に中国の船がよく来ていますが、上陸はしないし、尖閣を占領するとも言っていません。船をあそこに送って中国が言ってくるのは、靖国参拝や歴史を捻じ曲げるなどの行為をやめろ、というメッセージなのです。安倍一派は相手のメッセージを読み間違っています。中国は武力で尖閣を占領したら世界からどんな評価を受けるか、よくわかっています。だから、今すぐでも上陸しようと思えばできるのに上陸はしないのです。世界標準の外交センスがないのは日本側です。

おまけに、尖閣列島への脅威については集団的自衛権はなんの関係もありません。日本に対する直接的な脅威ですから集団的自衛権は不要です。日米安保条約の範囲内だと米国も言っています

(3) このメモの何か所かで、官僚、政治家、大会社幹部が悪いことをしている、という書き方をしましたが、おおざっぱな書き方で、官僚も半分以上、おそらく80%は誠実にきちんとした仕事をしています。あんな首相でも一応国として機能しているのはそういう誠実な官僚のおかげです。政治家や会社の幹部も同様でしょう。そういう誠実なひとの判断で機能するようになってほしいものです。（筆者は仕事で官僚なども随分付き合いましたが、いい人だと思った人の多くは40歳代で役所から退職してしまいました。）

(4) 安倍首相は戦争の準備をすることを正当化するために、中国や韓国などが感情を害するような行動をして、相手がこんなに危険だと示そうとしています。靖国神社に行くのは、戦死者に感謝し、平和を願うため、と口では言っていますが、実は中国や韓国をけしかけて日本に対する危険な言葉を言わせるためです。そういう作戦に乗るほどわれわれ日本人がバカではないことを願っています。

(中国や韓国はそういう挑発に乗らず、日本を攻めるといようなことはひとつも言っていない。それだけで、もう負けています。)

(4-2) 「『侵略』の定義はない」と発言するような安倍氏らの行為は、わが国の中国や韓国に対する負い目を増やしています。将来わが国が国際社会に言い訳をし謝らなければいけない事項を増やしているだけです。「侵略」の定義は国連文書の中にちゃんとあります。《国連総会議決3314、1974年》こんな重要で基幹的なことも調べないでいかげんに発言する首相をもったことはわれわれの大きな恥です。（筆者は、侵略の定義はないという発言だけで首相を辞任させるくらいの重要な発言だと思います。こういう首相を放置している日本の社会全体が世界から不審の目で見られていると思います。我が国が過去に韓国や中国に侵略したことを否定し

ようとして、「侵略の定義はない」と発言したことは誰が見ても明白です。このような過去の歴史を書き直そうとする意図自体が将来のわが国の国際的な立場をより困難なものにします。すでにそうしてしまいました。これ以上の負の実績を残さないでほしいと思います。こういう首相を作ったのはわれわれなのです。世界からは、こういう首相を望む国民が多いのだ、と見られます。われわれが行動しなければ状況は是正されないでしょう。)

(4-3) 国として、首相としての発言は、すべて相手側が同じ発言をしても困らないものでなければなりません。同一の定義、基準のもとの発言でなければ、外国に対して発言の意味がないからです。「侵略の定義はない」という発言をしてしまったということは、もしもどこかの国から侵略を受けた時に敵(日本を侵略した国)が同じことを言っても何も言い返せない、ということの意味をしています。安倍一派は、このことを分かっているのでしょうか。

(4-4) さらに考えを進めていくと、こんな結論に至ります。それは：

a. 侵略を受けた国の首相が「『侵略』と言う定義はない」などと発言することは考えられません。なんの利益もありませんから。 b. 侵略したことも侵略を受けたこともない国の首相が、この発言をすることも考えられません。無関係なことに口を出して災いを呼び込むことは避けるでしょうから。 c. この2点を考えると、この発言をするのは侵略したことのある国の首相しかありえません。結局、安倍首相の、この発言は本人の意図に反して「わが国は侵略しました」と言ったのと等価なのです。おそらく安倍氏本人とその取り巻きは、この点に気づいていないと思います。

(4-5) 1920年代以降、わが国が韓国や中国に軍隊を送るようになったのは、数世紀以上前に始まった欧米諸国の中国侵略、植民地獲得を真似て始めたものだと考えられます。欧米諸国は香港や上海など沿岸部を占領しただけですが、日本は傀儡政権の満州国を設立したり、中国の奥地まで攻め込んだりしました。欧米諸国がしたことをはるかに超える蛮行です。中国が今も日本を特別に非難しているのには理由があるのです。

(4-6) ロシアも内陸の満州に軍隊を出しています。が、北京まで軍で攻め込むようなことはしていませんし、1949年以降は同じ共産主義国家なので、中国がロシアを非難することはしていません。日本がわざわざ海を渡って攻め込んだことも、地続きのロシアが攻め込んだのとは違う重さがあると思います。

(4-7) 上記(4-4)の続きですが、安倍首相の言葉は、「これからも機会があったらまた侵略したい」というようにも解釈できるでしょう。「日本を取り戻す」ということばと重ねると、このように解釈されても仕方がないと思います。

(4-8) 2014年8月15日の終戦記念式典での安倍氏のあいさつ文について「多くの首相が言及してきたアジア諸国への加害責任については、昨年に続き、今年も触れなかった。」と報道されています。ますます上記(4-4)、(4-7)の解釈が安倍一派の本心だろうと勘ぐりたくなります。(筆者の父は電波技術の職業軍人でしたが、筆者が子供のころから8月15日が近付くと「違うんだよ。敗戦記念日、敗戦記念式典なのだよ。」といつも言っていました。何を言っているのかそのころは分かりませんでした。いまははっきり理解できます。「敗戦」を「終戦」と言い換えてきたことの重さを安倍政権が改めて思い知らせてくれたのだと思います。)

(4-9) 日本軍が中国で捕虜を殺すなどひどいことをしたことは、命令されて実行した人の証言が沢山あり、事実であることは間違いありません。それに対して中国は敗戦後残った日本人を丁重に扱いました。自分たちはコーリャンなど貧しい食事をしていただけなのに残留した日本人にはおいしい白米を食べさせるなど厚遇していたそうです。これも証言がいくつもあります。そういう中国に対して、意識して加害責任を削除した挨拶をすることなど、われわれの首相としてこれ以上の恥はありません。こういう人を首相にしてしまったことをわれわれは今後数世代にわたって謝罪しなければならないでしょう。

(5) 小競り合いから戦争に移るときには両方が「相手が先に撃った」と言います。事実は調査

しても分からないでしょう。（ビデオなどは編集が可能です。）安倍首相は米国に出張した時に「わたしを軍国主義者と呼びたいならばそう呼んでいただいかまわない。」と発言しています。戦争になったときに日本が何を言っても、そんなことを言った首相の国のほうが悪いに違いない、と世界は思うでしょう。そんなことも考えることができないで発言してしまうひとが首相であることは悲しさを通り越しています。そういうひとのすることをどこまで支持し、後押しするのでしょうか。

（５－２）「私は軍国主義者だ」と言っているに等しいのですが、こんなことをためらうことなしに言う人が首相や首脳部にいる国はないと思います。欧米の首脳はもちろん、ロシアのプーチンや中国の習近平だって軍国主義者などと言われたら怒るでしょう。こんなことを言ったら、それだけで弾劾、リコールされるのが普通でしょう。世界情勢を知らない、勉強不足の、時代錯誤の首相を持ったことはわれわれの大きな恥です。こういう首相を持って平気である日本人は恐ろしい、不可解だ、と世界のひとびとは思っていることでしょう。ドイツでは法律で禁止しているナチ礼賛、ネオナチとほとんど同じことだと思います。

（５－３）安倍氏は、安倍氏の周りにいる人たちに受けがよくなるから、「軍国主義者と言ってもらってかまわない」と言ったに違いありません。周囲のひとびとに評判が悪くなるとしたらあんなことは決して言わないでしょう。恐ろしいのは、首相がそういう人たちにいつも囲まれて暮らしていること、そして首相官邸などにそういう人たち（自分の仕える人が軍国主義者と言われて喜ぶような人たち）がいっぱい居ることです。

（６）前にも書きましたが、日本は韓国、中国に攻め込んだことがあるけれど、その逆はない（蒙古襲来のあとは）ということは、日本人は忘れているようですが、中国、韓国のみなさんには決して忘れられないでしょう。逆だった場合を考えてみれば明らかです。「対等に」などと日本の側から言える状況ではないのだと思います。これも、もし逆だったらどう思うか考えてみてください。（東京空襲や原爆などひどい仕打ちを受けたのに米国と親密になっているわが国と同じ態度を他国に求めることはできないと思います。戦時ではないときにいきなりハワイを攻めたのは日本です。米国が平時に日本を攻めたことはありません。これも、われわれは意識していないのでしょうか。戦争を仕掛けたという負い目があるから、そして戦後直後に米国は給食の粉ミルクを無料でくれるなど日本のわれわれを大いに援助してくれたから空襲や原爆のことは忘れることにしたのかもしれませんが。でも、韓国、中国から見て同じような理由はありません。）

（７）日本人家族が乗った米国軍艦を助ける、とはどういう状況なのでしょう。米国軍艦の近くに日本の軍艦がいるとしたら、敵は日本の軍艦も攻めるでしょうから、助けるどころではないはずで、米国の軍艦からすれば、日本の軍艦を助けなければと思うでしょう。面倒をみななければならぬ対象が増えただけで、来ないでくれ、と思うのではないのでしょうか。本文に書いたように、「日本人家族より米国人家族を優先する。日本人を避難させる義務は負わない。」と米国にはっきり言われているのです。アメリカ国防省のホームページには、アメリカ市民でさえ、軍隊に余力があるときだけ救助すると書いてあるそうです。敵に攻撃されそうな時にアメリカ人でも兵士以外を軍艦にのせるなどということは考えられません。こんな事例をしゃあしゃあと出すような安倍首相とそのとりまきは信用できないと思います。これもオーム真理教がやっていたことと同じだと思っています。

（８）わが国でも戦国時代がありました。が、関が原などいくつかの例外はありますが、多くの場合に大量の死者が出ないようにしてきました。大将同士が決闘で勝敗を決めて、大部分の将兵は死をのがれることもありました。

（９）武器の輸出は直接の戦争参加ではないと考えているかもしれませんが。でも違います。アフガニスタン戦争の時に日本は米国の軍艦に燃料を補給するという後方支援を行いました。後方支援だから殺人には関与していない、というのがわれわれの理解だったと思います。でも、殺される方から見たら、そんなことはありません。アフガニスタンや隣国のパキスタンの山岳などで支

援をしていたNPOの日本人のみなさんは、日本の燃料補給のために何人が殺されたと思っているのか、と言われていたそうです。後方支援であっても戦争参加に違いないのです。特に無人機などで攻撃される側から見れば、燃料を補給している日本は憎悪の対象です。

(9-2) 現在の日本の社会システムには、好ましくない会社をつぶす手段が含まれています。武器を製造する会社の株式を持っていたら、すぐに売り飛ばしましょう。そんな会社の株は決して買ってはいけません。人殺しをして(殺人機器、武器を売ることは殺人と同じです)得た配当金を受け取りたいですか？

(9-3) 将来、外国からテロリストが入ってくる可能性が出てきましたが、彼らはおそらく最初に武器製造会社の幹部と株主をターゲットとするでしょう。その会社のコンピュータをハッキングしたり、その会社にSEを送り込めば、そういう情報はすぐに入手できるでしょう。

(9-4) 「そんなことをしたらテロを呼び込むかもしれない」と何回か書きましたが、そう書かないと感ぜない人たちに対する書き方です。本心は、たとえ外国人、敵であっても人殺しに加担することには耐えられない、ということです。自分の作った地雷で世界中で子供を含む何の落ち度もない人たちが何十万人も死んだり怪我をしているのを見て、地雷を作った会社の人や株主の人たちはどう思っているのでしょうか。そういう人たちが永遠に苦悶する地獄があつてほしいと思いますね。銃や爆弾についても同じです。そういう会社、武器を輸出して儲ける会社を日本に作ろうとするとは信じられないことです。

(10) 特定秘密保護法や集団的自衛権が必要だという説明のひとつに、普通の国になるべきだ、という説明(理由)もあります。筆者は普通の国になる必要はない、普通の国になることによる利点はないと思っています。むしろ、他国にない特徴を持った国になるべきだと思います。もしも普通の国というならば、最初に天皇をなくすべきでしょう。いまEmperorがいるのは日本だけです。

補足1

(1) 2014年7月12日のニュースで「『攻撃が発生する明白な危険が切迫している』場合でも武力行使を可能とする」方針が報道されました。一番避けるべき先制攻撃を可能にしたことは、もっと真剣に議論されるべき重要なことです。マスコミはどうして軽く扱っているのでしょうか。

いままでは攻撃されるまでは武力は行使できないことになっていました。「切迫している」と判断するのは首相です。首相の判断で先制攻撃(たとえば敵のミサイル基地を攻撃)ができるようにしたいということです。周辺国のどどこが日本を攻撃すると言っているのでしょうか。どこもそんなことは言いません。中国や韓国も、あきれているでしょう。そんなことに日本の国力を浪費してくれるのはありがたいと思っていますことでしょうか。自分で敵を作って、作った敵におびえている、、、バカですね。このバカによって日本の貴重な税金がどれだけ無駄遣いされるかわかりません。そんなことに備えるために税金や人材を使ってほしくありません。安倍首相とその周辺がつぎつぎと戦争準備を(先制攻撃までも)繰り出してくるのは尋常な心理とは思えません。(本当の敵もないのに。戦争ごっこをしたい駄々っ子のようなものです。ごっこではないのです。本当の戦争を準備していることが、この上なく恐ろしいことです。)

(2) 第2次世界大戦の敗戦で失った日本の誇りをとりもどそう、というのが本音のようにも見えます。そうだとしたら、その誇りを失ったのはバカな戦争をしたためだ、とは思わないのでしょうか。そして、取り戻そうとしている昔の誇りとは、それによってわが国が大敗した根源です。昔の誇りを取り戻すということは、ふたたび同じような戦争をして大敗することを意味していることが分からないのでしょうか。祖父と2代にわたって日本の誇りを傷つけ、歴史を汚そうとしているのが分からないのでしょうか。

(3) 国会などの議論の場でも、安倍首相は質問にきちんと答えず、はぐらかしてばかりいます。間違いなく、安倍首相自身が質問への答えを持っていないのだと思います。だれもが抱く疑問への答えもなしに、危険な政策を推し進めることに自分でおかしいとは思わないのでしょうか。そんな人が首相になってしまうメカニズムに欠陥があると思います。そして、いまの安倍首相を支持し、いろいろ危険なことを吹き込んでいる取り巻きのひとたちは同罪です。そういう人たちにとって都合の良い傀儡（かいらい）、操り人形になっていることに早く安倍首相が気づいてほしいものです。

(3-2) 安倍首相は、集団的自衛権について質問されたり、納得していない、という意見を聞くたびに「丁寧に説明していく。そうすれば分かってもらえる。」という発言を繰り返すばかりで、一向に「丁寧な説明」はしようとしていません。「説明しようとしてない」という点をもっと強く追及して辞任に追い込むべきだなのではないのでしょうか。

(3-3) 集団的自衛権の閣議決定の前に自民党、公明党で議論を尽くした、議論を尽くしたから決定した、と言っています。その議論で出てきた質問と答えがあるはずですが、どんな質問に出会っても答えがあるから、閣議決定をしたはずなのです。それなのにまともな回答ができないということは、党内での議論がいかに粗雑なものだったかを証明しています。自民党、公明党の全議員は職務怠慢です。自分たちの党首に答えを教えられないのですから。（十分に党内で検討審議した、ということと、質問にまともな答えがない、答えられない、ということとは矛盾しています。矛盾したことを平気で言い行動すよような人に国政を任せることはできません。）

(3-4) いつも安倍首相は口先だけです。こういう人と会談しても無意味です。諸外国の首脳が安倍氏との会談を避けているのは、この点も理由のひとつだろうと思われま

(4) 7月16日の新聞には、自衛官の生命をリスクにかけることについて、「めったにそういう判断はしないし、そうしなくてもいい状況を作っていくことに、外交的に全力を尽くしていく。」と答えたと書いてあります。「外交的に全力を尽くす」のならば、最初から集団的自衛権が必要な状況を作らなければいいのです。自分で矛盾したことを言っています。（自衛官を派遣してしまった後の、その生命リスクを避けるための外交努力より、最初から派遣しないように、集団的自衛権の必要がないようにする外交努力の方がずっと楽なはずです。）

(5) 外国に自衛隊を派遣できるようにしたいから集団的自衛権を言い出したのではなかったのでしょうか。その最初の目的を放り出して、今度は派遣しないでいように努力すると言っています。いったい、なにをしたいのでしょうか。本当は何をしたいのか、それが分からない政権ほど恐ろしいものはありません。（外国に自衛隊を派遣したいなら、その主張を続け、詳しく説明するべきです。反対があるからと言って、ひょいと違うことを言い始めるのは卑怯です。海外派遣の必要性を説得できないときは集団的自衛権と言う最初の事項を撤回すべきです。どんな反対論があっても説得できるようでなければ政策として言い始めてはいけないのです。）

(5-2) 2014年8月には靖国神社への参拝をしないことに決めたそうです。前回参拝した後には「中国や韓国の嫌がることをしたわけではない。戦死者に感謝し、平和を祈った。」と言っていました。それだったら、どうしてそれを続けないのでしょうか。筆者流の意地悪な解釈では、今年行かなかったということは、「前回はいやがらせで靖国に行ったのだ」と証明したようなものです。それとも、今後は中国や韓国の言いなりになることに決めた、とでも言うのでしょうか。この例が示すように、安倍氏一派の行動には、信念が見えません。くりかえしますが、何をしたいのかが分からないほど恐ろしいことはありません。

(6) 当面の海外派遣はあきらめるが、将来のために集団的自衛権は行使できるようにしておく。その意図はなにか。集団的自衛権により、どこかの国の政府が助けを求めてきたら軍を派遣できます。どこか攻め入りたい国に傀儡政権を作って日本に助けを求めさせて攻め込む。日本が満州などで実際に行った方法です。まさかと思いたいですが、いま軍隊（自衛隊）の海外派遣をしないと言っておきながら集団的自衛権にこだわるのは、将来いつか上記の方法で攻めたいと思っているからではないのでしょうか。中国や韓国からそのように見られても反論できないでしょう。

- (参考書) 1) 集団的自衛権の何が問題か——解釈改憲批判 半田 滋ほか 岩波書店 2014
4
2) それでも、日本人は「戦争」を選んだ 加藤陽子 朝日出版社 2009
3) とめられなかった戦争 (NHKさかのぼり日本史) 加藤陽子 NHK出版 2011
4) 日本人は人を殺しに行くのか 伊勢崎賢治 朝日新書 2014

補足2

1. 戦争とは

(1-1) 人類はどうして戦争を繰り返しているのでしょうか。戦争の原因として考えられることは、

1) まず、相手が攻めてきたから守るため、という理由があります。が、ここではどうして攻め始めるのか、の理由を整理してみたいと思います。それは、2) 他国の領土にある資源を得るため、3) 他国のひとびとを自分の支配下に入れて、自分に利益をもたらすように働かせるため、4) 相手国が自分の貿易を阻害したので、懲らしめるため、5) 相手が自分の誇りを傷つけたので懲らしめるため、6) 過去に負けたので、仕返しをするため、7) 過去に負けて奪われた領土をとりもどすため、8) まだなにかあるかもしれません。

1) の「攻められたから守るため」という理由が一番分かりやすいので、多くの戦争が、この理由で始まっています。しかし、多くの場合、双方が「相手が先に撃った、攻め始めた」と言いますし、その真相はほとんどの場合、不明です。日本は満州事変で関東軍が自分で鉄道を爆破して、中国軍が爆破したとうそを言ったことがはっきり分かっていますし、真珠湾攻撃も日本が先に不意打ちをしたことがはっきりしています。こういう実績があるので、今後は相手が先に撃ったと日本が言っても信用されないだろうと思います。

現在および将来を考えて、わが国が戦争を起こす理由は、上記の1) しかありません。ほかの項目はすべて平和的手段で解決すべきだ、ということに異論のある人はいるのでしょうか。

では、どこの国か分かりませんが、日本を攻めようと考えているのは、どの理由なのでしょうか。日本を攻めたいと思っているところがあるのでしょうか。(どうして今、戦争の準備をしなくてはいけないのでしょうか。)

ちょっと個別事項に触れますが、中国が資源をもとめて南の海に軍を展開し始めているのは心配です。でも、日本をターゲットにはしていません。尖閣諸島も心配ではありますが、いまだに強硬上陸などしていないところから判断すると、上陸した場合の世界からの反応(非難)を気にして尖閣を理由に戦争を起こそうとはしていないのだと思います。(海底の資源や漁業資源がありますが、現状では日本も操業できない状態で、あの付近は事実上、資源保存地区になっています。当分、現状維持でいいのだと思います。) 竹島も戦争事態になるよりは現状維持のほうがよいという判断が正しいのだと思います。(こういうことは、取りうるいくつかの選択肢それぞれのプラス面とマイナス面とを比較して天秤判断で行動を決めるべきです。一面だけを見て強硬に押し進めるのはまちがいです。)

(1-2) 昔は部族と部族が戦い、何回も戦いを繰り返した後に統合して一つの村になりました。次は村と村が何回か戦って統合して町となり、このような段階を繰り返して、今の「国」が出来てきたのです。この流れから言えることは、今後は国と国が統合する段階に来ているということでしょう。この現在の時点で国同士の戦争を想定して戦争の準備をするなど、歴史の流れを知らない時代錯誤の行為です。戦争準備をする予算と人手を、もっとひとびとの幸福に役立つ政策

に振り向けるべきです。

(1-3) 地球は太陽系の第3惑星です。太陽の周りをまわっている青い美しい星を想像してみてください。地球の近くには生物が生きている星はありません。この広い宇宙の中で生物と言う珍しい分子のかたまりとして生まれ、暮らしている我々は宇宙の中でも奇跡的なものなのです。まして、いろいろと考えることのできる人間であることは、もっと大きな奇跡です。そういう人間同士が争い、殺し合うことは、とてもとても、もったいないことです。怒りを感じたら、夜までじっと我慢して夜空に輝く星を見て、自分が奇跡的な生物であり、人類であることを思い出し、みてください。ペンネームをスターダスト(星屑)としたのは、こういう理由からです。

2. 国家と個人

政治について語り始めるときに、「国とは」、「国家とは」ということから語り始めるひとびとと、「人の幸福とは」、「人間とは」と語り始めるひとびとと2通りいて、その両者の意見を調整、一致させることは難しいことだと思います。筆者は、個人、ひととは、から考え始めます。「国」は個人の生活を便利にするために、個人に幸せを与えるために、多くの個人の間の合意で作っているものだと思います。

一方、まず「国」があって、個人は国に奉仕するものだ、個人の国への奉仕が個人の幸せを招くのだ、と考えている人たちもいます。後者のひとびとは、過去の時代の、国王の作った国、国王のための国、(国王を天皇と書き換えても同じです)という基本的考え方から脱却できていないひとびとも含まれていると筆者は思っています。でも、国王や天皇のいない国でも国民は国家に奉仕すべきだ、という思想の人もいますから不思議です。筆者には理解できません。そういう人たちは個人(庶民)の奉仕の利益を受ける立場にいる人たちに違いありません。「国家とは」から始める人たちの大部分は大企業の幹部、政府の官僚、軍の幹部がを占めるでしょう。(ここも逆は真ならず、だと思います。大企業の幹部や、官僚、軍の幹部でも、庶民を最初に考える人が実は多いのだと思います。そう信じたいところです。)が、本来、政府の官僚や軍は庶民に奉仕すべき立場なのです。大企業の幹部も本来は多くの株主の「しもべ」なのです。

日本でも、45年までの戦争まで、旧憲法の時代は「日本は天皇の国」が基本的な思想でした。旧憲法はこの思想で作られています。敗戦後にできた新憲法は、「国民のための国」が基本的な思想です。国の基本的思想が180度変わったのです。われわれは新憲法のもとで、新憲法の基本的な思想で教育を受けてきました。ですから、旧憲法がどうだったかとか、戦争以前のわが国のシステムがどうなっていたか、ということは今回、このメモを書くにあたって初めて勉強しました。そして、その内容に驚きました。万能の超優秀な天皇がいれば正しく国を導いてくれるでしょうけれど、そんな人はいませんから、国が正しく動くわけはなかったと思いました。しかも、国民のため、という考えは入っていません。天皇が国民のためを思うはずだ、という想定に基づいてできたシステムです。そのシステムの間違ひは数十年かかって、1945年の世界でも例のない大敗という形で結果を示したのです。(世界情勢も大きく変化していますから、これから将来に向けて旧憲法(の思想)を復活させることなどは、とても考えられないことです。「日本をとりもどす」とは、本当になにを意図しているのでしょうか。)

世界には英国やオランダなど、国王がいる国もいくつかあります。しかし、現在、国王のための国と言う基本思想で動いている国はないと思われます。(驚いたことに英国には憲法はありません。)国会で王室の存在を否決されたら王室はなくなるでしょう。そうならないように、王室は国民からよい評価を得るように大きな努力を続けています。日本も同じだと思います。

3. 1945年までの戦争の概略

筆者がざっと調べたところでは、戦争は1894年の日清戦争から一続きだったと考えられます。その概略の年表を示します。(このメモの内容を話す時に、戦争のことも知らないのに、などと言われぬように最低限の知識を持っていた方がいいと思うので。)

1894-95 日清戦争 目的: 朝鮮を清国、ロシアにとられないように。結果: 台

湾と遼東半島を獲得。

- 1895 三国干渉 ロシア、ドイツ、フランスが干渉。遼東半島を返還。
しかし、その後ロシア、ドイツが遼東半島に進出
- 1904 日露戦争 目的：朝鮮をロシアにとられないように。遼東半島をとり
もどす。
旅順攻防戦、日本海海戦(ロシア主力海軍を壊滅) 結果
：遼東半島、南樺太、
南満州鉄道を獲得(鉄道の周辺警備のため軍隊派遣)
- 1910 朝鮮併合
- 1914-19 第1次世界大戦 主戦場は欧州 1918シベリア出兵 ドイツ領だった
南太平洋の諸島を獲得
- 1929 世界恐慌
- 1931 満州事変(柳条湖事件) 日本の関東軍が満鉄を爆破。中国側の仕業と偽って満
州への攻撃開始
- 1932.3 満州国建国 日本の傀儡政権
- 1932.5 5.15事件 海軍の青年将校たちが犬養首相を暗殺
- 1933.2 熱河省侵攻(北京へ侵攻) 天皇は作戦の裁可取り消しを希望したが、周囲が
阻止
- 1933.2末 国際連盟脱退
- 1936 2.26事件 陸軍の責任者は「自分の部下を自分の部下で撃つことはで
きない」と言って数日後
まで討伐を開始しなかった。(陸軍幹部の意を受けて起き
た事件だったことの証拠)
(1931以降、いろいろな面で陸軍が勝手に暴走した。天皇も制御できず。
国のシステムの崩壊)
- 1937 日中戦争開始 北京郊外の盧溝橋で交戦開始(中国側から攻撃されたと
主張)
- 1939.5-9 ノモンハン事件 満州の日本軍がソ連軍に大敗
- 1941.12.8 対米戦争開始(真珠湾攻撃) 同時にマレー半島で攻撃開始
- 1942.6 ミッドウェー海戦で大敗(大半の海軍力を失った) この敗戦は海軍内でも秘
密にされ、陸軍は知らな
かった。
- 1943.2 ガダルカナルで大敗
- 1944.6 インパールで大敗
6 サイパン陥落
- 1944.11- 東京空襲
- 1945.8 広島、長崎に原爆
- 1945.8.15 敗戦宣言(天皇の詔勅 ラジオで天皇の声で放送：「玉音放送」)



筆者が驚いたことをいくつか書いておきます。

1. 海軍と陸軍は、それぞれが別個に直接天皇の下についた組織。内閣、首相の指揮は受けない。
2. 軍が勝手に動いた。軍が天皇に反抗することを恐れて軍紀違反には問わず。事後承認した。
(1936年の2.26事件をはじめ、軍による要人暗殺が続き、恐れて軍に反対する大臣等は少数のみ)
3. 海軍と陸軍は競争、背反。(旅順攻撃で協力したのが珍しく、特記されるほど。)
4. 日露戦争の経験をもつ山本五十六が異常に戦線拡大する海軍を指揮。だれも止められなかった。陸軍も陸軍大臣だった
た東条が近衛首相を辞任させて自分が首相兼陸軍大臣になったので、陸軍の暴走も止められなかった。
5. 真珠湾攻撃は対米戦争の開始にすぎなかった。1931以来10年間中国と戦争していたが、中国との戦争は戦争とは認識されていなかった。
6. 真珠湾攻撃の時、多くの日本人は中国とのどろ沼戦争から抜け出せる、米国と言う大国を相手にして(欧米主義を倒してアジア主義を世界に広めるといふ?)正義の戦いができると思ってほっとした。
7. 海軍と陸軍はまったく別。陸軍は中国とソ連との戦争。太平洋での米国との戦争は海軍の仕事だった。
8. ミッドウェーでの大敗は軍隊の間にも知られなかった。大敗しているのに他方面では攻め続けていた。
9. 徴兵されてひどい訓練(いじめ)を受けたり、戦闘(戦争の一部分)でひどい現場を経験した兵士は、帰郷させず、すぐに次の戦闘現場に送って、軍隊のひどい状況が一般社会に伝わらな

いようにしていた。他方、連合軍（米英など）では徴兵した兵士は数か月で戦闘現場から交代させて、異常なストレスを避けさせていた。

10. 1943年以降、敗戦が明確になっても軍は戦争継続を図った。敗戦宣言（ポツダム宣言受諾）の天皇のラジオ放送用レコード盤もあやうく軍の手から逃れて放送できた。

11. 戦争の死者の半分以上（8割以上？）は、1944、45年の2年間に犠牲になった。1944年（サイパン陥落

の6月）に敗戦宣言しておけば犠牲者は半分以下、原爆もなくすんだ。

12. （どの本にも書いてありませんが）敗戦後、責任追及の動きが国内で全く起きなかったことが筆者には最大の驚き。

（すこしはそのような動きがあったのかもしれませんが、筆者が読んだ中にはありませんでした。）

13. 敗戦を「終戦」と言い換えて、敗戦の責任逃れを現在まで続けている。これはいろいろな面で大きな意味を持っている。おそらく後世では、わが国の大きな恥として記録に残るだろう。

（追記）上記のように、軍の暴走（戦争を勝手に開始したり、要人を次々に暗殺、庶民を治安維持法で締め付ける、など）が悲劇の原因です。これが「軍国主義」です。首相ともあろう人が、こういうことを知らないはずはありません。知ったうえで「私を軍国主義者だと呼んでもらってもかまわない。」などと言えるのは異常です。たとえ冗談だとしても一国の首相がそのような発言をしたら、それだけで辞職に追い込まれるのが世界の常識ではないでしょうか。そういう人を平気で首相に据えたままで放っている日本人は理解できない、と世界から見られていることは意識しておいてください。

（追記2）1941年の対米戦争開始の時、日本は石油の輸入の70%、鉄の原料の50%を米国に頼っていました。その米国に戦争を仕掛けるなんて正気の沙汰とは思えません。昭和に入って軍が政治に乗り出して以来、治安維持法などでひとびとの口を封じ、軍国主義に日本をマインドコントロールしてきた結果です。（学徒動員で兵器工場に行ったひとが、兵器を作っている大型工作機械が全部米国製なのを見て、これは負けると思ったそうです。）

（追記3）このメモでは、何か所かで戦争をしても日本が勝てるわけがない、と書きました。それは日本の地形と位置（地政学上の理由）からだけではありません。1945年までの戦争の大敗の理由をきちんと整理していないからです。スポーツなどでは負けたら敗戦の理由を解析、分析して次の試合では必ず勝てるように工夫をして臨みます。それをしないで、すなわち、すべての国民が前の戦争の反省をし、なにを改めるべきかをしらないで戦争に突入したらどういう結果が待っているか、日を見るより明らかです。敵のロケットは撃ち落とすことができる、というような話もされていますが、そういうことはあっても一時的なことに過ぎません。（迎撃ロケットでも敵ロケットの半数は撃ち落とせず、残ったロケットが日本のどこかを破壊するでしょう。下手をすると迎撃ロケットが国内に落ちて日本人が日本のロケットで殺される可能性も低くはありません。）半年、1年と長引いたら日本に勝ちはありませんし、相手がどの国であろうと1年以下で降参するような国はないでしょう。

この文章を読んで、敗戦の理由を分析してまた戦争をしようとして書いてある、などと誤解するひとはいないと思いますが、筆者は、きちんと45年までの戦争を分析したら、いかに愚かなことだったかが判明すると思います。すくなくも現在の基準、思考では考えられないような愚かなことだったのです。なかでも、兵士にろくな食事も与えず、消耗品のように扱ったことは当時の敵だった米英などと大きな相違です。（半数以上、ひどい場合は8、9割の兵士が餓死、病死という状況や特攻隊は人間を消耗品扱いにしたことにほかなりません。）

戦争をしたくてしようがない安倍一派のようなひとびとに騙されてはいけません。

（追記4）45年までの戦争のとき徴兵されたり、動員（学徒動員）された人々が兵卒として虫けらのように扱われました。もし戦争になったら、今度はだれが兵卒になるのでしょうか。指揮

官の言うとおりに黙々と死に向かい、敵であっても人を殺すような人はいないでしょう。いまはもう戦争に役立つ人はいないでしょう。戦争はできないと思います。できない戦争のために税金を使うことは絶対に許せません。

4. これからの日本のために

今回、このメモをまとめるために戦争について初めていろいろ学びましたが、これからのわが国が戦争を避けて平和に暮らしているようにするため、いくつかの基本的な点を書いておきます。

(4-1) 戦争の経験、記録を

70歳の筆者も今回はじめていくつかの本に目を通して勉強したのですが、過去の戦争の記録、経験をもっと幅広く若い皆さんが知るようにする必要があります。過去の悲惨な経験を繰り返さないために。最近、そのような本が相当数出るようになったのは喜ばしいことだと思います。

過去の戦争については、敗戦の直後に朝鮮戦争が勃発して米国から再軍備を迫られるなどの事情があって、日本として戦争を総括するというをしないうちに70年が経ってしまいました。東京での戦勝国の裁判（東京裁判）で東条などが裁かれて、戦犯にA級、B級などのランクが付けられましたが、日本としてのそのような判断はまったく行われていません。

過去の戦争の責任を追及してもいいかもしれませんが、すでに大部分は逝去していますし、それら責任者を処罰しても将来のためになるとは思えません。それよりも、事実をちゃんと把握して整理し、なにが悲惨な状況を招いたかを明確にして、それを繰り返さないように社会のシステムを改良することが非常に重要なことだと思います。

そういう総括をしたり、まとめを作ろうとすると、戦争を是認するひとびとが妨害したり、賛同者のように装って活動に参加し、作業の邪魔をするという心配があります。日本人の中で仲間割れしては、元も子もないので、趣旨の違ういくつかのグループでそれぞれに総括してまとめをつくるという方法でもいいと思います。作成されるいくつかの報告書の中で、長い間ひとびとが信じる報告書が自然に選ばれて残るでしょう。

(4-2) トレードオフ（天秤判断）を意識しよう

何であっても、ものごとを決断する時には、プラス面とマイナス面とを比較して、プラス面の多いほうを選んでいくはずで、これをトレードオフ、天秤判断といいます。われわれも日常的に天秤判断をしています。100円でお菓子を買うとき、財布の中のお金が減るというマイナス面よりも、おいしさを味わえるというプラス面の方が大きいと判断して、そのお菓子を買っているのです。えー？そうかい？と思われたかもしれませんが、そのように日本では天秤判断を表に出しませんし、意識もしない場合が多いのです。この例でもお菓子がおいしそうでなければ、おいしさというプラス面より100円減るというマイナス面の方が大きいから、買うのはやめます。これからの日本で、多くの国民が理解でき、納得する政策を選択するためには、上記の天秤判断をはっきりと表面に出す必要があります。為政者は政策のプラス面しか言わず、反対者はマイナス面だけを言うのでは、ちゃんとした議論ができません。この政策のマイナス面はこれこれだが、プラス面がこれほど大きいから実施したい、と訴えるべきなのです。そうすれば、マイナス面も承知の上での合意ができます。

このトレードオフの意識が広まれば、何千人、何万人の命と引き換えてもプラスだと考えられる目的とは何か、ということをもみんなが真剣に考えるようになるでしょう。（資源などは、これからは通商と言う平和的手段で手に入れるものですし、戦争の理由として最後に残るのは「誇り」でしょうか。でも、その「誇り」とは何なのでしょう。いまからよく考えておくほうがいいだろうと思います。）

(4-3) 「前言を翻す」のは悪か・・・ 武士に二言あるべし

日本では、一回発言した内容を変更すると、信用できない人、というレッテルが張られてしまいます。これはいいことなのでしょうか。

ものごとの判断は、判断の原理・基準のもとに必要な情報を入れて、ある判断方法を使って行います。判断の原理・基準とは、前項には書きませんでした、どういうことを目指しているか、何を目的、目標としているか、ということです。判断方法とは、前項の例で書けば、プラス面の多いほうを取る、という方法です。

さて、ある人が宇都宮に行くのにある程度調べた後に湘南新宿線を使うと決めて発表します。しかし、その後、新幹線が走っていることを知って、「湘南新宿線はやめた。新幹線にする。」と訂正の発表をします。この内容ならば、たぶんこの人は信用を失うことはないでしょう。けれど、政治の世界で同じことをすると、その政治家は信用を失ってしまいます。A党の主張に賛同するからA党を応援すると言っていた政治家が、A党ではなくてB党を応援することに変更する、と言うとその政治家は信用を失うでしょう。その政治家が、以前は知らなかったがA党が私としては許容できない考えを持っていることが判明したからだ、あるいは、これまではよかったが新しくA党が出した公約は自分の信条に合わないから、と理由を説明しても信用の回復は難しいのではないのでしょうか。でも、これは日本の悪い慣習だと思います。

上記の事を理科の言い方でもう一回書いてみます。ある判断すべき事項Aについて、yesとすべきか、noとすべきかを定める式があります。それは

$$DA = k_1 \times f_1 + k_2 \times f_2 + k_3 \times f_3 + \dots$$

という式で、DAが正ならばyesとすべきだし、負ならばnoと判断すべきだ、という式です。

f1を費用の項目だとすると、費用がかかりすぎるようならば、noにすべきですから、f1は負の数字です。少々金がかかっても進めるべきことだから、という場合はその項目をどのくらい重要だと考えるかのウェイト係数のk1を小さな値にします。k2、f2はその項目（政策）に必要な人員数で、これも必要な人数が多すぎる様だったら進められませんから、負の数値です。そして人数の面をどのくらい重要と考えるかのウェイト係数がk2です。f3はその政策が完成した時に得られる得、利点です。川に橋をかけるという政策を例にしてみると、多くの人や車が船で渡る場合の時に比べて、橋をかけたらどのくらい時間がかせげて、ガソリン代も少なく済むか、というような利点がf3で、その全体の中での重要さをウェイト係数k3で表します。利点は正の数値です。利点はいくつもあるでしょうからk4、f4、k5、f5といくつかが足し合わされます。この計画を進めると別のあの計画が遅れてしまうな、などという要因もあるでしょう。それもkn、fnとしてこの式に入れます。このような計算の結果で、判断指数DAが正ならばyesで、その政策を進めるし、負ならばのnoで、その政策は取り上げない、ということになります。現在でも、ずっと昔からも、ひとつとは、上記の方法で判断を下してきたのです。自覚せずに。

必要な経費や人数の予想値（f1、f2）は、人によって予想が違うから、人によってyesだったり、noだったりします。f1、f2、f3、f4、……もウェイト係数k1、k2、k3、……も人によって違うので、ひとそれぞれに意見が違うのです。（理系の思考方法では、このように考えます）

筆者が言いたいことは、人の信用は、判断を行う式が妥当かどうかで、決めるべきであって、式の計算結果であるDAの値で決めるべきではない、ということです。式の中に必要な項目が全て入っていて、妥当なウェイト係数が与えられているかどうか、でその人を信用するかどうかを判断すべきだ、といううことです。初めは経費予想値が低かったからyesだったけど、よく計算したら経費が高いのでnoに意見を変えた、というようなこと言うことが違うと言って非難したり、そのひとは信用できないといたりするのは間違っている、ということです。筆者が経験した国際流では、きちんとした理由があれば主張を180度変更しても、その人が信用を失うようなことはありません。（最近の国立競技場の事件のように、予算見積もりをわざと安く報告して判断を狂わせる、などということは論外です。きちんと責任を追及すべきです。）

一回言ったことを変更するな、というのは、十分に調べて、よく考えたうえで発言しろ、とい

う意味では、いいことだと思いますが、周囲の状況は日々変わります。周囲の状況と言う情報がどのように変わっても変更しないような結論は、そんなに沢山はありません。状況、情報が変わったら、結論も変わるのがむしろ健全なのです。

ここで言いたい、提案したいことは、一回言ったことを変更することで信用をなくす、という社会風習を改めましょう、ということです。きちんと説明された合理的な（多くの人が理解できる）変更はむしろ歓迎するように社会の風習を変えませんか。

戦争に関する本をいくつか読みましたが、その中に、上記のような目で見ていると、過去に一回言ったことを変えないようにこだわって、ずるずると最悪の状況に引きずり込まれた例が数えきれないほどあった、と思うからです。これは前の戦争の経験を持っているという年寄りに多かったと思います。そういう年寄りが誰もが反対しにくい司令官などについていたことが状況を悪化させたと思います。新しい状況に応じてさっさと新しい対策を打てれば防げた悲劇が沢山あったと思います。

筆者は、専門の分野で数か国の代表団との交渉を数年にわたって行った経験がありますが、その中で、最初はびっくりしたことがありました。それは、午前中はわれわれと反対の意見で、もう相手を罵倒するばかりの激しさでまくしたてていた人が、午後になって急に見解を変えて我々の側に付き、こんどは午前中の同志を激しく論駁したのです。もう、びっくりして黙って見ているしかありませんでしたが。あとでその人に、どうして見解を変えたのか聞いたところ、昼休みに新しい情報が入った。だから見解を変更した、と何でもなかったように平気で答えてくれました。それでその人が交渉の参加者たちから信用をなくした、ということも全くありませんでした。そういうことは他にも何人も、何回もありました。彼らは主張を変更することを恥とは思っていません。合理的な理由があるから変更するのです。「以前にお前はこう言ったではないか」という言い方は何の意味も持ちません。「これこれの理由があるので、主張を変えたのだ。」と言り返されて、あらためて彼の主張の根拠を会議の全員に再確認させる機会を与え、それに対して即座に反論できなければ自分が損をするだけです。彼らの個人の信用とは、判断、決断の原理と判断方法が理解できるものであるかどうか（reasonableかどうか）、と言う点にあって、結論や主張そのものが信用の根拠ではありません。新しい情報があったら結論が変わるのが当然なのです。（そういう原理でなければ、交渉が合意に至ることは不可能です。）

日本流の、一回言ったら変更しない、という基準では、将来の情勢の変化や将来の新しい情報までも予想、推理しておかなければなりません。これは、「占い」の世界です。昔からわが国では、政治は「まつりごと」とも言いますが、もう、占いやまつりごとの世界を脱却して、合理的な判断を論理的な手順に従って行うようにしなければ、これからの世界と付き合っていくことは難しいと思います。

（注）主張を変えることは恥ではない、ということをおもひにすると、当然ですがマイナス面もあります。よく調べないで、自分が知っている事項だけで主張をつくるので、大事な事項を見落としていると、とんでもない主張をすることになります。筆者の科学の分野の経験でも、われわれ日本人の科学者なら当然知っている事項を知らずに外国人科学者が珍妙な主張をとうとう自信たっぷりに続けたことが一回ならずありました。そういうときは、その人が知らなかった（見落としていた）事項を指摘すると、今度はあの激しい主張はなんだったんだ、というくらいおとなしく納得します。

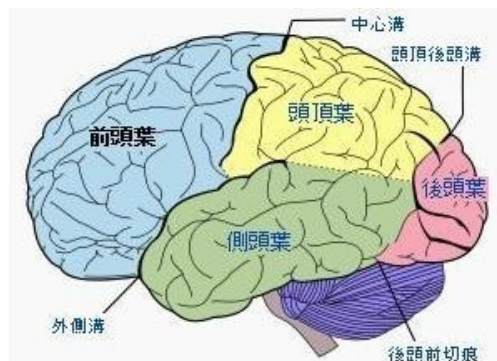
すべてのことを知らないと何も主張できない（日本流の一回言ったら変更するな）と言う社会ルールと、ともかく知っている知識で主張を作って主張する、間違っていたらすぐに修正するという社会ルール、それぞれにプラス面とマイナス面があります。マイナス面を知ったうえで、筆者は後者、欧米流、おそらく国際流、を採用したほうが良いと思います。

前言を翻すな、というルールは、江戸時代あるいはもっと前の時代から、支配者がうるさい発言を封じるために作ったルールかもしれないと思いますが、どうでしょうか。

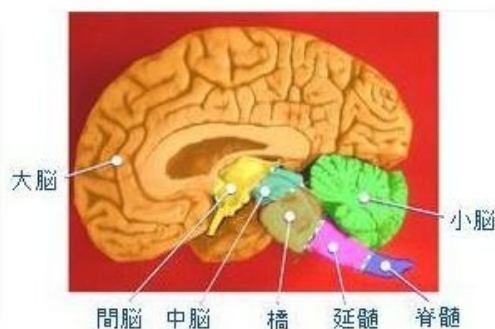
—
(追記) 堂々と軍国主義を肯定する本もいくつか出ています。筆者の考えの出発点は、争いをなくす、戦争を避ける、ということですから、このような本の内容とは最初から正反対です。難しい専門用語を使っていると理解できなくなり、変な論理で間違った結論に導かれてしまう可能性があります。そのような時は原点、出発点に戻って、最初の基本的な点と相反しないか再確認することが大切です。

5. 脳科学からみたら

筆者は脳科学者ではありません。が、脳科学に興味があつていくつかの本を読んでいます。戦争をしたいと見えるひとびとの言動を見ていると、最近分かってきた脳の働きで、彼らの言動がすこし説明できるような気がしています。戦争が好きだとしか見えないひとたちが、もうすこし冷静にきちんと勉強しなくてはいけない、と思うようになることを期待して少し書いてみます。



図A



図B

脳は大きく二つの部分に分けられます。一つは図Aの大脳の部分です。ここは進化に伴ってだんだんと大きくなってきた部分で、人間の理性的な思考などはここで行われます。二つ目の部分は、大脳の下に隠れている、脳全体の中心部にある部分で、図Bの左側の下に示す、大脳以外の部分です。この部分は爬虫類なども同じ共通の形をしています。進化の過程から、図B左下の部分は古い脳、原始的な脳とも呼ばれています。動物の持つ原始的な欲望を抑えて（制御して）理性的な思考をしたり行動をするのは、図Aの大脳、特に前頭葉が大事な機能を果たしています。

大きなストレスが長くかかると進化した脳(大脳、前頭葉)の働きが劣化して、脳の支配権を原始的な脳に奪われてしまいます。そうすると古い脳の担当する生物としての基本的な反応、すなわち、恐れ、怒り、などが表面に出てきます。年をとって無気力になったり、あるとき突然怒りを爆発させたりすることもあります(認知症)、これも前頭葉の働きが劣化して「古い脳(原始的な脳)」に支配されてしまうためです。職場などのストレスで鬱になる人がいますが、多くの場合、最初の症状として不眠があります。眠れないと脳が疲れて、脳の支配権を原始的な脳に奪われてしまいます。そうすると多くの場合、危険から身を守るための「恐れ」、恐怖感に支配されて、危険なことは避けますから、「やる気」をなくした引きこもり状態になります。(逆にこの知識を使うと、鬱から脱却するにはストレスを除いて、よく睡眠するように工夫して、ゆったりとした気持ちで暮らすように心がけるといいことが分かります。)

上記の知識で、最近の戦争を好むひとたちの言動を見ていると、あのひとたちは原始的な脳のもう一つの特性である闘争本能に支配されているのだろうと推測できます。むやみに闘争心を燃やし、激しい暴言を平気で言う、あるいはヘイトスピーチのような言動を平気で聞いてられるのは理性的な大脳では耐えられないことです。そういう人たちにはぜひ静かにものごとを考え、いろいろなことをちゃんと勉強するようにしてほしいものです。

また、ちゃんと前頭葉で理性的に考えられないようなひとたちを首相などの権力の座にすわらせてはいけません。(矛盾した発言、行動を恥も感じないで繰り返したり、言ったことの意味を考えもしないというのは、正常な前頭葉の働きとは思えません。TVで安倍氏の発言場面を見

ると目がうつろで自分の意志で自分の考えを述べているようには見えないのですが、筆者の目がゆがんでいるからでしょうか。)

過去の戦争の概略のところに書きましたが、真珠湾攻撃のときには多くの人が喜んだりほっとしたという記録が残っています。中国との10年にもわたる長い戦争によって、国民の多くがストレスを受け続けて、理性的に考えることができなくなっていたのだらうと思います。(カルト集団のオウムでも、入団の最初に眠らせない、などのストレスを加えて思考能力を奪ったうえで、マインドコントロールをしていました。)

1945年8月の敗戦後に、国内のどこからも敗戦の責任を追及する動きが起こらなかったのも、ほとんどの国民が空襲や原爆、そして敗戦自体で強いストレスを受けて、正常な思考力を失っていたからだと思われます。天皇のための国、天皇のために死ぬのは名誉、というマインドコントロールが日本中に深く行きわたっていたからです。(下注)

もう、多くの人々がマインドコントロールされるような状況を作ってはなりません。これは状況が進んだあとでは修正が困難になります。これはあぶない、と思ったら、初期のうちに対策を実施しなければなりません。安倍政権の言動をみていると、いまがその時だと思われます。

(注) 敗戦宣言(天皇の詔勅)をはじめ読みました。漢文のような文章でとても意味は分かりませんが、その口語体訳を見ると、「他国への侵略はしていない」など、現在の常識ではとても納得できるものではありません。また、先祖代々の天皇への謝罪はありますが、国民への謝罪のことばは、かけらもありません。それが当時の社会通念だったのでしょう。

このサイトでは、口語訳をしたひとの感想も後に載っているのですが、この詔勅の内容から天皇を称賛しています。筆者には信じられない反応です。戦時中のマインドコントロールから抜け出せない人でしょう。いま、戦争準備を進めている人たちは、当時の世代のひとたちからの教育によってマインドコントロールが続いているのだらうと思います。そういう人たちに力を持たせては日本が危機に瀕すると思います。

(注2) 上記の口語訳者の天皇礼賛コメントなどを見ると、基本的な思想が「天皇の国、神の国」なのだと思います。そういう人たちは、それが日本古来の考え方で、筆者のような思想、考え方は外来のものである、と考えていると思われます。筆者は、これからの日本は世界の国々と仲良くしていかなければ成り立たないと思っていますので、ここに書いた国際流の考え方こそがこれからの日本を導く基本原則だと思います。(明治、大正時代は案外国際的だったと思います。が、1920年代からおかしくなり始めて満州事変以降、破滅に向かったのだと思います。すなわち、軍が力を持ち始めた時以降、おかしくなったのだと思います。)

(参考) 脳は寝ているときでも活動しています。でも、昼間起きているときの活動とは活動のモードが異なります。昼間は外からの多くの情報を処理して必要な情報だけを抽出して言葉を話したりや手足の活動をしています。これを活動モードAとしましょう。夜寝ているときには昼間に入ってきた膨大な情報を整理して記憶しています。(これを活動モードBとします) 脳はこの二つの活動モードAとBを交互に繰り返すことによって正常な健全な働きを続けます。

ストレスが加わると、最初に不眠と言う症状が現れます。そうすると睡眠中にあるべき活動モードBをしている時間が短くなり、脳は正常に機能しなくなります。コンピュータでたとえると、整理していないデータが仮メモリに沢山たまってしまい、新しい情報に対応するデータ処理機能が低下してしまうのです。人間の脳の場合は、ストレス状態になると、大脳(前頭葉)が古い脳、原始的な脳に支配権を奪われてしまいます。原因不明の恐怖感に襲われたり、うつ症状になったり、あるいは逆にやたらに怒る、などの症状がでます。原始的な脳に支配されたからです。このことを知っていると、自分自身や周囲にいるひとがおかしくなったときの対処方法を落ち着いて冷静に考えることができるでしょう。

追加：戦争をしなればいけないという理由が現在ではほとんどなくなっていて、戦争を目指す人たちが最後に理由とするのは、誇りをまもれ、文化を守れ、ということだろうと思います。（これを理由に他国に攻め込もうというケースは考えにくいので、以下の文は無意味かもしれませんが、でも心配なので。）このメモをここまで読んでくださったみなさんには、もう言う必要はないと思いますが、みなさんが他の人に言うときの言い方の参考と思って書き足してみます。戦争で失われる何千人、何万人の命と引き換えに守るべき誇りや文化とは何なのでしょう。誇りとは自分があるグループ（部族、家族、地方団体、国など）に所属していることだけを根拠として自分の存在価値を見出すことだと思えます。まさにそれらのグループの支配層に都合のいい思想です。（45年までの戦争の時、軍隊に徴兵された人やその家族は、戦死しても靖国神社に祭ってもらえる、ということで納得したということです。筆者には信じられないことですが。今のみなさんは徴兵されたら、なにをもって納得、あえて戦死してもいいと思うのでしょうか。）誇りなどよりも本当の自分の価値を自分で作っていくの方が何倍も大事だと思います。また、仮に戦って誇りを守るとしても、守った誇りを享受するのは生き残った人たちです。誇りを守るために死んだ人には何の恩恵もありません。それでもあなたは戦いますか？ 死んでも戦うほうがいい、という考えの人たちもいます。が、主に中東などの地域の人たちです。死んだ方がいいと思うほど貧しいからです。かわいそうな状況だと思います。が、日本は違います。「誇り」などのために死ぬつもりなら、世界の貧しい地域に行き、その地域を豊かにするために一生を使った方がずっといいでしょう。死んでもいいと思ったなら、世界のどこへでも行けるはず。そのほうがより良い自分の価値を見出すことができるでしょう。

6. 追加（順不同に思いついたことを並べました。）

安倍首相は、国連の常任理事国に入りたいと思っているようです。が、安倍首相の在任中には絶対にそんなことにはならないと確言できます。それは安倍首相が過去に「自分を軍国主義者だと言いたいならば、そう呼んでいただいてかまわない。」と発言したからです。そんな首相の国を世界の方針を決める重要なポストに入れる可能性はゼロです。国連の決議があるのも知らずに、あるいは無視して、「侵略の定義はない」などと発言した首相のいる国を常任理事国にするほど世界はバカではありません。

米国の科学界には沢山の優秀な中国人、中国系の人があります。米国の科学界から中国人、中国系の人を除いたら米国の科学が存在できなくなるのではないかと思うほどです。これは科学の分野に限らないかもしれません。また、現在の中国の要人の中には米国の大学で学んだ人が多数います。習近平氏の子供も米国の大学で学んでいます。韓国もほぼ同じです。こういう状況から、将来米国と中国や韓国が戦う可能性は極めて低いと思います。ここでわが国の一部のグループのように中国や韓国を敵視し、ヘイトスピーチなどを行っているのは、大きな時代錯誤です。どこかの外国人や外部のグループを敵として騒がないと自分の価値を表現できないというのは極めて悲しいことです。まして、わざと敵を作って戦争の準備を進めることなどは愚の骨頂です。

1943年には敗戦が明確になっていました。が、軍部は戦争継続を図りました。筆者の推測ですが、敗戦したら全国民からひどい目にあわされると恐れたためではないでしょうか。が、敗戦直後には、国民は自分の食料を確保することだけでも精一杯で、軍の責任者らを追及する元気も失っていました。それほどひどい状況だったのです。天皇はじめ軍の幹部は国民から責任を追及されることから逃げました。（「敗戦」を「終戦」と言い換えていたことが典型的、象徴的な事象。これ以上の卑怯があるでしょうか。この卑怯を招いた戦前の倫理の復活など論外です。）飛行機や魚雷での特攻（体当たり攻撃）、すなわち軍が命令で自分の兵士を殺す、兵士も甘んじて自殺する、ということが国の正式な軍隊の戦法として行われたことも1900年以降の世界で例がないでしょう。全国的にマインドコントロールが行き渡っていた証拠だと思います。

天皇のために死ぬ、という教育が行きわたっていた状況では、国民が被った被害の責任を追及しようという思考も出てこなかのかもしれないとも思います。もしかすると、戦後の悲惨な状況の中で日本人同士で責任追及、仲間割れをすることは避けてきた、という考えもあったかもしれま

せん。が、すでに書いたような戦後の悲惨な状況では、責任追及より明日の食料確保の方が先だったと思います。軍などの幹部に正常な精神が残っていたら、言われなくても責任を感じる人は自分から謝るのが当然だと思いますが、それはなかったようです。天皇の詔勅にも、先祖代々の天皇への謝罪はありますが、国民への謝罪のことはありません。現在の常識ではふざけるにもほどがある、と思いますが、当時の社会常識、社会観念では天皇が平民に謝るなど言うことは考えられなかったし、天皇が謝らないのに軍部などが謝ることは天皇に対して失礼にあたる、というようなことがあったのかもしれませんが、それでも、だれも国民に対して謝る気にならなかったのは残念なことです。戦争は国民の繁栄のためや、国民を守るためにに行ったのではないことの証拠でもあります。

天皇は平和を望んでいた、という報道や記事もありますが、形式的だとしてもすべての責任者の天皇がよくもそんなことが言えるものだと思いを感ずります。100万人以上もの兵士が天皇陛下万歳と叫んで死んでいったことを天皇はどう感じていたのでしょうか。いままでは天皇に対してどちらかと言えばいい感じを持っていましたが、戦争に関する本をいくつか読んで、敗戦後に手のひらを返したように平和志向を装った昭和天皇は許せないと思うようになりました。大事な時に天皇が信念を突き通せば軍隊も抑えることができた可能性は十分にあります。退位まで覚悟すれば抑えられたでしょう。昭和天皇をけしからんと思うようになったのも安倍政権の戦争に向けた行動のおかげです。

「昭和天皇の思考の原点は皇室の存続だった」という文を読みましたが、いろいろな事象はこの解釈で説明できると思います。軍部の反乱を恐れて勝手な暴走を事後承認したこと、戦後マッカーサーと頻りに会談したことなど、すべて皇室存続のためだったと言われると反論できそうもありません。全国を回って復興を鼓舞したと言われているのも皇室存続のために国民に笑顔を振りまいたのだと思うとぞっとします。（だからと言って現在の天皇が悪いとは筆者は思いません。だれでも両親は選べないのです。）

大本営に知人がいたという人から聞いたのですが、戦争の最後のころ、本土決戦を覚悟していました。陸軍の大部分は群馬や栃木などの駐屯地において、本土で白兵戦になったら東京に大軍が移動する必要がありますが、その時には幹線道路は東京から避難する一般民でいっぱいのはずです。軍の移動はどうするのだ、とその人が質問したら、軍の行動にじゃまな奴らは蹴散らせばいい、殺してもいい、という回答だったそうです。そのひとは、もうこれはだめだ、大本営は狂っている、と思ったそうです。国民を守るという意識はなかったのです。軍と軍との戦争ゲームしか頭になかったのです。これからは戦争になったら同じことになるでしょう。

2014年10月16日の報道では、経済政策の柱はカジノということで、首相が自分でカジノを視察するとか。あきれてものが言えません。まともな人が忌避している賭け事、カジノをしてまで金を稼ぎたいとは。武器を輸出して稼ごうという人たちですから、なんとも思っていないのでしょう。やはり脳の働きが正常とは思えません。

2015年3月末に安倍首相は国会で（！）「我が軍」と発言しました。自衛隊のことをこう呼んだのですが、我々の世代にとっては「身の毛もよだつ」感じがします。戦争がしたくてしょうがない、という本性をついに見せた発言です。その後あわてて言い訳して取り消していますが、これを黙って見ている国民はどうかしていると思います。マスコミは満州事変の時の過ちを繰り返しています。国会議員もどうかしています。どうしてこんな人を首相の座に着かせ、放置しているのでしょうか。

イラクやアフガニスタンに巨額の軍事費をつぎ込んで、いまだに解決のめどが得られていません。もしも、同じだけの資金を援助資金として使っていたら、生活レベルが向上して戦争する必要はなかったという可能性は十分にあります。

イラクでの対テロ戦争の本を読みましたが、これほどひどいとは予想できませんでした。ニューヨークのビル崩壊で4000人（3000人？）が犠牲になったからと言って、イラクの家々を破壊しつつ、1年間に約1万5千人を殺しているのです。米国がイラクに侵攻した時にタ

ーゲットとしたサダム・フセイン大統領でもこんなひどいことはしなかった、とされています。武装勢力でない人々をも平気で殺し、平和に暮らしていた人々の家を問答無用で破壊しつづける、米国が国家として行っている大規模な「テロ」です。その米国に尻尾を振る犬として自衛隊を出したいですか？？

(参考文献)「そして戦争は終わらない」フィルキンス著有沢訳 2009 NHK出版

次の選挙では決して棄権せず、工夫してわれわれの意思を表明しましょう。

(もしも投票したい人や党がなかったら、「戦争反対」と書いた無効票を入れることもひとつの方法だと思います。無効票数が有効票数と同数程度になったら、影響力をもつでしょう。)

第3章 自民党政権はドイツのナチス・ヒトラーを真似している

第3章 自民党政権はドイツのナチス、ヒトラーのしたことを真似している

すでにインターネット上で大きな話題になっていますが、2016年3月18日 テレビ朝日の報道ステーションで次のような内容が伝えられました。（「朝日、報道ステーション、ナチス、ワイマール」で検索するといくつか出てきます。）

安倍政権がやっていることと符合すると思われるところが多々あります。以前に安倍政権の人々がヒトラーの研究をしているという新聞記事もありました。麻生氏がワイマール憲法云々と言って問題になったことも記憶にあります。

過去にドイツで取られた手法に日本の善良なみなさんが、まんまと引っかかることがないようにと思い、書きとめてみました。参考事項を右側に、そしてカッコ内に書きました。

1930年代のドイツは第1次世界大戦の多額の賠償で経済状況が落ち込んでいました。（現在の日本の経済も先行きが見えない状況にあります）

その状況のもとで、ヒトラーのスローガンは次の3つでした。（右側はご存知のとおり日本の現政権のスローガンです。）

「経済対策」—————「経済対策」

「強いドイツを取り戻す」—————「美しい日本を取り戻す」

「敵はユダヤ人だ」—————「中国・北朝鮮の脅威」

また、ヒトラーは言葉を言い換えるのが得意でした。

「独裁」→ 決断できる政治—————現政権が言っていることも全く同じ

「戦争の準備」→ 平和と安全の確保—————これも同じ

ヒトラーの演説から

「平和を愛すると共に勇敢な国民になれ」—————「戦争に反対とだけ言うのは無責任だ」

「この国を軟弱でなく強靱な国にしたい」—————そのうちに同じことを言い出すかもしれません。

「この道しかない」—————ぞっとします。ヒトラーが同じことを言っていたとは。

ヒトラーの側近のゲーリングのことは

・国民は指導者たちの意のままになる。それは簡単なことで、自分たちが外国から攻撃されると説明するだけでいい。

・平和主義者たちに対しては、愛国心がなく、国家を危険にさらす人々だと批判すればいいだけのことだ。

そして、当時もっとも先進的、民主的な憲法だったワイマール憲法の第48条、「国家緊急権」（大統領は公共の安全と秩序回復のため必要な措置をとることができる）を悪用して、合法的に憲法を停止し、独裁を確立したのです。

ワイマール憲法に国家緊急権を書いたのは、当時、議会制度にまだ信用がなかったからです。

ここからは筆者の感想などです。

まず、前頁のTVのドキュメントには出てこなかったのですが、ヒトラー・ナチスのスローガンのひとつに「戦後レジームからの脱却」もありました（!!!）。ナチスの言動を見本にしているのが見え見えです。（ひとひねりもしないでそのままという愚かさに驚きます。いまの安倍政権は明らかにナチスなのです。ナチスはいいことだからまねしようとしている人たちなのです!!!あの、ヨーロッパ中を蹂躪し、ホロコーストを起こしたナチスのまねを平気で出来る人たちがいることは信じられないことです。）

前ページ最後の国家緊急事態法、同条項についてですが、現在の日本で議会制に疑問があるのでしょうか。自民党は国家緊急事態法案を通そうとしていますし、自民党の憲法改正案にも緊急事態の条項があります。この法案や条項を利用して「合法的に」独裁を実現しようとしている、と考えることが妥当だと思います。このような党が日本を牛耳っていることは信じられないことです。

最近出版された本の紹介文です：「護憲派」・「改憲派」に国論を二分して永らく争われてきた「憲法改正」問題。ついに自民党は具体的な改憲に力を注ぎ始めた。しかし、自民党による憲法改正草案には、「改憲派」の憲法学者も驚愕した。これでは、国家の根幹が破壊され、日本は先進国の資格を失う、と。

こういう憲法改正案を公開している党に投票し、国会内でも賛成票を入れるのは、どうしてなのでしょう。自民党の憲法改正案は、民主主義と対立する、すなわち民主主義を否定する国家主義の思想が強はっきりと出ています。そんなことを党是、目標とする集団をどうしてほうっておくのでしょうか。ほうっておくだけでなく、長い間政権に着かせています。それはわれわれ国民、投票者が選択したからです。民主主義教育を受けたはずのみなさんがどうして？ 政治に無関心ということを超えた無知、無関心、不勉強だと思います。政権を持った党の目標が反民主主義だ、ということだけで、世界の先進国の信頼は絶対に得られないと思います。少なくとも国会議員には、ここに書いたような事実、そして過去の国家主義が戦争を招いたという歴史の事実を知った上でも自民案に賛成票を入れた理由を説明してもらいたいと思います。

ナチ、ナチスは「国家社会主義ドイツ労働者党」の略です。ドイツでは第2次大戦を国として総

まとめし、ナチの思想による行動を法律で禁止しています。

筆者は専門ではないのですが、安倍政権の言動は「国家（社会）主義」と呼べるものだと思います。「国が国民の事を考えていようにするから、国民は国の言うことに従うのが当然である。」という考え方です。従来は国が口を出すことを控えていた多くの事に平然と政府が口を出す、例えば春闘で給与を上げろと言うなどは、この国家主義から出ているのです。安倍一派が自分たちを国家主義だと思っているかどうかは分かりませんが、このような言動から判断すると国家主義です。

国家主義は、ナチスを始めいくつかの前例がありますが、そのすべてで戦争を起こしたり、内戦が続いたりしています。そういう歴史の経験に基づいて、第2次大戦後は少なくとも先進国では国家主義を否定しています。ドイツのように法律で禁止している国もありますが、多くの国では国家主義だと国民が感じたら投票を多数得ることができなくなっています。（最近のヨーロッパでは外国から入ってくる難民、移民の悪い影響をきらって外国排除を標榜する党が多くの票をえるようになっています。これらは国家主義のようにも見えますが、外国排除であって、民主主義と反対側の考え方である国家主義とは違うと思います。また、現在の日本と比べてみると、日本にはそういう国家主義的な考え方を押すような状況はありません。）（筆者が理解したことが正しければ、共産主義も国家主義です。中心の一団、党中央委員会が全てを指導するという思想だからです。）（安倍首相の祖父や彼らを取り巻く一団は共産主義を毛嫌いしていたはずですが、それなのに、どうしてそれと同じことをするのでしょうか。）

本当に超優秀な、優れた指導者がいれば「国が全ての面倒を見るから従え」という国家主義も悪くないかもしれません。しかし、現実にはそんな超優秀な指導者、指導者集団は存在しないのです。

最初のページに書いたように、国家主義者が政治権力を握ると、いろいろと彼らなりによく考えて一般の大衆を巧みなことばで誘導、洗脳、翻弄します。これが今までの歴史で判明してきた人類の集団としての特性なのです。そして、その国家主義の行き着くところは戦争だということもはっきりしています。

このような特性を人類が持っているということを十分に知った上で、将来の悲劇、いや、近い将来かもしれない悲劇を避けるために、なんとかして対処法を考えなくてはなりません。

いまの日本にまず必要なことは棄権をしないことだと筆者は思います。棄権は戦争を招きます。投票したい人がいない、という事情は理解できますが、棄権することは戦争に向けて工夫を重ねている現在の政権を支持することを意味するのです。

つぎに戦争を始めたら日本は壊滅します。勝てるわけがないのです。

(追記)

自衛隊は必要だ。だから自衛隊を憲法に書くべきだ、という意見もあります。

①筆者はすでに書いたように、自衛隊があったから平和が保たれたとは思いません。どこかの国が日本を攻めようと思ったら、自衛隊の存在など気にしないでしょ。国として他国を攻めるということは狂気の沙汰なのですから。そもそも日本に攻め入ろうと考えた国がなかったのです。

②でも、もしも攻められたら困るから軍を持つべきだ、という人もいます。しかし、国として他国に攻め入るということは今後は起こらないと思います。他国の政府の制御の利かない暴徒の集団が武器を持って攻めてくることはあり得るでしょう。でもそれはせいぜい1000人程度の暴徒でしょう。ですから、1000人程度の武器を持った暴徒に対処できるだけの自衛隊があれば十分です。テロ対策も必要ですが、テロ対策には戦闘機や軍艦、大砲は必要ありません。

③自衛隊はすでに軍として考えると世界で何番目というほど大きな軍備になっています。これ以上軍備を増強することは必要なく、むしろ機会を見つけて削減すべきだと思います。

④自衛隊を憲法に書き込むべきだ。(軍隊を憲法に入れるべきだ)という意見もありますが、筆者は自衛隊は影の力に徹するべきだと思います。それは過去の日本の軍隊がしてきた残虐非道の歴史を思うからです。いまだに国として総まとめ、反省をしていない状態で"軍隊"をつくったら、また同じことを繰り返す危険性が高いからです。できたら防衛省も防衛庁に戻すべきだと思います。

第4章 集団的自衛権の推進は国際ルールの誤解に基づいている

第4章 集団的自衛権の推進は国際ルールの誤解にもとづいている

「一国では自国を守れない。だから集団的自衛権が必要」という言にだまされないように

「一国ではだめだから集団で」という実によくできた文なので、なるほど、と思う人が沢山出そうですが、、、。よく考えましょう。薄っぺらな、表面だけの言い方に騙されてはいけません。

日本国内だけにしか通用しない「恩返し」のルール、すなわち貸しを作っておけば将来必要な時に恩を返してくれるにちがいない、というルールが国際関係にも使えるかのように装って国民をだまそうとしています。だまされてはいけません。

1. 集団的自衛権は武力の行使です。集団的自衛権が日本を守るために必要かどうか、ということを考えるにあたって、武力で本当に日本が守れるのかどうかを知っておくことが基本的に必要だと思います。筆者の考えた範囲では、武力では日本は守れません。どこの国であれ、本気で日本を攻めようと思ったら、日本には軍備で守る手段はありません。

1) 日本の地形は細長く、面積も大きくはありません。「奥地」はないのです。いまでは200km届くミサイルはどこの国にもあります。ミサイルは撃ち落とせるという話もありますが、多数のミサイルの全部を落とすことは不可能です。残ったミサイルで高速道路や原発、鉄道などは簡単に破壊できます。日本を混乱させるのは簡単です。

2) 日本には戦争を継続するだけの資源がありません。石油備蓄タンクは戦争を想定しないで作ってありますから、最初に破壊されるでしょう。2013年で備蓄タンクも90日分ほどの石油があるだけです。戦争になったら節約するから半年くらいの量と言いたいところですが、敵は最初に石油備蓄タンクを破壊するでしょうから、いくら備蓄しても意味がありません。食料はもっと悲惨です。交易を遮断されて半年以上戦争が長引いたら、日本は降参するしかありません。どんな敵でも半年で日本に降参するような国はないでしょう。

3) 1945年までの戦争でも、実は日本は勝ったことがほとんどないのです。最初の半年は不意打ちで勝ちましたが、その後は負けるだけでした。武士道を誇ったはずの日本は夜襲などの不意打ちしかできなかつたのです。米軍のある将軍は、「日本軍は不意打ちの必要がない時にも不意打ちにこだわった。（だから作戦を立てるのは容易だった）」と言っています。残念ながら、日本は卑怯な手段を多用したのです。

しかも、いまは人工衛星による偵察が進歩して、不意打ちは不可能です。

4) 1945年までの、日本が大敗した戦争の総まとめをまだしていません。スポーツでは負けたら、負けた試合を反省して、次の試合までにどこを修正するかなどの対策を立てます。が、戦争に関して70年経ってもいまだに何のまとめも反省も国として行っていません。1) 世界情勢、敵の情勢をしらないで、自分にとって都合なケースしか考えないで作戦を作り、作戦命令を出す中央(大本営)、2) 失敗の場合の第2案を考えない(失敗した場合の作戦のような、志気を失うような検討などしない!!)、3) 兵士を虫けらと同じに扱う(食料や弾薬の補給を考えない作戦、兵士に自殺させる特攻など)、4) 大失敗した将官をふたたび司令官に任命するなど、責任不在の組織、等々、多くの敗因があると思いますが、それらの敗因を国として認め国民の多くの共通理解にすることをしていません。このまま戦争を始めたら、同じことを繰り返してまた大敗することは日を見るより明らかです。

2. 「貸しをつくっておけば、将来助けてくれる」というルールは国際的に通用しない

1) 筆者が一番危惧している(危ないと思っている)ことは、「貸しを作っておけば、必要な時に返してくれる。」という日本流の期待を強く持っているように感じることです。国際流では、「黙っていても昔の貸しは、必要な時に(危機の時に)返してもらえる」というルールはありません。絶対にないと思います。

実は日本でも、戦国時代には「貸しを作っておけば助けてくれる」というルールは破られた例が無数にあります。日本国内にも通用しない、このルールを当てはめて、今のうちに米国に協力して貸しを作っておけば、日本が攻められたときに恩を返してもらえる、だから集団的自衛権で自衛隊を出して米軍を助けておけば、日本の安全性が高まる、と説明し、自分でもそう思い込んでいるのしょうけれど、これは大間違いです。特に国際関係の面では決して適用してはいけない仮想ルールです。この考え方は、自分にとって都合のいいこと(想定)だけを考えるという、1945年までの戦争で懲りた考え方です。

2) 国際的に(他国に対して)、将来における「お返し」を期待する場合には、「いまあなたの国の軍隊を助けるから、いつだか分からないけれど必要な時に日本を助けてくれ」と言葉に出して、明瞭に言わなければだめです。だまっていたら、日本が貸しを作ったつもりでも、相手(米国)は、そのときに日本にとって都合だから米軍を助けたのだ、と考えるだけです。日本は自分にとって都合がいいから米軍を支援したのに、どうしてお返しをしなければならないのか、米国は理解できないでしょう。

3) 明確に、「将来必要な時に助けてもらうために米軍を支援するのだ」と言った時には、相手(米国は)そういう条件のもとで日本の支援を受け入れるべきかどうか、改めて検討して結論を出すはずですが、そんな条件を付けた支援はいらない、と言われる可能性も高いと思います。

4) 戦争がしたくてしょうがない安倍一派は、上記のように、今の日本社会に固有のルール(国

際的に通用しない「恩返しルール」)を適用して、だからいま自衛隊を国外に出して米軍を支援しないといけないのだ、と言っています。これは明らかに間違いです。国際交渉をした経験者はこれを知っているはずですが、日本国内のルールに浸っているみなさんには分かりにくいと思いますが、そういうところを突いて「これは大変だ」と思わせるのは卑怯です。(一方、これを言っている安倍一派自体が国際流を知らないで、本気でこのように考えている可能性も高いと思います。もしそうだとしたら、それこそ、国際的に何がルールなのかを知らないで国策を立てている証拠です。そんな一団に国の方針を立てさせることはできません。日本がさらに危なくなります。)

5) 米国が日本を助ける、ということがあり得ないのです。日本を助けるのではなく、「米国の利益の為に日本を他国にとられないように軍事行動する」だけです。世界は冷酷なのです。一国では国を守れない、だから集団的自衛権が必要だ、という主張が誤っている根拠は上記のとおりです。以下には、すこし関連事項を書いてみます。

3. 米国に守ってもらうために集団的自衛権が必要なのか。

この疑問の前に、米国に守ってもらう必要があるのか、という大きな点がありますが、100歩ゆずって、その必要があったと仮定して。

いままで、集団的自衛権がなくても日本を守っているではないか。

a) いままで、集団的自衛権がないのに米国は日本を守っていました。それがなぜ急に集団的自衛権がないとだめになるのでしょうか。米国は、今後は集団的自衛権がなければ日本を守らない、と言いましたか?? そういうい報道はなかったと思います。

b) 米国の基地が日本にあるのは、日本を守るためではありません。ここを誤解している人が多いと思います。米国にとって都合がいいから日本に基地を置いてあるのです。

c) 米国が日本を守るか守らないかは、そのときに米国にとって都合がいいか、都合が悪いか、だけで決まります。集団的自衛権を使えるようにしておいても、米国にとって好都合でなければ日本を守ることはしません。これははっきりしています。集団的自衛権がなくても、日本を守る方が米国にとって好都合であれば日本を守ります。安倍政権はここを大きく誤解しています。集団的自衛権を有効にして、他国、遠く離れた第3国に自衛隊を出して米国軍を助けても、米国にとって好都合でなければ日本を助けることはしません。米国にとって都合が悪いときには、集団的自衛権と日米同盟があっても米国が日本を助けることは決してありません。国際協定を破った、という悪評が立って米国が困るということはあるでしょうが、そのようなマイナス面を考慮しても総合的に米国にとって不都合であれば日本を助けることはしません。その場合には、事前に、ある日突然、日米同盟を一方向的に破棄するでしょう。同盟を結んでいたソ連にドイツが攻め込み、次にはソ連が同盟国の日本(満州)に攻め込むなど、同盟など意味がない前例はいくつもあります。ベトナム戦争の末期には、一緒に戦っていた南ベトナム軍を見捨て、置き去りにして米軍は逃げ出しました。

どんなに米国に尽くしていても、米国の利益にならないときにも日本を守ってくれるほど米国は、そして世界のどの国も、甘くはありません。

4. 上記3. の「日本を守っていた」というのは、どこかの国が日本を攻めるかもしれない、という妄想の上に立った言い方です。いま、中国も韓国も北朝鮮ですら、日本を攻めるとは言いません。妄想を根拠とした政策ほど恐ろしいものはありません。これらの国が日本を攻めたことはないのです。元寇の変以外は。それに引き替え、100年前から70年前まで韓国、北朝鮮、中国に日本が攻め入っていたことは、明らかな事実なのです。

5. 中国や韓国などを仮想敵国として戦争準備を進めると、過去に侵略されたことのある中国や韓国は非常に心配して対抗処置をとるでしょう。その結果、日本が危害を受ける危険性が高まるのです。安倍政権の政策で日本がより安全になることは決してありません。上記のように、中国や韓国が日本に対する防備を増強するでしょうから、危険性が高まるのは確実です。

6. 武力で守れないなんて、、、どうしたらいいのだ。。。簡単です。中国や韓国と仲良くすればいいのです。世界には日本と同じような小さな国、島国がいくつもあります。そのほとんどは周囲の国々と仲良く暮らしていて、周囲から攻められるかもしれない、などという心配なしに平和に暮らしています。わが国も日本が韓国や中国に攻め入るまでは、仲良く暮らしていたのです。わが国古来の文化は中国、韓国から伝わったものが基礎になっています。日本が攻め入ったために関係がこじれた諸国をバカにし（ヘイトスピーチ）さらに今の政権のように敵視することなど、考えられない暴挙です。

7. 中国や韓国と仲良くするなんてまっぴらだ。そんなら死んだ方がましだ。安倍一派はきっとこう思っているのでしょうか。どうしてそんな考えになるのですか？日本は誇り高い国だから？日本の古来の文化のもとには中国、韓国なのです。（天皇家は韓国から渡来したという説もあります。）歴史的に1000年以上の間いろいろな文化を教えてくれた国々をさげすんだら自分が高く見られると思っているのでしょうか。その逆です。

8. どうして中国や韓国を嫌うのですか？中国や韓国の人たちが日本（の本来の土地）になにか悪いことをしたことがありますか？1900年代ころから、韓国や中国に攻め入るために当時の政府や軍が韓国や中国のひとたちをバカにし敵視するように扇動してきました。その影響をいまも受けているのではないですか？自分自身の本当の経験から韓国や中国をバカにし、嫌悪しているのですか？？自分で考えないで、他人に言われただけで他国のひとびとをバカにしたり嫌悪している自分が恥ずかしくはないですか？

9. 原爆だけでなく、東京空襲や、沖縄の洞窟にいる人々を火炎放射器で焼くなど、ものすごい非人道的行為を行った米国はどうして憎くないのですか？70年経っても、いまだに日本の領土の一部を占領して基地などを使っている米国の方がよほど憎いはずではないですか？あなたが他国や他国民をバカにし、憎いと思うのは、どういうこと理由にしているのですか？こういうこと

を考えたことがありますか？

10. 原爆のような、非戦闘員を対象とした軍事行動をとった、につつきはずの米国とこんなに仲良くできているのですから、日本に対してそんな悪いことを全然したことのない韓国、中国のみなさんと仲良くできないはずがないですね？

11. 秀吉は韓国に攻め込みましたが、韓国も中国も、13世紀の元寇の変以降は、日本を攻めようとする姿勢も見せたことはありません。これに対して、1890年代から韓国に攻め入って1910年には併合してしまったのは日本です。1904年の日露戦争も日本が中国の遼東半島に攻め入ったのが原因です。

12. 将来、もしも戦争になったら何千人、何万人もの人が命を落とすことを覚悟しなければなりません。命と引き換えに守りたいものは何ですか？「誇り」と言いたいでしょうけれど、今の状況で戦争が起こったら、日本の誇りはさらに傷つくのです。戦争が起こったら、それは日本が仕掛けたものと世界はみなすでしょうし、そのために日本の評価はさらに下がります。（「自分を軍国主義者だと思ってもらってかまわない」と言った国が仕掛けた、と思うのが普通でしょう。「戦争が起こったら自分が仕掛けた戦争だと思ってくれ」と言ったのと同じなのです。）

13. 戦争の準備をしなくてはいけないと言っているかたがたに聞きたいのですが、中国や韓国、北朝鮮が日本に攻めてくるとしたら、その理由はなんだと考えていますか？

日本のようにすでに人口密度が高くて、資源もない国に何を求めて攻めてくるのですか？100年前に日本が韓国・中国に攻め込んだときとは状況が全く違います。中国や韓国が日本を攻めて何の得があるのでしょうか。日本の工業力が欲しいならば、戦争で壊したりしたら元も子もなくなるくらいは分かるでしょう。

14. もしも中国や韓国が日本を攻めるとしたら、過去に攻め込まれて悔しい思いをしたから、という理由があるでしょう。中国や韓国のみなさんがそんな風に思うように仕向けたのは誰ですか。1945年までの戦争前の日本の思想ではないですか。それを反省もせず、中国を仮想敵国と考えると国会で発言するなど、日本人として、これ以上の恥はありません。なにも言っていない外国に対して仮想敵国発言をするなど、現代の政治家として考えられない下劣なことです。この発言で、またまた、さらに日本が国際的に復活する日は遠のいたと思います。

15. 日本がまた攻めてくるかもしれないから、そのまえにやっつけておこう、と考える可能性もあります。中国や韓国が、また日本が攻めてくるかもしれない、と思うような言動をすることは日本のリスクを高めるのです。日本が軍備を増やしたら、過去に攻め込まれた経験のある韓国や中国は、日本に向けた軍備を増強して備えるでしょう。日本が軍備を増やすことは日本の危険性を高める効果しかありません。

16. 中国や韓国と戦争になった時、米国が日本を助けると思っていますか?? 筆者は米国が中国や韓国の側につく可能性も50%以上あると思います。もしも、歴史認識の問題で争いになったら、米国が日本側につくことはありません。

17. 上記15. を書いていて思いついたのですが、安倍首相は、軍国主義者発言や侵略の定義はないという発言によって米国から完全に見放されたのではないか。その上で米国など諸外国に相手にしてもらうためには、米国から見て大きな利となることをして見せなければいけない羽目に陥ったのではないか。それが集団的自衛権なのではないか。。。軽々しい発言で日本の国全体にとんでもないマイナスをすでに与えてしまっているのではないか。恐ろしいことです。この状況をいわゆる大新聞やTVが放置していることはもっと恐ろしいことです。

18. もう立ってられないくらい情けないことなので、日本の学校では教えないようにしていますが、1930年ころ以降に韓国、中国で日本軍がどんなにひどいことをしたか、図書館などでちょっとでも読んでみてください。南京大虐殺や三光作戦だけでなく、韓国や中国の広い範囲で日本軍は略奪し、誘拐、殺人を行ったのです。軍隊での教育でヒューマニズムを失うとこんなにひどいことまで平気でできてしまう、というのは衝撃です。当事者の中には何の罪悪感も持っていなかった人が多数いたということも大きな衝撃です。教育、洗脳、マインドコントロール、などと言いますが、人の脳がこれほど言葉や周囲の環境に影響されやすいものであることは信じられないほどです。しかも、このような残虐な行為を軍として、国として命じて行ったことを、日本はまだ国としての事実のまとめもしていません。そんなことはなかった、と言い張っている一派までいます。でも被害を受けた方はとても忘れることはできません。立場を逆にして考えてみれば、すぐわかるでしょう。謝るのはもうやめた、などと言える立場ではないと思います。これも立場を逆にして考えてみてください。国際関係では、相手の立場になって考えてみるのがすべての基本です。

(南京大虐殺事件については、そんなことはなかったという一派もありますが、政府は事件の存在は認めています。でも、被害者数は中国が30万人としているのに対しで、20万人以下、2万人以上、と言っています。被害者が2万人もいたら何を言っても謝罪しきれないでしょう。(これも逆の立場に立って考えてみてください) それを30万人ではなく20万人だ、などと言うこと自体が、わが国の品位を貶めていると思います。)

19. 戦争は絶対に反対、という理由は、自分たちが被害を受けるからだけではありません。上記のように、何の罪もない外国の人々に悲惨、過酷な被害を与えることを、もう二度と繰り返してはいけない、と思うからです。国として何のまとめ、反省もしていないわが国が戦争をしたら、また同じことを繰り返す可能性が非常に高いと考えるのが正常だと思います。

20. ここに米国が日本を守ることなどありえない、と書きましたが、これを資料をきちんと調

べて述べた本が出ました。ぜひ読んでみてください。

「仮面の日米同盟 ー米外交機密文書が明かす真実ー」春名幹男 春秋文庫 2015. 11

21. 筆者は科学の研究での国際交渉の経験を持っていますが、科学の面での経験からでも、上記のようなこと、すなわち、どんな国でも他国を助けるために自分の国民の命を懸けるようなことはしない、ということは分かります。自国に利益がないのに命をかけたりはできないのです。

22. 集団的自衛権で米国の希望に沿って日本人の命をかけても、それに値する利益を米国が日本に与えるという取り決め、文書はありません。

23. もっとも、自国の憲法の文章を尊重しないような政権とどんな文書を取り決めていても意味がありません。その時の状況次第でどんな文書があっても勝手に解釈するということを実証してしまったのですから、他国が信用するはずがありません。（いま諸外国は安倍政権とは、上記のように本当は信用できないという前提で話していると思います。何を協議して、なにを約束しても、合意の文書を作っても、勝手に解釈することを実証した政権との合意は意味がありませんから。）

第5章 自民党政権の思考原理を推理する

第5章 自民党政権の思考原理を推測する

現在の自民党政権のしていること、言っていることは、すくなくも理系の頭では理解不能です。論理的ではない。矛盾を矛盾と感じていない、思考力なし、としか見えません。筆者なりにいくつかの本を読んで、推測してみようと思います。そうではない、こうだ、ということがありましたら教えてください。(star1000dust@yahoo.co.jp へ)

1. 右翼思想？

安倍一派は右翼（極右翼）という噂もあるので、右翼関連の本をいくつか読んでみました。

1) 右翼の源泉は、明治後半から大正時代の「悩める青年たち」のようです。明治時代には欧米と対等になることを目指して精いっぱいやっていた。日露戦争、日清戦争を経てどうやら欧米と対等の地位を得た（不平等条約を解消した）が、そのときには世界的不況でなにも良いことがなかった。（司馬遼太郎の「坂の上の雲」という小説はこれを書いたもの。欧米に追い付くという坂の上に見えた美しい雲を目指して登って来たのに、坂の上に来てみたら美しい雲はなく、何も手にすることはできなかった。雲の中に入ってしまっって視界が何も見えない。ということを表した題と言うことです。――理系の筆者はこれも知りませんでした。）

2) これらの悩める青年たちの思考の出発点の要素の一つは、中国でもない、韓国でもない、そして欧米でもない、日本独自の思想という点だったようです。（そして、多くの国民が幸せに暮らせる世を作りたいと考えたのだと思います。しかし、この「多くの国民の幸せ」と言う点が、最初にはあったと筆者は思いたいのですが、はっきりしません。いくつかの本の説明の中に国民の幸せの為に考えていた、という文はほとんどありませんでした。）

3) なやんだ青年たちは、次のように考えたということです。

- ①日本の大昔の社会、（古来の、本来の）天皇制にもどれば、みんな幸せになるにちがいない。
- ②皆が神を信じて暮らせば幸せになるにちがいない。幸せでないのは神と人々の間にいる邪悪な人のせいだ。
- ③阿弥陀仏を信じるべき。そうすればすべてうまくいく。（親鸞主義：絶対他力、自力の否定）
- ④世界中を日蓮宗にすれば平和になる。（日蓮主義：宗教を改革すべき）
- ⑤全員が天皇に従えば幸せになる。天皇が全国民のためを思って政治をするのだから。

4) 上記の何れも筆者のように科学的思考になれた頭では理解不能です。ある本には①、②をユ

トピア主義と書いてありましたが、大昔の社会がいい社会だった、というのは妄想で、なにも証拠はありません。万一良い社会だったとしても現代の世界に適用できるという証拠はありません。また、③も④も同じように妄想であって、これらの目標を達成すれば確かによくなるという理由、根拠がなにもありません。⑤は①、②と重なるものでもあります。

5) 筆者は、これら5つはすべて、悩んだ青年たちが答えを見つけられなくて、何を目標とするか、なにが理想なのか、という点、すなわち目標や理想の内容を古来の天皇制とか、神とか阿彌陀仏、日蓮宗、天皇などに丸投げしてしまったのです。考えることから逃避した、思考を放棄した結果だと思います。思考停止の思想なのだと思います。

6) 正常な思考方法では（筆者が体験してきた科学の方法では）、まず現状を正しく把握して分析し、目標を立てて、その目標に達するための具体的な手段を段階的に考えて実行します。また、物事を要素に分けて考える、逆に要素を合成して全体を考える、と言う手法も広く使います。そのすべての段階で、幅広い人々に理解できる共通なものを目指します。そして、量的なことを十分に考えて判断し、実行の方策を立案します。その途上では、できるだけ多くの人々と議論して、よりよい意見、方策を得るように努力します。

7) (科学的な)世界にも理解してもらえる思考法に沿って考えると、まずひとびとの幸せとは何か、ひとびとは何をもって幸せとを感じるのか、ということが最初の検討項目になるでしょう。これにも何百年もの歴史があって、いまでは言論の自由、信仰の自由、職業の自由、移動の自由、そして病気になった時に治療してもらえる権利などなどが幸せの内容と考えられています。そして、これらを保証する文章が憲法などに明記されています。

8) 3) に書いた右翼的思想ののいづれも、第一に必要な、幸せとは何かということをもっと多くの人々が理解できるように把握することすらも逃避、放棄してしまっています。それだけではありません。もっといけないことは、自分と違う考えを排除、排斥することです。第一に1) に書いたように、最初のステップで日本的でないものは排除するという思想から出発しています。このような考え方の行き先は戦争しかありません。

9) ①～⑤の思想によって、②に書いたように、邪魔な人物、グループを実際にこの理由で暗殺したりしてきたのです。③では、小賢しい知恵などは有害だとして多くの研究者を迫害、暗殺までしました。④の考え方は、世界に日本流（日蓮宗）の思想を広めるべきだという「八紘一宇」のスローガンとなり、1945年までの日本の世界侵略の思想的柱となりました。

10) ⑤は、「皇国」主義とも呼ばれますが、天皇を絶対者とする国家を理想とします。1945年までの戦争を行ったのはこの思想だと言えるでしょう。百万人以上の兵士が「天皇陛下万歳」と叫んで死んでいったのです。死に際にそう言われる身になって感じることはできますか？

1 1) 戦争の最後の頃には特攻が行われましたが、飛行機には無線機がついていて最後まで操縦している兵と会話できるようになっていたそうです。それを聞いていた人は他人には決して言わなかったのですが、実は「海軍のばかやろう」という叫びも少なくなかったそうです。当然だと思います。(きっと本当は天皇のばかやろう、と言いたかったのだらうと思います。15年以上にわたる徹底したマインドコントロールで天皇に対する批判が出来ない脳になっていた可能性も大ですが、それが一番こわいことです。)

1 2) その天皇が敗戦直後に何をしたか。内密に頻繁に占領軍のマッカーサー司令官の部屋を訪問したのです。上記のように天皇陛下万歳と叫んで死んだ何百万の兵士をなにと思っていたのでしょうか。筆者はこの行動は決して許せないと思います。負けたのだから後は生き残った人々がよくなるように全力をかけた、という美化はできますが、それは死んだ兵士のことは忘れた、見捨てた、ということです。天皇をあれほど信頼して命までささげたのに、肝心の天皇は彼らを見捨てたのです。

1 3) 言うまでもありませんが、①～⑤のすべては、一人の独裁者を最高権力者とする独裁システムです。一人の最高権力者とはいうものの、その本質は最高権力者の名を利用してごく一部のグループが勝手放題をするのです。天皇が国民すべての事を考えて最善の政治をする、と言いますが、そんなことはありません。このようなこと、天皇(独裁者)に従えばみんな幸せになるのだ、などと言っている人たちは、天皇を飾りとして利用する一団のひとか、あるいは、その一団にすりよって、利益を得ようとする人たちです。

1 4) これらの思想の結果は、1945年の世界でも例がない大敗戦です。歴史は、これらの思想が大きな悲劇につながることをすでに教えてくれているのです。

なんと理由付けしようとも、なんと正当化しようとも、大敗戦と言う結果が①～⑤の考え方は間違っていることを証明しています。

1 5) 3) のいずれも歴史に学ぶということをしません。勉強嫌いの悩める青年たち、今でいえば、精神的発達障害の心身症の人達が考えたものです。

1 6) これらの思想の出発点に「日本独自の」ということがあり、欧米的なもの、中国的なものを徹底的に排除しています。でも、歴史上の思想の発達には中国、欧米で進んできたのです。欧米的なもの、中国的なもの、(そして韓国的なもの)を排除したら、人類が長い歳月をかけて学んできたことを排除、勉強しないということになります。ですから、筆者の目から見て、これら①～⑤までの思想が思考停止、思考から逃避したものと見えるのは当然でもあります。

1 7) 1945年までの戦争は、①～⑤の思想に導かれていたのです。現実を見ない、妄想に基

づいた作戦などで勝てるわけは最初からなかったのです。この誤った思想の為に韓国や中国の多くの罪もないみなさんに悲惨な目に合わせてしまったことは、われわれ世代ではありませんが、先祖がしてしまったこととして忘れることはできないと思います。まして、同じことを再びするようなことは絶対に許されません。

18) 上記の5つの思想によって、「日本が亡びるようなことはない、と信じるだけで大丈夫だ」と言ってすべての状況が不利であることも分かっているのに軍隊を送り出して大勢の無駄な死者を出したのです。銃や大砲の数が敵に比べてはるかに劣っているのに、「我が軍には強い精神があるから、兵器の数など問題ではない」と言って、多くの兵士をむざむざと戦死させたのです。このような思想を良いと思っている一団に政治の中枢をまかせておいていいのでしょうか。

19) 筆者の文章には繰り返し書いていますが、一番問題だと思うことは、1945年までの戦争の総まとめ、反省を国としていまだにしていないことです。反省していないから、①～⑤とおなじ思想を持った集団が中枢を占めるという異常な状況になってしまったのだと思います。

20) いまの安倍政権の言動をみると、上記の、歴史が大失敗だよと教えてくれている考え方に基づいて発言し、行動しているのではないかと思えます。もともと歴史に学ぶことなど無視しているひとたちですから、このようなことを言ってもなにも感じないでしょう。

でも、大事なことは、このような一団にわが国の中枢を占められていていいのか、ということです。彼らを非難しても意味はありませんし、彼らが変わることもありえないでしょう。

われわれが、どのような人々を国の中枢に置くべきと考え、そして投票するかと言うことがポイントだと思います。

21) 日本史を勉強したら、上記3)の考え(思想)は江戸時代からあったようです。本居宣長もその一人です。有名な人ですが、どんな考え方をしたのか、調べてみようと思います。どんな考え方で筆者の理系の考え方で(世界に通用する考え方で)翻訳して理解することが出来るはずですが。筆者なりに理解できるまでは、宣長といえどもちゃんとした思想とは思いません。なにごとくも疑って調べ、筆者なりに理解するのが筆者の方法です。いままでに知っている内容からすると、日本的なこと、という点に非常に重い比重を置いています。この思想は排他であり、戦争につながる思想だと思いますが、もうすこし調べてみます。

22) 本居宣長や荻生徂徠など明治以降の右翼の源とされる人々のしたことで、些細なこと(?)ですがおかしな点があります。それは極めて強く日本風のものを求めていて、中国や外国から始まったものを口を極めて非難していたのに、そういう文章は漢字を使って書いていたのです。せめて漢字は使わないで日本で工夫して考案したひらがなあるいはカタカナだけで書くべきだと筆者は思うのですが。それでも、そのひらがなもカタカナももとは漢字なのです。それほど恩を受けている中国を蔑視し、排除することはおかしいし間違っていると思います。この矛盾にも気

づかないような人たちが言っていたことだということも覚えておいてください。

23) すでに書いたように、日本的なもの、という点にあまりにも大きな比重をかけて思考を始めたことが大きな誤りだと思います。自分で意識しなくても日本人であれば自然に日本的なものが出てくるのです。それで十分なのです。

24) 日本的なものを、ということ強く主張するのは、外国に対する劣等感の裏返しだと思います。こういうことを言い出した人たちは誰も外国に行ったことがないか、あっても短期間の旅行だけで、本当の外国とはどういうものかを知らない人たちです。

25) 日本の中だけに浸っていたのでは、世界の中で日本がどういう位置にあるのか、どういう感じで見られているのか、などが分かるはずがありません。そういう人たちが考えたことは現在では間違っているし、われわれがこれからの事を考えるときに参考にはいけないと思います。最近では外国に行ったことのある人数が増えていますから、よくなっていると思いますが、外国に行ったら日本人だけでかたまらないで、下手な英語や中国語でいいから、ともかく行った先のひとびとと話をするように心がけてください。そうやって育てた国際的センスがこれからの日本を守るのです。

26) 日本的なもの以外を排除する思想から、明治時代には神道だけ（神社だけ）を大事にして、仏教・お寺を壊したこともあったのです。しかし、同じ敷地に仏教のお寺と神道の神社が同居していることこそ日本的なものだったのです。日本的なものを求めていたのに、もっとも日本的なものを発見する目がなかったのです。日本的なものとは、異質なものを許容して、争いなく共存することなのだと思います。

（正しいものはひとつしかない、だからそれ以外のものは壊すべきだ、という考え方から仏教などを排斥したのですが、その、正しいものは一つしかない、という考え方、それは一神教というのですが、それこそ日本の思想ではなくて、キリスト教（*）の思想、すなわち外来の思想なのです。このことにも気づかなかったというのは、相当な愚者だと思います。）（*）キリスト教、ユダヤ教、イスラム教の3つは同じ旧約聖書を信じています。ユダヤ教は旧約聖書だけ、キリスト教は預言者キリストを信じ、イスラム教は預言者マホメットを信じている、という差で、3つとも唯一の神を信じる一神教です。

27) 本居宣長がいたのは鎖国の江戸でした。鎖国の状態ならば、純日本、排他も考えられるでしょうけれど、これからの日本は多くの外国と付き合っていかなければなりません。鎖国時代の思想を参考にしたり、取り入れることは絶対に間違っています。

28) これからの日本は、国際社会の一員として生きていくしかありません。鎖国することなど、とても考えられません。ということは、日本は世界の多くの国々から理解されなければ、理解

してもらえようように努力しなければいけない、ということです。筆者は幸い国際協力を科学者としては珍しいほど沢山経験しています。筆者の書いたものは、おそらく国際的にも理解してもらえる書き方をしていると思います。

29) 繰り返しになりますが、日本的であることを政治的な目標に入れることは間違っています。いくら国際的であろうとしても、完全な国際的XXと言うことは不可能で、日本的な面は残ってしまうのです。日本的であることに気を使うことは不必要です。国際的に尊敬を受けるには、そんなことよりも、多くの国々から見ても妥当な言動をすることです。(今の政権を作ってしまったので、これから国際的に妥当な言動を繰り返しても数十年間は心からの国際的信頼は得られないでしょう。それを覚悟の上で、国際的に理解できる言動を重ねなければ、日本の将来はないと思います。)

2. 「うしろめたさ」の裏返し(異常反応)なのではないか?

安倍首相の祖父は岸信介ですが、岸は満州侵攻を指揮した文官です。1945年までの戦争の指揮者は軍人の東条英機と文官の岸信介だったのです。安倍の言動は、祖父たちのした大失敗からくる「うしろめたさ」を否定し、評価を逆転させるための異常な言動だ、という見方もできます。

1) 「うしろめたさ」というときには、心底には「悪かった」という心があるはずなのですが、安倍氏およびその一派には、1945年までの戦争が失敗だった、悪いことだった、という意識すらないように見受けられます。美しい日本を取り戻そう、というスローガンの意味する美しい日本とは、多くの知識人が最悪の時代だったとしている1930年から1945年までの15年間なのです。

2) 今の政権を支持している団体に「日本会議」という団体がありますが、寺社関係や、1945年までの戦争の指導者の子孫たちが中心になった団体です。戦争による被害を受けず、戦争時代はよかったと考えているひとたちです。

3) 上記のように、今の政権が目指す「美しい日本」とは、我々が忌み嫌う1930~1945の日本だそうです。何百万の人が戦争で死んだ時代を美しい日本などと言っている人たちが存在していることが信じられません。

4) これらの人々は、日本の軍隊が中国などで行った残虐非道な行為も「なかった」と公言してはばからない人たちです。歴史の事実を無視することに何の抵抗も感じない人たちです。

3. 軍需産業が陰であやつっているのではないか?

———・意識していないかもしれないが、安倍政権は軍需産業にはありがたい政権 (安倍首相の弟が

三菱にいて、抜擢で重役になったことは新聞で見た。)

・米国の裏では軍需産業が暗躍している（民主主義を標榜する国の一番の得意技は戦争であり、

米国の最大級の企業は軍需産業！！)

・民主主義で本当に平和主義の国は世界にまだない。日本が目指すべきなのはそこではないか。

補足

戦争について

1) 国を守るために軍隊を正式なものとするべきだ、あるいは、国を守るために自分の命をささげるべきだ、という意見も新聞などに出ていますが、これを言っている方々は、過去の日本の軍隊がどういういことをしたか、ということを知らないか、あるいは知っていても大したことではないと思っている、のだと思います。反省することなしに軍隊を作ったら、過去の軍隊と同じ様に理不尽、残虐なことを繰り返す可能性が極めて高いと思います。

2) 自分の命が惜しいから戦争に反対しているのだ、と平和主義者を非難する人もいます。そういう方に聞きたいのですが、大勢の命の代わりに何を得ようとしているのですか？筆者が親しんできた思考法では、なにごともプラスの面とマイナスの面が必ずあって、そのプラスとマイナスを比較して、プラスの多いほうの方針、方法を選択するのです。戦争を許容するという事は、多くの人命より大切なものがあるからに違いありません。

3) それは誇りを守るためだ、と言う人が多いでしょう。では、その誇りとは何ですか？多くの戦争論者は、誇りの意味も知らんのか、と言い放って説明しないでしょう。自分でも考えたことがないのだと思います。自分でもよく分からない誇りの為に多くの人々が死んでいく戦争をどうして許容するのですか？

4) 1945年までの戦争の末期に負けるのは仕方がないけれど、国体だけは守ろう、ということが戦争指導者の間で広く言われていたそうです。でも、その国体とは何か、ということは誰も説明できなかつたそうです。筆者には信じられないことです。なんだか分からないものの為に、一日一日戦死者の数が増えていく状況の下です。（どうも、暗黙の理解は天皇制を守ろう、ということだったのではないかと思います。でも、あのひどい敗戦を指導した責任者の天皇を、それでも守ろうと考えるとところは筆者には理解できません。）

誇りとは：

1) 「誇りを守れ」とよく聞きますが、なにを意味しているのでしょうか。動物のような野蛮な

ことをしないために個人としての誇りを持つことは意味があるかも知れません。しかし、それ以外の誇りは、不要な争い、戦争を招くものだと筆者は考えています。

2) 誇りとは、何らかの団体（国も大きな団体のひとつ）に属していることだけをもって理由として、その団体に属していない人たちよりも自分たちの方が偉い、上だ、と思うことです。団体に属していることではなくて、あるバッジを付けてることを誇りの対象とすることもあります。昔の侍（さむらい）はちょん髷を結っていることに誇りを持っていました。侍がちょん髷を切ることは死ぬことと同じで、大変なことを意味していました。

3) いまでも勲章は、ひとびとの心にある誇りをくすぐるものです。筆者はちょん髷と同じだと思っています。権力者がほとんど損することなしに平民たちにありがたいと思わせる手軽な道具、方法なのです。昔は名前を与えるということも行われていましたね。大名が部下に名前の一部（同じ漢字）を使ってよいということと部下は子孫代々の誇りですと言って喜ぶのです。

4) 「日本人の誇り」、「長州藩人の誇り」などということは、そのグループの長や上部、支配層に非常に都合な考え方です。「日本人の誇りを持っているならこうしろ」あるいは、「あれをやってはならぬ」と言えば、「誇り」以外の説明なしに従わせることができるのですから。

5) 「誇り」というときには、他者を排斥する考えが含まれているとも思います。あいつは日本人ではないからだめだ、というように。筆者は個人としての誇り以外の誇りは、争いを招く原因だと思っています。家の誇りが原因で家と家の争いが起こったりする例は沢山あります。誇りなどと言うものが無ければ争い事は減ると思います。

6) 日本の誇りを守るため戦争も辞さない、と考えておられるかたに上記の点をぜひ考えていただきたいと思います。その誇りを守るために人の命が失われてもいいですか？（*）

（*）命がそんなにおいしいのか、と戦争指向の人々は平気で言います。でも、それはまちがっています。そういうことを言う人たちは自分は死なないと思っているのです。他人は死んでもいいと思っているのです。死ぬ直前にどう思うでしょう。自分が死んで仮に世の中がよくなっても自分がそのいい世を楽しむことはできないのです。それを残念に思わないひとがいるでしょうか。〇〇のために死ね、死んでもいい、と言っている説、話はすべて間違い、虚構です。支配者、権力者にとって都合のいい作り話です。それを信じるかどうかは個人の自由ですが、自分以外の他人に死ねと言うのは決して許されることではありません。

どんな宗教でも殺人はもっとも重い罪です。イスラム教の「目には目を」も復讐を認めたものではなく、やり返すにしてもせいぜいそこまで、という意味の戒律だそうです。「殺された r 殺せ」という文はありません。家族を殺された人にも相手を殺すことはコーランでも許していません。殺人は認めていません。

地球の上には命がありふれているからちょっとくらい、と思うかもしれませんが、もっと目を広げて見るとそんなことはありません。ひろい宇宙の中で生命が確認されているのは地球だけです。どこかに単細胞の生命があることくらいはあるかも知れませんが、人類のように考える力をもった生命体がいるところは極めて少ないでしょう。単細胞の生き物ですら、命のあるものは自分の命を最大限守ろうとするのが自然なのです。死ね、とか死んでもかまわない、という考え方、言動はすべて自然の理に反しています。そういうことを含んだ説を信じてはいけません。上記の考え方から、イスラムのひとびとによる自爆テロや焼身自殺など、単に危険な行動、テロ、とって非難するだけでなく、自分の命を捨てている点をもっともっと重くとらえるべきだと思います。宗教扇動者による教育もあるでしょうけれど、それでもなお自分の命を捨てている点を重くとらえるべきだと思います。生きていても良いことがないから、と考えて行う行動だと思います。かわいそうなことなのです。大会社の社長などは年に数億以上もの収入を得ているのですが、競争主義が行き過ぎていると思います。こういう人たちに都合のいい法律を作っているのですが、使いきれないほどの大金を一人に与えることは本来ならば誤り、犯罪だと思います。そのお金をテロに走りそうな人々の生活レベルをより良くするように使うべきだと思います。テロは大金持ちが作っているのです。

戦争の現実を見よう (戦争の現実から目をそらしてはいけません)

- 1) 戦争は権力者が国内からの批判、反対を避けるために起こすものです。
- 2) 権力者は、戦争を正当化するために、外部からの脅威があると宣伝します。いま、北朝鮮は安倍政権を助ける言動をしています。(いまのまま言ったら、安倍政権が(日本が)北朝鮮とおなじに見られ、世界から今の北朝鮮と同じ扱いを受けることになるでしょう。)
- 3) もしも戦争がはじまってしまったら、どういうことになるのか、考えていますか?戦争は前線で鉄砲や大砲を打ち合うだけではありません。いまではミサイルがありますから、前線と言う区別はなく、すぐに都市が戦争の前線、現場になるでしょう。
- 4) イラクの町々がどうなったか知っていますか?本屋や図書館でちょっとでも本を見てください。米国が攻め入る前にはともかくも多くのひとが暮らしていたバグダッドの町は、ほとんどのビルが破壊され、廃墟になっています。何の罪もないひとびとがテロリストの一派だと言われて無差別殺人され、生活を破壊されています。そういう人の中からテロに走る人が沢山生じているのです。
- 5) 筆者は、どういう理由があっても、日本の町をいまのバグダッドにはしたくありません。
- 6) なにかちょっとしたことで戦争が始まってしまったら、戦争をやめることは出来なくなります。そして全面的な戦争になります。
- 7) 米軍と一緒に戦ってくれるし、適当なところで停戦、調停してくれるだろう、などと思いませんか?そのような甘い期待で戦争を始めて大敗戦したのが1945年までの戦争です。甘い期待を持って戦争を始めるといことは決して繰り返してはいけません。(*)
- 8) 戦争を始めると、その時の政権には非常時の緊急大権が与えられて(政権が自分で勝手に大権をもったと宣言しますが、誰も反対できません)議会での議論や反対なしにやりたいほうだい

に何でもできるようになります。戦争事態が事実上終わっても、非常大権の甘さを政権が手放すことはまずありません。戦争が必要なくなっても、非常大権による独裁は続くのです。おそらくクーデタでも起こらない限り、独裁は終わらないでしょう。

9) どんなにいい人でも、権力の座に着くと変わってしまいます。庶民の事をよく考えて庶民の味方だった人も権力の座に着くと庶民のことは忘れます。(いまは国会議員になるだけで、変わってしまっているように見えます。憲法違反だという声が強い法案に与党の全員が賛成票を入れるのは異常です。国会議員が保身を図っているとしか思えません。)

10) 権力の座に着くと変わってしまう、というのが、残念ながら長い歴史、世界中の実例で証明された人類の特性の一つです。そう思ってシステムの設計をしなければいけません。そのひとつのシステム設計が三権分立ですし、もうひとつは権力者を拘束する憲法なのです。

(*1) ちょっとしたことでも全面的な戦争になる可能性が非常に大きいのです。日本のような国が戦争を始めたら、ちょっとした理由では戦争をやめられないでしょう。1945年までの戦争もそうでしたし、その時の反省もしていないのですから。数か月以上の長期戦になったら、わが国には資源がありませんから負けるしかありません。

(*2) 米国が付いてるから大丈夫、などと思いませんか？中国との戦争になったら米国は中国側に付く可能性の方が高いと思います。韓国との戦争だったら米国はどちらにも付かないでしょう。米国の大学に行っている若い人が多いという点からは、米国が韓国側に付く可能性の方が高いとも言えます。その前に在日基地から米軍が出てきて制圧するかもしれません。

(*2 追加) 日本に米軍基地があるのは日本を守るためではなく、米国の利益に反して日本が再び近隣国に攻め入ることを防ぐため、と考えるのが一番妥当ではないかと思います。韓国や中国は日本に米軍基地があるから、日本が勝手に攻めてくることはないと安心しているのだと思います。現在の状況では、米軍の在日基地は中国や韓国を日本のばかな攻撃から守るために存在するのです。なんということでしょうか！(現状では、この解釈が一番適切なものだろうと思います。)(現政権のような過去を教訓としない危険な思想を持つ政権が出来てしまったので、余計に上記の 日本を暴挙を防ぐための米軍在日基地 という解釈は妥当性を持っていると思います。さらに言えば、このような政権を作ってしまった日本人に対する世界からの信用は1945年のものに戻ったと思うべきです。今後100年以上の間、世界の日本への信用は回復しないでしょう。国連の常任理事国になることなど夢の夢だと思います。常任理事国ではないのに中東関係や東ヨーロッパの国際問題の解決に主要国として入っているドイツとの差異をわれわれは全員でよく考える必要があると思います。)

日本の軍隊の特殊性 (過去の反省なしに軍隊を作ってはいけません。自滅します)

1) 国を守るために軍隊を正式なものとするべきだ、あるいは、国を守るために自分の命をささげるべきだ、という意見も新聞などに出っていますが、これを言っている方々は、過去の日本の軍隊がどういうことをしたか、ということを知らないか、あるいは知っていても大したことではないと思っている、のだと思います。反省することなしに軍隊を作ったら、過去の軍隊と同じ様に理不尽、残虐なことを繰り返す可能性が極めて高いと思います。

2) 国を守るのは軍備、武力ではありません。戦争と言う狂気の状態を事前に避ける英知（叡智）が国を守るのです。

中国や北朝鮮の脅威

1) 中国やロシアは先進国です。（自分で一等国だと思っている国です。）そういう国が国として他国を攻めることは今後は考えられません。日本がこれらの国に脅威を与えなければ攻められる可能性はありません。

2) 北朝鮮は狂気の国です。狂気の国に対しては、どのような対策をとっても狂気の行動をする可能性があります。1941年に戦力で劣っていたわが国が米国に戦争を仕掛けたのが、一番の実例です。そのときには石油の輸入の70%、鉄の輸入の50%を米国に頼ってもしました。

3) 北朝鮮からミサイルが飛んできたらどうするのだ。残念ながら、その可能性は否定できません。そして、対策もありません。ミサイルを発射する前にミサイル基地を破壊するしかないでしょう。でも、相手がミサイルを発射する前に軍事力で破壊することは許されてはいません。国際的にも打つ手のない穴なのです。北朝鮮からミサイルが飛んでくるかもしれないという状況は、いまでは米国も同じです。その米国もなにも出来ないのです。

4) 考えられること全てに対策をしたいのは当然ですが、このようにどうしようもないこともあるのです。だからと言って、上記にいろいろ書いたように、国内に向けてもリスクの高い行動は避けるべきだと思います。1945年までの戦争に関して国としての反省をしないうちに軍隊を作ったりすることは絶対に避けるべきだと思います。

すなわち、北朝鮮から飛んでくるかもしれないミサイルの恐怖よりも、過去の戦争の反省なしに日本に軍隊が出来て1930年から1945年までの軍国主義的な世の中になってしまうかもしれない恐怖の方がずっと大きいと筆者は考えています。

最近の若い者がだらしない？

自民党の中では、1) 最近の若い者がおかしい、だからみんながちゃんとしていた昔に戻そう。

2) 最近個人が要求ばかりして義務を果たそうとしていない。だから憲法を改正して個人を抑え、家族を表面に立てよう。という意見が行き渡っているという文を読みました。これが自民党が公表している憲法改正案に強く出ています。

1) 最近の若い者がおかしい、、、そういう風潮を作り、風潮だけを使って自分たち（権力を持った自分たち）に都合のいい社会を作ろうとしているのだと疑うべきです。

2) 若い人たちのどこがどのようにおかしいのでしょうか。そういうい問題な事項を列記した表を作っているのでしょうか。そういう具体的な検討なしに政策や政治の方向を出すことは、許されないと思います。「雰囲気」、「空気」による政治がどのような結果に到るのか、1945年の大敗戦で懲りたはずです。

3) 家族を大事にしよう、ということだけを聞けば、そうだ、悪くない、と思うのしょうが、実は家族を通じて個人を支配する、個人の勝手な行動を防ぐという政治的な狙いがあるのです。1945年までの日本が代表的な例です。

4) 筆者も家族がすいぶん変わってしまった、と思っている一人ですが、社会自身が常に変わっていくものですから、筆者の子供の頃の家族と違うのは当然で、変化したこと自体は問題ではないと思います。

5) 現在の政権の議論（?いま政府で行われている議論や諸検討は議論になっていない、議論という定義を満足していないのですが）の中で、これではいけないと思うのは、日本的ではないからだめ、とか、若い人たちの振る舞いが気に入らない、ということが出発点になっていることです。多くの人々が幸せと感じる社会にするにはそうすべきか、ということが出発点となるべきです。この出発点を忘れて政治を議論することは間違っています。

6) 家庭については、定常化している夜遅くまでの残業が大きな影響を与えていると思います。土日以外は父親の顔を見ないで暮らす子供たち、そして土日も疲れて父親は子供たちの相手をしたくてもできない、という状況が家庭を大きく変化させています。

7) スマホも大きな影響を与えていると思います。同じ机を囲んでいても、こどもたちだけでなく母親、父親もスマホを見ていて会話をしない、というのはわれわれ世代から見ると異常に見えます。

8) 家庭を議論するのであれば、上記のような具体的な点をひとつひとつ調査し、議論・検討すべきです。それなしにいきなり憲法を改正しようとするのは絶対に間違っています。

参考文献

参考文献

- 1) 太平洋戦争の歴史（上）、（下） 黒羽清隆 1985 講談社現代文庫
- 2) 亡国の安保政策 - 安倍政権と「積極的平和主義」の罨 柳沢協二 2014 岩波書店
- 3) 日本は戦争をするのか - 集団的自衛権と自衛隊 半田 滋 2014 岩波新書
- 4) がけっぷち国家 日本の決断 - 安倍政権の暴走と自主独立への提言 孫崎 享 マーティン・ファクラー 2015 日本文芸社
- 5) 日本人は人を殺しにいくのか - 戦場からの集団的自衛権入門 伊勢崎賢治 2014 朝日新書
- 6) 新・戦争論 - 僕らのインテリジェンスの磨き方 池上 彰 佐藤 優 2014 文芸新書
- 7) 日米開戦の正体 - どうして真珠湾攻撃という道を選んだのか 孫崎 享 2015 祥伝社
- 8) 日本人はなぜ戦争へと向かったのか（上）、（下）、（戦中編） NHK取材班 2011 NHK出版
- 9) 永続敗戦論 - 戦後日本の核心 白井 聡 2013 太田出版
- 10) アベノミクス批判 - 4本の矢を折る 伊東光春 2014 岩波書店
- 11) 新・戦争学 松村 劭 2000 文春新書
- 12) 大型特集「これだけは知っておきたい戦争の真実」 渡邊恒雄、保坂正康 他 2014 . 9 文芸春秋
- 13) それでも日本人は「戦争」を選んだ 加藤陽子 2009 朝日出版社
- 14) とめられなかった戦争 加藤陽子 2011 NHK出版 さかのぼり日本史
- 15) 朽ち果てぬ知恵を求めて 市川須美子、浜矩子ほか 2015 桐書房
- 16) 新・戦争のつくりかた りぼん・ぷろじえくと 2014 マガジンハウス
- 17) 戦後史の正体 孫崎 享 2012 創元社
- 18) インパール作戦敗軍行 田代三良 秋谷徹雄 2000 本の泉社
- 19) 日本はなぜ「基地」と「原発」を止められないのか 矢部浩治 2014 集英社
- 20) 私の「戦後70年談話」 日野原重明 不破哲三 ほか 2015 岩波書店
- 21) ガダルカナル戦記 亀井 宏 2015 講談社文庫
- 22) 知覧からの手紙 水口文乃 2010 新潮文庫
- 23) 新版 きけわだつみのこえ 日本戦没学生記念会編 2011 岩波文庫

- 24) 第二集 きけわだつみのこえ 日本戦没学生記念会編 2011 岩波文庫
- 25) 戦争はなぜ起こるか 佐藤忠雄 2001 ポプラ社
- 26) そして戦争は終わらない D. フィルキンス 有沢訳 1009 NHK出版
- 27) 茶色の朝 フランク・パブロフ、ヴィンセント・ギャロ 藤本一勇 2003 大月書店
- 28) 失敗の本質 ー日本軍の組織的研究 戸部良一ほか 1991 中公文庫
- 29) 科学者は戦争で何をしたか 益川敏英 2015 集英社新書
- 30) 大人のための昭和史入門 半藤一利ほか 2015 文春新書
- 31) 「昭和天皇実録」を読む 原 武史 2015 岩波新書
- 32) 戦場体験者 沈黙の記録 保坂正康 2015 筑摩書房
- 33) 安倍政権への遺言 田原総一郎 2015 朝日新書
- 34) 奇聞・太平洋戦争 戦後70年企画 2015 文芸春秋 文芸ムック
- 35) 日米の教科書 新聞でくらべる太平洋戦争 2015 辰巳出版
- 36) 艦爆隊長の戦訓 安倍善郎 2013 光人社NF文庫
- 37) いま語らねばならない戦前史の真相 孫崎 享 鈴木邦男 2014 現代書館
- 38) 保守と右翼 八木秀次 河野洋平 鈴木邦男 2015 朝日新聞デジタルSELECT
- 39) 日本人の「戦争」 古典と死生の間で 河野 宏 2015 講談社学術文庫
- 40) 平和ボケした日本人のための戦争論 長谷川慶太郎 2014 ビジネス社
- 41) 近代日本の右翼思想 片山杜秀 2015 講談社選書メチエ
- 42) 「昭和天皇実録」を読む 原 武史 2015 岩波新書
- 43) 生と死のはざまを生きて 一兵庫空襲の記録 創価学会青年部反戦出版委員会

1983

第三文明社

- 44) 中国侵略の証言者たち ー「認罪」の記録を読む 岡部、萩野、吉田 2010 岩波新書
- 45) 証言 南京事件と三光作戦 森山康平 太平洋戦争研究会編 2007 河出文庫
- 46) 安倍政権の裏の顔 「攻防 集団的自衛権」ドキュメント 朝日新聞政治部取材班 2015
- 47) 決断の本質 ー日本人の戦争と平和ー 野中、戸部、河野 2015 ダイアモンド社
- 48) 世界から戦争がなくなる本当の理由 池上彰 2015 祥伝社
- 49) 仮面の日米同盟 ー米外交機密文書が明かす真実ー 春名幹男 2015 文春新書
- 50) 米国が隠す日本の真実 岩上、植草、川内、木村 2015 詩想社
- 51) 検証 安倍イズム ー胎動する新国家主義 柿崎明二 2015 岩波新書
- 52) 「日本国憲法」をまっとうに議論するために 改定新版 樋口陽一 2015 みすず

書房

- 53) あの戦争は何だったのか 保坂正康 2005 新潮新書
- 54) くちなしの花 石垣貴千代 出版芸術社 2002
- 55) 「憲法改正」の真実 樋口陽一、小林節 集英社新書 2016. 3
- 56) 憲法に緊急事態条項は必要か 永井幸寿 岩波ブックレット No. 945 2016. 3
- 57) 愛国と信仰の構造 中島岳志 島園進 集英社新書 2016. 2.
- 58) マインド・コントロール 岡田尊司 文春新書 2016. 4.
- 59) 日本会議の研究 菅野 完 扶桑社新書 2016. 5.
- 60) 日本会議とは何か：「憲法改正」に突き進むカルト集団 上杉 聡 2016. 5